

# The Lifestyle and Articles of Everyday Use of Hinoemata (1): From a Research on Materials Stored in Wooden Storehouses in Hinoemata Village, Minami Aizu Gun, Fukushima Prefecture

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2023-03-22 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 金子, 祥之, 庄司, 貴俊, 増藤, 雄大 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://tohoku-gakuin.repo.nii.ac.jp/records/25056">https://tohoku-gakuin.repo.nii.ac.jp/records/25056</a>

# 檜枝岐の暮らしと民具（一）

——福島県南会津郡檜枝岐村における板倉保管資料の調査から——



民具に着想を得て作られていた民芸品（檜枝岐村提供）

2023 年

東北学院大学文学部歴史学科  
環境民俗学（金子）研究室編



## 例 言

1. 本稿は、2021年度の「民俗学実習Ⅰ・Ⅱ」、および、2022年度の「民俗学論文演習Ⅰ・Ⅱ」の成果報告書である。今回の民俗実習は、福島県南会津郡檜枝岐村において、教育委員会のご協力のもと、実施させていただいた。
2. 本稿の基礎となる調査は、2021年度の民具整理・調査と、2022年度の現地での聞き取り調査である。いずれの調査も金子祥之（文学部歴史学科准教授）が指導にあたり、民具整理にあたっては、渡邊久美子氏（東北学院大学アジア流域研究所客員研究員）に、また聞き取り調査では、庄司貴俊氏（東北学院大学人間情報学研究所客員研究員）にご協力いただいた。

2021年度・2022年度の両調査には、つぎに記す15名の学生が参加した。秋葉貴人・遠藤日向子・小野寺みず穂・笠井美里・金崎純果・鹿又未来・上平裕也・橘川遼・今野瑞樹・鈴木奏来・高橋聡太・増藤雄大・間宮龍晟・森太一・渡邊拓海である。このうち聞き取り調査では増藤雄大、資料整理では笠井美里、写真撮影では今野瑞樹がリーダーとなって進めた。

3. 本稿全体の編集は、金子祥之・庄司貴俊・増藤雄大の3名で実施した。民具調査・聞き取り調査、その後のデータ整理から文字化までは、参加者全員が行なった。そのうえで、文字化した基礎データをもとに、3名で文章化・加筆修正を実施した。したがって、最終的な文責は金子・庄司・増藤にある。

具体的な執筆の分担は以下の通りである。

はじめに 本稿の目的と構成（金子祥之）

第1章 生活用具（庄司貴俊）

第2章 山樵用具（庄司貴俊）

第3章 漁撈・狩猟用具（金子祥之）

第4章 大工・屋根葺き・馬具用具（金子祥之）

第5章 ヘラ・シャクシ用具（増藤雄大）

第6章 運搬・遊戯・その他の用具（増藤雄大）

おわりに（金子祥之）

4. 多くの方のみなさまのサポートがあった。貴重なお話をさせていただいた話者は、橘タツ子氏、平野郁文氏、平野カツヨ氏、平野ケイ子氏、平野幸子氏、平野千代一氏、平野紀夫氏、平野励氏、平野増子氏、星清夫氏、星甫氏、星長一氏、星チヨセ氏、星フミ氏（五十音順・順不同）である。調査企画・実施にあたりご協力いただいたみなさまは、平野暁史氏、平野信之氏、平野勝氏、星弘樹氏、星光祥氏、星満氏（同）である。檜枝岐村のみなさまのご協力に、深く感謝申し上げます。





口絵写真 1: 移設された板倉群



口絵写真 2: 板倉の解体



口絵写真 3: 移送前の民具



口絵写真 4: 民具整理



口絵写真 5: 民具整理②



口絵写真 6: 民具整理③



口絵写真 7: オンラインでの聞き取り調査



口絵写真 8: 展示準備





口絵写真 9: 大学祭での展示



口絵写真 10: 質問紙作成



口絵写真 11: 第1回調査①



口絵写真 12: 第1回調査②



口絵写真 13: データ整理



口絵写真 14: 第2回調査①



口絵写真 15: 第2回調査②



口絵写真 16: 第2回調査③

## 目 次

はじめに：本稿の目的と構成	101
1. 本稿の目的	101
2. 調査の実施状況と方法	103
3. 語りを活かした記述	104
4. 資料分類と本稿の構成	106
第1章：生活用具	111
1. 生活用具の概要	111
2. 雨具・防寒具	112
テッカワ    シッカワ    ツケミノ①    ツケミノ②    ツケミノのお土産品 ミノの種類	
3. 履物類	113
ワラジ    アシナカ    アシナカとワラジ    子どもと履物 ワラジの民芸品①    ワラジの民芸品②    ワラジの民芸品③ ワラの入手①    ワラの入手②    ワラヒキ（ワラの入手）③ ムシロ    麻・シナ    麻    シナ    シバクサ    ヒロロ（スゲ） ガマ    ワラグツ・クツ    ワラグツ・ツボクツ②    ワラグツの製作① ワラグツの製作②    フカグツ①    フカグツ②    フカグツ③ 履物づくり    足袋    カンジキ    千代一さんのカンジキ作り カンジキの歩き方    カナアシ①    カナアシ②    カナアシ③ カナカンジキ④    カナカンジキ⑤	
4. いろり・照明用具	125
カギサマ〔自在鉤〕    マッコ    マッコゼン    杉っば    カンテラ ロウソク	
5. 除雪用具	127
コシキ①    コシキ②    コシキと雪払い    雪かきの思い出	
第2章：山樵用具	130
1. 山樵用具の概要	130
2. 木挽用具：ナタ・ヨキ	130
コシナタ    ヨキ①    オノヨキ②    オノヨキ③	
3. 木挽用具：伐採用ノコギリ	132
ノコギリの使い分け①    ノコギリの使い分け②    伐採と仲間    ノコギリ①	



ノコギリ②	ノコギリ③	ノコギリ④	テマガリ①	
テマガリ②	チェーンソーの導入①	チェーンソーの導入②	マドノコ①	
マドノコ②	マドノコ③	マドノコ④	マドノコ⑤	ノコの手入れ①
ノコの手入れ②	ヤスリ①	ヤスリ②	ノコギリのサヤ	
サヤと柄①	サヤと柄②	伐採後の植林	カナヤ	
4.	木挽用具：製材用ノコギリ.....			142
	メービキ①	メービキ②	メービキ③	メービキとマドノコ①
	メービキとマドノコ②	檜枝岐村林産所	製材	営林署
5.	搬出用具.....			144
	ガンタ	キマワシ〔木回し〕	カスゲー〔鏝〕	マンリキ①
	マンリキ②	チンチョ	トビグチ	ドットコ
第3章：	漁撈・狩猟用具.....			148
1.	漁撈・狩猟用具の概要.....			148
2.	川・沢での漁撈.....			148
	魚捕り	カジカヤス①	カジカヤス②	カジカヤス③
	カジカ	カジカの好み	ヒキバリ	ハコメガネ
	ヒキバリのアギ	ヒキバリの事故	冬のヒキバリ	ニゴスタイ
	ズー	大イワナ①	大イワナ②	大イワナ③
	檜枝岐魚苑			
3.	サンショウウオ漁.....			153
	サンショウウオ漁	山菜採りとサンショウウオ漁		
	サンショウウオの捕獲場所	ズーの使い方と変化	ズーの作り方	
	サンショウウオ漁の歴史	サンショウウオの販売		
	サンショウウオの食べ方①	サンショウウオの食べ方②		
4.	クマ狩り.....			157
	クマヤリ①	クマヤリ②	郁文さんの経験談	
	励さんの経験談	千代一さんの経験談	クマの胆①	クマの胆②
	クマの出没	クマを食べる①	クマを食べる②	クマを食べる③
	タマイレ（弾入れ）	クマの毛皮①	クマの毛皮②	
	クマの爪・牙	クマの利用		
5.	小動物の狩猟			
	ニホンカモシカの生態	郁文さんの経験談	ハサミ（両バネ）	ハサミ
第4章：	大工・屋根葺き・馬具用具.....			166
1.	大工・屋根葺き・馬具職人用具の概要.....			166
2.	カンナ.....			167
	カンナ①	カンナ②	ニチョウガンナ〔二丁鉋〕	ソリガンナ〔反鉋〕



目 次

ミゾキリカンナ〔ジャクリ鉋〕①	ミゾキリカンナ〔ジャクリ鉋〕②	
3. ノコギリ		169
ノコギリ〔鴨居挽鋸〕①	ノコギリ〔鴨居挽鋸〕②	ドウヅキ〔胴付鋸〕
両刃ノコギリ①	両刃ノコギリ②	ガガリ〔ガガリ鋸〕①
		ガガリ〔ガガリ鋸〕②
	ノコギリの目立て	ノコギリの柄
4. ノミ・セン・チョウナ		172
タタキノミ	シコミノミ①	シコミノミ②
ツキノミ〔突き鑿〕①	ツキノミ〔突き鑿〕②	
クサビ①	カクゼン〔角栓〕②	チョウナ〔手斧〕①
		チョウナ〔手斧〕②
ボート〔ボート錐〕①	ボート〔ボート錐〕②	ボート〔ボート錐〕の柄
鍛冶屋	道具の行商	
5. 屋根葺き・馬具用具		177
屋根バサミ	馬の荷鞍の型	馬
		疱瘡神
第5章：ヘラ・シャクシ用具		180
1. ヘラ・シャクシ用具の概要		180
2. 木取りから加工工程		181
シャクシの利用	シャクシ道具	ワリナタ
		ヒッコミノコ
セン・ヒラセン①	セン・ヒラセン②	セン・ヒラセン③
		セン・ヒラセン④
セン・ヒラセン⑤	エケズリセン〔柄削りセン〕	
3. 成型工程		187
ツラキリナタ・メービキナタ①	メービキナタ②	メービキナタ③
ドンビンナタ①	ドンビンナタ②	シャクシの型①
		シャクシの型②
キザミナタ①	キザミナタ②	キザミナタ③
		ナタ
		テッチテッチ
4. 仕上げ工程		193
マルエゼン①	マルセン②	マメジャクシ〔豆杓子〕用マルエゼン
デバ①	デバ②	センデバ
		エグリゼン①
		エグリゼン②
エグリゼン③	コッパ〔木っ端〕①	コッパ〔木っ端〕②
マルノミ①	マルノミ②	マルノミ③
		ユリハ〔ユリノハ〕
		カンナ
5. シャクシ製作にかかわる語り		199
甫さんの経験談	シャクシ小屋	シャクシの組①
		シャクシの組②
第6章：運搬・遊戯・その他の用具		203
1. 運搬具・遊戯具・その他の概要		203
2. 運搬具		203

ショイコ・ショイッコ①	ムシロミノ (ショイコ) ②	
ムシロミノ (ショイコ) ③	ガバ・エジッコ	エジッコ
コンブクロ	オオゾリ①	オオゾリ②　オオゾリ③
3. 遊戯具.....		206
ソリ①	ソリ②	ソリ③　ソリ④　冬の子どもの遊び
スキー①	スキー②	スキーと油
4. その他.....		209
ビンと手紙	手紙の記載内容	山での遭難　雪崩
檜枝岐言葉①	檜枝岐言葉②	
おわりに : .....		212
引用文献一覧.....		214
資料目録.....		215

## はじめに：本稿の目的と構成

### 1. 本稿の目的

本稿の目的は、檜枝岐村の民具資料の調査から、かつてこの地域において、どのような生活が営まれていたのかを明らかにすることである。

本稿が対象とするフィールドは、福島県南会津郡檜枝岐村である（図1）。檜枝岐は、ユニークな特徴をもつ、興味をひかれる村である。自然環境の面から述べると、村内には東北最高峰である燧ヶ岳ひのえまたひら（2,356 m）があり、村の周囲を2,000 m級の山々がとり囲む。日

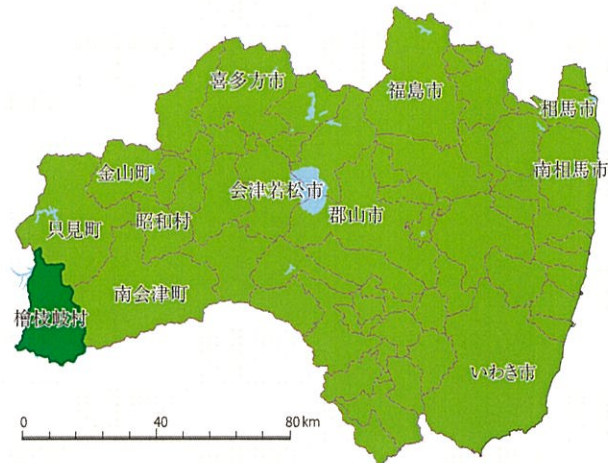


図1：檜枝岐村の位置

本有数の豪雪地帯としても知られており、根雪日数は140日を超える。一年の半数近くが雪との暮らしである。

社会環境に目をむけると、2022年4月時点の人口は、わずかに519人である。日本全体で見ても小規模自治体であり、東北地方ではもっとも人口規模の小さな村である。そのため、小さな村g7サミットの東北地区代表となっている。一方で村の面積は390.46 km<sup>2</sup>にも及ぶことから、日本一人口密度の低い自治体でもある。

こうした数字を並べると、過疎・高齢化が進行した村が思い浮かぶかもしれない。しかしながら、2021年3月時点の高齢化率は37.01%と、周囲の自治体と比べると低い数値である。また、尾瀬の玄関口にあたることから、檜枝岐にはコロナ以前のデータであるものの、尾瀬への入山者ベースで7万人強、宿泊者数で2万人強の人びとが観光に訪れる。過疎・高齢化と無縁とまでは言えないが、檜枝岐は尾瀬を介して多くの人びととつながりながら、魅力的な地域づくりを行なっている小さな村なのである。

本稿はその檜枝岐村を対象とした、民具を中心とする民俗調査の成果報告である。なぜ、私たちが檜枝岐村において、民具資料、すなわち生活道具の調査を実施することとなったのか、その理由を記しておきたい。

じつは、本調査を実施するきっかけは、2020年から急速に拡大した新型コロナウイルス感染症である。民俗学は地域の生活文化を研究対象としてきたから、基本的な調査方法は、生活文化をよく知る高齢者への聞き取り調査を軸としてきた。ところが、コロナ禍にあって、高齢者へのインタビュー調査を実施することは、事実上不可能となった。高齢者



は感染リスクの高い層となり、接触することは困難となってしまったからである。加えて、私たちが調査対象とするフィールドは、一般的に都市部から離れており、医療資源も乏しい場所であることが少なくない。檜枝岐もそうした地域であり、コロナ禍は民俗調査どころではない状況を作り出した。

こうしたなかで、聞き取り調査とは別の方法で、民俗学を志す学生たちにとっても、協力してくださる地元のみなさまにとっても、意義ある調査・研究ができないかと模索する日々が続いた。教育委員会や観光課のみなさまとも相談し、民具調査を実施する方向が見出された。人を対象とする調査ではなく、モノを対象とする調査であれば、コロナ禍にあってもなんとか実施できるのではないかと考えたからである。

ところで、檜枝岐の人びとは、何度も大火に見舞われてきた経験から、村はずれにクラヤと呼ばれる、板倉を設けてきたことが知られている（口絵写真1）。板倉が作る特徴的な景観について、今野圓輔の『檜枝岐民俗誌』には、つぎのように記されている。

この村へ入って来た旅行者の眼に入る建築物の異様な風景の一つは、人の全く住まない小さな板囲いの小屋がたくさん点在していることである。これは、この村の特色の一つとされている。クラヤと呼ばれている物置小屋の板倉である。その総ては人々の起居する家から離れた場所に独立して建てられているが、これは火災予防のためなのである。このクラヤの総数は約百三十棟で、総戸数百一戸を上回っている。…常住の家屋には最少限度の日用品だけを出して置き、他はことごとくこの火の気の全くないクラヤにしまっており、必要の都度取り出されている。家がやけても道具や貯蔵食料は焼けぬ仕組みである。[今野 1974 (1951) : 19]

現在では、かつてのように火事の心配はなくなり、普段使いのものまでを板倉にしまうことはなくなった。むしろ板倉は、普段使いではないものを保管する場となっており、建て替えも進んでいる（口絵写真2）。

村の教育委員会では、板倉に保管されていた古道具を民具資料と評価し、資料が廃棄されないように努めてこられた。星長一氏は、「板倉壊すっていうときに、中のものを大体みんな捨てるんで。捨てる前に気が付けばこっちから出向いて、そのままこれを出してくれ〔村に寄贈して欲しいとい〕って、引き取ったんだけど」と語っておられた。

こうした努力があって、民具資料が集められたが、もともと長らく板倉に保管されていたままとっていた資料であり、すぐに活用できるような状況になかった。廃棄を免れたものの、別の保管場所に集められたのち、いわば「眠った状態」になっていた。

こうして眠った民具が村に多く残されていたから、非接触型で実施できる民俗調査として、民具調査が選ばれたのである。

## 2. 調査の実施状況と方法

私が現地に向かったのは、第5波の兆候が見られるなかで、東京五輪が強行されていた時期である。2021年8月4日から5日にかけて、民具資料の確認に出向いた。コロナ禍になってから、初めての訪問であったため、こちらには緊張感があった。だが村のみなさんは穏やかな様子であった。というのも、檜枝岐村は医療資源が乏しいことから、優先的なワクチン配布と接種が行なわれていた。接種が始まったばかりの2021年5月ごろには、すでに村民の多くが接種を完了していた状況であった。

現地で保管場所を確認すると、複数の板倉から持ち出された民具資料が、収納されていた。多くの民具が雑然と置かれているようで、あくまで印象に過ぎないが、元の持ち主ごとに収納されているのではなく、種類別に置かれているように思われた。残念ながら、収集する過程でどの家のクラヤにあったものか、あるいは誰から提供を受けた資料であるのか、といった記録はとられていなかった。クラヤの解体を目の当たりにし、慌てて収集された民具であるだけに、そうしたことも仕方がないことである。

ただ一方で、持ち主を意識して置かれた可能性もあるとの説明も受けたため、整理にあたっては、保管場所がわかるように努めた。後掲の資料目録では、大きくA・B・C・D・Eという記号を用いて分類している。これらが保管場所に対応している。A・B・Cは、それぞれ入口を背にして倉庫の右側、中ほど、左側に置かれていたことを示している。Eは保管場所に立てかけられていたソリである。

Dは村の歴史民俗資料館に、新たに提供された資料である。出版社の白日社から寄贈を受けたものであるという。白日社は、かつて志村俊司が村の故老たちに丁寧な聞き書きを行なって編まれた『山人の賦』を刊行した出版社である〔志村編 1984；1985；1988〕。おそらく、これらの書籍の編集にかかわって、村の人びとから提供があった民具であると思われる。

資料を本学へ移動したのち、清掃作業を実施し、資料の整理分類を進めた。資料整理を進めるうえで、新潟山古志での民具整理の経験がある渡邊久美子氏のご協力を仰いだ。調査方法・整理方法を学んだうえで、2021年度の夏季休暇期間～後期にかけて、資料整理・撮影を進めた。

整理を進める間に、私たち自身の資料への理解を深めるためにも、シャクシ道具を中心としたミニ展示を実施した。具体的には、2021年10月23日24日の東北学院大学祭（六軒丁祭）の教室展示である。第5波がようやく収束したばかりの時期であったため、事前登録の関係者しか参加できない、コロナ禍の色彩の強い大学祭であった。それでも80名近い方々に展示をご覧いただいた。なお、この時の様子は、2021年11月6日の河北新報、および檜枝岐村公民館報に掲載された。

オンラインでの聞き取り調査も試みていたものの、整理を進めるなかで、学生たちから現地に足を運びたいという声があがってきた。この調査報告を作成するにあたり、2度の



現地調査を実施した。当初は、2022年3月に檜枝岐村調査を計画した。だが第6波のただ中となってしまい、やむを得ず中止することとなってしまった。

実際に現地に行くことができたのは、第6波が収束しつつあった、2022年6月である。前回は参加者の都合を優先し日程を決めたが、このときは感染状況を見ながら、状況が落ち着いたらときに、行ける人で行くという方針に切り替えた。2022年6月29日から7月2日までの調査であり、6名が参加した。

二度目の調査は、第7波が収束に向かった2022年10月31日から11月4日にかけて実施した。このときには、14名が参加することができた。以上、2回の調査で、調査に参加した学生全員が、少なくともいちは現地に足を運ぶことができた。

もっともコロナ禍であったため、参加にあたっては、ワクチン接種を受けるか、公的機関での検査を受けてから参加するかたちをとった。また聞き取り調査をする学生は、調査前に簡易検査を実施し、陰性を確認してから調査に出向いた。言うまでもないことだが、コロナ禍以前の調査では、想像もつかないような対応が求められた。

当初はあきらめていた聞き取り調査も、こうして流行が収まった時期に、なんとか実施することができた。ひとえに、村のみなさまのご協力のおかげである。6月の第1回調査の際には、教育委員会の入る東雲館の会議室に出向いていただき調査を実施した。第2回調査の際には、通常の民俗調査のように、各ご家庭を訪問させていただくかたちをとった。

聞き取り調査の際には、事前に撮影した民具をA4用紙に印刷し、くわえてPCのモニターに画像を表示しながら、その民具について聞き取りを進めた。モノ資料を整理しただけではわからない多くの情報を得ることができた。おもに民具の名称・使用方法・製作方法・購入先などを聞き取った。

### 3. 語りを活かした記述

写真を使った聞き取り調査は、こちらが想像するより有効であった。近年、民俗学においても、写真を活用したフィールドワークが実践されるようになってきている。たとえば門田岳久は、宮本常一の撮影した古写真を用い、「住民に提示しながら過去の記憶に関する想起的な語りや、そこから引き出される自由な語りを収集」〔門田・小西 2018、門田 2022〕する試みがなされている。

効果的なフィールド調査技法であり、今後、写真を使ったフィールドワーク（フォトエリシテーション）は、調査手法として、確立してゆくことになるだろう。ただ写真を用いることのデメリットがあることも事実である。写真を用いることは想起的ではあるけれども、「自由な語り」とはいえない側面もある。古写真は、かつてこの地域にこのような営みがあったことを、確定的な事実として、話者に突き付けることになるから、そこからはみ出すような語りは制限されてしまいかねない。加えて民具調査の場合には、スケールがわからなくなりがちで、シャクシ道具のナタの種類は微妙な大きさの違いしかないため、

写真を用いた調査の課題も感じられた。

檜枝岐村はこれまで、多くの研究者を受け入れてきた。民俗学にとっても、多くを学んできたフィールドである。早川孝太郎・今野圓輔・山口弥一郎などの錚々たる民俗学者が、優れた民俗誌を残している [早川 1939 (1978)・今野 1951 (1971)・山口 1964]。とりわけ、今野による『檜枝岐民俗誌』は、東北地方を代表する民俗誌とってよい地位を獲得している。

分厚い民俗誌が多く残されてきたのと比較すると、村の民具についての調査は、限定的である。それでも佐々木長生・須藤護によって、注目すべき調査が行なわれている [佐々木 1982; 2015、須藤 1980; 1990; 1993]。

佐々木長生は会津只見を中心とした、会津地方の民具調査で傑出した業績を残す研究者である。会津地方の民具を理解するため、檜枝岐村の民具についても分析している [佐々木 1982]。会津地方の民具の総合的理解を目指す佐々木の成果は、東北地方の民具を理解するうえで、欠かすことのできない業績となっている。

佐々木が会津地方の民具の「総合的な理解」を目指したのと対比させると、須藤護は、「ある家にとっての民具の体系」を把握しようとした点が特徴的である。たとえば、かつて行なわれていた出作りを民具から理解するために、ある1軒の山小屋に保管されていた民具の整理を試みている [須藤 1990]。限定的であるとはいえ、民具についても、こうした優れた先行研究が残されている。

先行研究と対比させて、本稿の特徴をあえて見出すならば、地元の人びとの語りを活かした記述を試みたという点にある。すなわち、本稿では、先人たちの生活用具を、自らの言葉によって語っていただき、それらを記録するという方法をとった。

類似した方法をとったものに、加藤幸治による文化財レスキュー事業がある。東日本大震災の津波被災地を舞台に、加藤は被災した民具のレスキュー事業に取り組んだ。重要なのは、民具を救出・保存するだけでなく、展示を介して民具についての語りを引き出し、語り合う取り組みをした点である [加藤 2017]。

偶然にも、コロナ禍でのフィールドワークの模索から、民具から生活経験を語り合う試みへと、被災民具での試みと類似の展開してゆくこととなった。この試みにより、充実したデータを得ることができた。だが、私たちの場合、今になって振り返ると、聞き取り調査をする際に、もう少し点数をしぼる選択をしなければならなかったように感じている。すべての民具について聞きたいという気持ちが先走り、必要な項目を聞き取ることに注力しすぎてしまったきらいがあるからである。

本稿の調査では、調査項目以外の人びとの生活経験をじっくりとお聞きする機会が限られてしまった。その意味で、加藤が実践したような創発的な活動にはなりえていない。こうした点については、今後の調査を通じて補っていきたいと考えている。

本稿での「語り」と編集について、ふれておきたい。すでに述べたように、本稿では民



具の写真を見ていただきながら、地域の人びとに語っていただいた内容を収録した。その際には、意図が通りやすくなるような編集を加えている。具体的には、発話の順序を入れ替え、また〔 〕を付して、そこに意味を補った。語られた内容に忠実にあろうとしたが、語られた内容を羅列したわけではない。

語り手には、14名のみなさんにご協力いただいた。橘タツ子氏、平野郁文氏、平野カツヨ氏、平野ケイ子氏、平野幸子氏、平野千代一氏、平野紀夫氏、平野励氏、平野増子氏、星清夫氏、星甫氏、星長一氏、星チヨセ氏、星フミ氏（五十音順・順不同）である。話者のみなさまは、女性7名、男性7名であり、年齢は50代から90代までとなっている。できるだけ、さまざまな背景を持つ方々の語りを得ようと試みた。

#### 4. 資料分類と本稿の構成

資料整理を進めるなかで、檜枝岐村の民具整理に適当なかたちの民具分類を検討する必要に迫られた。今回整理した資料は、保管資料の一部であり、おそらく全体の3分の1程度である。そのため、手元にある資料だけではなく、全体を含みこむことができるような分類を心掛け、先行研究を参照しながら、表1（檜枝岐村民具分類表）の分類にもとづいて整理してゆくこととした。この分類表には、今回調査対象となった民具資料は含まれない類型が多いが、それは未整理資料が多数残されているためである。

本稿では、この分類表を活用しつつ論を進める。分類表を活用することにより、民具資料を種類別に整理し、理解することが可能になるのは大きな利点である。ただ、もともと資料群が有していたまとまりを崩し、私たち研究者側の分類によって並び替えてしまうことにもなるのも事実である。

種類別に並び替えてしまうことでのデメリットがとくにあらわれるのは、今回の調査で対象となった5つの道具箱である。道具箱には、さまざまな民具が詰めこまれていたが、もとの所有者の仕事観が反映したものと考えられる。そこで、具体的な整理に入る前に、5つの道具箱の全体像を示しておきたい。

5つの道具箱は、具体的には、大工道具の道具箱1点と、シャクシ道具の道具箱が4点であった。このうち、2点は墨書きがあった。

シャクシ道具①（資料番号：A-9）は、御山箱と記された昭和18（1943）年の道具箱である。墨書きは箱とフタにある。フタには表面「山業安全 手足萬足」裏面「昭和十八年（満）師走吉祥日 御山箱 製造人 星芳吉一・平野保友 十七・十六才處有」とある。箱の側面には「必勝之信念 国民総動員 武運長久」、底部には「国を思ふ道にニツはなかりけり戦の庭に立つも立たぬも」の歌が詠まれている。

シャクシ道具の道具箱④（B-21）は、明治15年の記念銘があった。「明治十五年十月吉日 持主二三郎 年十七才」と墨書きされていた。

墨書きの人物と、箱を最後の時点で所有していた人物が対応するか否か、現時点では判

檜枝岐の暮らしと民具 (一)



大工道具の道具箱 (A-11)



シヤクシ道具の道具箱① (A-9)





シャクシ道具の道具箱② (A-10)



シャクシ道具の道具箱③ (B-20)





シャクシ道具の道具箱④ (B-21)

明していない。だが、少なくとも最後に道具箱を使っていた人物が、どのように仕事に向き合っていたのかを知る手掛かりになるはずである。個々の資料を分類してしまう前に、資料そのものがもっていた体系を確認しておいた。また資料番号からも、それらが確認できるようにになっている。

以下、本稿では、表1の民具資料分類にしたがって、第1章：生活用具、第2章：山樵用具、第3章：狩猟・漁撈用具、第4章：大工・屋根葺き・馬具用具、第5章：ヘラ・シャクシ用具、第6章：運搬・遊戯・その他の用具の順に記述を進めていくこととする。なお巻末に資料目録を付した。今後も整理が継続されることから、現時点での仮目録である。

本稿は、コロナ禍の制約のなかで、取り組むことのできる内容を模索し続けた結果、できあがった。檜枝岐村の民俗を理解する資料として、またコロナ禍の試みの成果として、お読みいただければ幸いである。

表1: 檜枝岐村民具分類表

大分類	中分類	小分類										
		(A) 服物	(B) 雨具・防寒具	(C) 履物類	(D) かぶりもの	(E) 結髪・化粧用具	(F) 裁縫・洗濯用具	(G) その他	(H) その他			
1 生活用具	(1) 衣類	(A) 服物	(B) 雨具・防寒具	(C) 履物類	(D) かぶりもの	(E) 結髪・化粧用具	(F) 裁縫・洗濯用具	(G) その他	(H) その他			
	(2) 食生活用具	(A) 食料	(B) 炊事用具	(C) 調理用具	(D) 加工用具	(E) 保存用具	(F) 飲食器	(G) 嗜好品用具	(H) その他			
	(3) 住居用	具 (A) いろいろ用具	(B) 暖房用具	(C) 照明用具	(D) 家具・調度	(E) 寝具	(F) 除雪用具	(G) 建築・儀礼用具	(H) その他			
2 生業・生産用具	(1) 自然物採集	(A) 採集用具	(B) 処理・加工用具	(C) その他								
	(2) 農耕用具	(A) 焼畑用具	(B) 耕作用具	(C) 管理用具	(D) 収穫・脱穀用具	(E) 調整・選別用具	(F) 儀礼用具	(G) その他				
	(3) 山産用具	(A) 山小屋等の施設	(B) 木挽用具	(C) 搬出用具	(D) 炭焼用具	(E) 林産系関係用具	(F) その他					
	(4) 漁撈用具	(A) ヒキカギ類	(B) ヤス類	(C) ウナギ類	(D) 網類	(E) 釣具	(F) その他					
	(5) 狩猟用具	(A) ヤリ・ワナ類	(B) 銃砲用具	(C) 加工用具	(D) 運搬用具	(E) 衣類	(F) 飲食用具	(G) 信仰用具	(H) その他			
	(6) 養蚕用具	(A) 桑養み用具	(B) 飼育用具	(C) 上蔭用具	(D) その他							
	(7) 手細工用具	(A) 鞆加工用具	(B) つる細工用具	(C) その他								
3 交通・交易・通信用具	(8) 諸職用具	(A) 大工用具	(B) 屋根葺き用具	(C) ヘラ・シャブシ用具	(D) 曲げ輪用具	(E) 下駄・カンジキ用具	(F) 太鼓脚用具	(G) ハンゾウ用具	(H) その他			
	(1) 運輸用具	(A) 背負用具	(B) 肩掛用具	(C) 腰下用具	(D) 人力運輸用具	(E) 畜力運輸用具	(F) その他					
4 社会生活用具	(2) 交易・通信用具	(A) 旅行用具	(B) 通信用具	(C) 商業用具	(D) 計算・計量用具	(E) 看板・広告類	(F) 手形・貨幣類	(G) その他				
	(1) 宗教用具	(A) 共有道具	(B) 防災・避難用具	(C) 家印・印判	(D) 武家用具	(E) 祝時用具	(F) 贈答・社交用具	(G) その他				
5 信仰・年中行事用具	(2) 娯楽用具	(A) 神体・偶像類	(B) 神事・弘事用具	(C) 神札・懸符類	(D) 香箱・折額・縁起物	(E) 年中行事用具	(F) 信仰関連用具	(G) その他				
	(1) 娯楽用具	(A) 衣裳	(B) 小物	(C) 台本	(D) 楽器	(E) その他						
6 芸能・娯楽用具	(2) 娯楽用具	(A) 遊戯具	(B) その他									
	(1) 娯楽用具	(A) 育兒用具	(B) 成長の祝いの用具	(C) 婚姻・婚礼用具	(D) 葬送・墓制用具	(E) その他						
7 人の一生用具	(2) 娯楽用具	(A) 教育用具	(B) 医療・医薬用具	(C) 暦・時計用具	(D) ト占・まじない用具	(E) その他						
	(1) 娯楽用具	(A) 文書・書籍	(B) 写真	(C) その他								
8 民俗知識用具												
9 その他												

池田哲夫・飯島康夫編 [2016]. 只見町史編さん委員会編 [1992]. および、檜枝岐村歴史民俗資料館収蔵台帳をもとに作成



## 第1章：生活用具

### 1. 生活用具の概要

生活用具には、衣食住にかかわる民具を分類した。この類型に含まれた民具は、衣類が21点、住居用具が4点の計25点であった。このうち、中心を占めているのは、履物である。山仕事を入れる道具箱のなかに、カナアシ（カナカンジキ）が多く残されていたことから、履物類の点数が多くなった。

また、注目されるのは、白日社旧蔵のテッカワ・ツケミノ、ワラジ・フカグツなど、雨具・防寒具と履物類が、比較的良好な状態で残されていたことである。聞き取りからもわかるように、いずれも現在では使用されることがなく廃棄されてしまっており、かつ作成することが困難になっている用具である。このように良い状態で残されたことは、往時の生活を理解するうえで、重要な資料となろう。

生活用具に関する聞き取りデータのなかで特徴的なのは、ワラに関するものである。檜枝岐村は高冷地にあるため、稲作が困難な土地柄であった。そのため、生活用具を作るためのワラは隣村まで出かけてゆき、買い求めなければならなかった。

一方で、ワラの欠乏は、その他の植物利用の高度化を促していたこともわかる。稲ワラがないための苦労があったことから、「稲のできない村」「ワラのない村」であることが、やや否定的なニュアンスをもって語られている。けれども、見逃すことができないのは、ワラに代わって、多くの植物を高度に利用していたことである。麻、シバクサ、ヒロロ（スゲ）、ヤマブドウ、シナ、ガマなどが、栽培・採取され、生活用具に加工されていた。

生活用具に分類された民具類の多くは、現在80代になる人びとまでが、利用や作成の経験があるものの、それより下の世代となると、こうした経験を有する人びとは、少なくなっている。たとえば、ワラグツなどは、この世代の人びとは、実際に履きこなし、兄弟姉妹のために作成した経験がある。ところが、その子どもたちの世代となると、ゴム靴に変わっているため、日常的に着用した経験がなくなっている。

興味深いのは、衣食住の場面で実用されなくなっても、製作技術は残ったことである。観光客向けのお土産品として、ミニワラジ、小さなミノなどが作られ、好評を博している。尾瀬の玄関口として、多くの観光客を迎え入れてきた村の特徴であろう。ただ残念ながら、近年はそうした技術をもつ人びとが、徐々に少なくなっている現実もある。

最後に、今回、生活用具の分類に含まれた資料の大半が、雪にかかわる民具である。カンジキやコシキなど、現在も実用されている民具も少なくない。日本有数の豪雪地帯でもある、檜枝岐村の人びとが、どのように雪とかかわってきたのかを知る手がかりともなる民具であるといえよう。

## 2. 雨具・防寒具



写真 1-1: テッカワ (D-6)



写真 1-2: ツケミノ (D-8)

テッカワ (D-6) これ、テッコだや。これテッカワって言って、手を入れると冷たくないの。カモシカの皮で作る、手入れるやつ。男の人が山歩くのに〔使う〕。女の方は、これはしない。

今も使っている人もあるかなあ…。今は良い手袋があるから、やっぱり〔使わなくなった〕。〔あまり使わなくなってからは、〕トウモロコシ畑なんかには、ケダモン〔獣〕が来るから、その案山子に〔使ったことがあった〕。今はほとんどの家でなくなったでしょ。おら家にもいくつもあったが、なくなったな。だいたい山仕事しないもん。ただ、蔵に保存しておくだけ。

むかしはカモシカ獲りましたから。今はニホンカモシカ獲れないから。美味しいのあったまって、体温まって。〔テッカワは〕買うんじゃなくてカモシカの皮で作るの。親指だけ出ていて、手の形にするのに縫い合わせて作っています。慣れた人でないと、縫えないよね。職人じゃなくても、慣れた人だったらできるわけ。生活のために作っていた<sup>(1)</sup>。

シッカワ シッカワはねえな、お尻につけるやつは。シッカワはお尻につけて、雪の上座るように。どこにでも座れるように。シッカワはカモシカでやったんでねえぞや。そうそう、クマの腹の皮をシッカワにしたです。クマの皮。白いところある皮は。それをシッカワに<sup>(2)</sup>。

ツケミノ (D-8) ① これはツケミノ。ツケミノって言ったなあ。男用だ。男の人これ山に行くとき、あの荷物を背負うとき。男の人みんな着ていった。やっぱりあれだ、冬着れば暖かいですよ。これを着てると。〔休む時には〕雪の上に敷いて休んで。

〔材料は〕シバクサだな。小さく、シバクサをゆわいつけて。中も、この中身は細い紐

<sup>(1)</sup> 2022年6月30日橋タツ子・平野カツヨ・平野幸子・平野増子・星チヨセさんより聞き書き

<sup>(2)</sup> 2022年6月30日橋タツ子・平野カツヨ・平野幸子・平野増子・星チヨセさんより聞き書き



で作ってある。それに2、3本ずつシバを縛りつける。これはな、作るにはとても手間がかかって。一日やってもできねえだもんなあ。

上〔のこげ茶色の部分〕はブドウの皮で作る。山から採ってきたヤマブドウの皮を剥いで。この辺にありますね。男の人はみんな作ったなあ。女の人もあれだよ、これ〔ヤマブドウでできたこげ茶色の部分〕ミノクビっていうだ。女の人も作ったよ。このミノクビというのは。上と下で別に作って、そして裏側にこれを止めてな<sup>(3)</sup>。

ツケミノ (D-8) ② これはツケミノというのね。これは男の人が着るやつ。黒くなっている部分はね、強い。ブドウのツルがあるでしょ、その大きくなったやつの皮。ブドウのツルの皮を剥いで、これを作ったの。

それ以外の部分は、ヒロロという草。山に30 cm から40 cm ぐらいの草があるの、今でもあるよ。それを採っておいて、ミノを作ったの。材料は檜枝岐で採って作ったの。男の人がこれを作ったの。うん、男の人が大抵作ったな。女の人も作った人もあると思うけど<sup>(4)</sup>。

ツケミノのお土産品 小さいツケミノ飾りは、土産物で檜枝岐の人からもらったやつ。ツケミノはね、男の人が使うミノ。女の人は、これは使わなかった。わたしらの母とかぐらいの世代の人は、みんな冬の仕事に作ってたの。うちでは作らなかつたけれど。これは、手の器用な人じゃないとできないから。今はもう作る人はいないかな<sup>(5)</sup>。

ミノの種類 ツケミノ、ヒロロミノ、ムシロミノがあった。ヒロロミノっていうのは、まあちょうどツケミノと同じ形だけど、ブドウでミノクビしないで、全部ヒロロで。全部、ヒロロという草で作るの。それがヒロロミノ。ムシロミノというのは、まあショイッコみみたいな背中あてがあるものをムシロミノ。ムシロに似てるからでしょう<sup>(6)</sup>。

### 3. 履物類

ワラジ (D-4、5) ああ、ワラジなあ。うちはおじいさんが釣りやってたから。釣りやってたから、夏はこれでした。サンショウ〔サンショウウオ〕捕りに行くときにも使った。ワラジは沢登るときにも使える。ワラは、滑らないから。チカタビ(地下足袋)の上に、これ履いてたから。大きいワラジ作って。チカタビの上にこれ履いて。

うちの大きいワラジは、一日6足くらいしかできなかった。おじいさん、足が大きかつ

---

<sup>(3)</sup> 2022年6月30日星甫さんより聞き書き

<sup>(4)</sup> 2022年11月1日星フミさんより聞き書き

<sup>(5)</sup> 2022年11月1日平野ケイ子さんより聞き書き

<sup>(6)</sup> 2022年11月1日星フミさんより聞き書き





写真 I-3: ワラジ (D-4)



写真 I-4: ワラジ (D-5)

たし、チカタビの上なんか履くから。晩になれば夕食作ったり、ほかの仕事がある。そして、ワラを打つのが大変だから。ワラ打つのが大変だったなあ。切れやすいからねえ、後ろと前に余った布を少し入れて。先と後ろにな。

素足で履けるけどちょっと痛いよね。ただ。むかしはタビとかないからね、ふだんは素足さ履いたんです<sup>(7)</sup>。

アシナカ 夏のアシナカといってね。それを作ったり。足の半分あれば良いわけ。足の半分あれば十分ってことでしょうか。ワラジの下半分がないようなもの。今でもわざと小さいやつありますもんね。健康に良いて言うことで。かかとまでのやつが。ワラジの半分ぐらいのやつがアシナカ。今の流行りだもの、健康に良いていう<sup>(8)</sup>。

アシナカとワラジ ワラジは紐があるでしょ。足を入れて指を出して、そして紐でからげて、山で履いたの。アシナカはうちで、その辺を歩くときとか、畑に行くときとか、女の人なんか履いたの。ほとんど女の人だったね。男の人は山に行くからワラジ。女の方は百姓したりするんに、アシナカだった<sup>(9)</sup>。

子どもと履物 弟や妹に履かせるのに、夜仕事。ワラジは弱くてなあ…、弟なんか履かせるというと、切れるときあるから、1足予備付けて。そして切れれば、予備を履くように。

あれは雨の日に履くと、すぐ切れるの。山道だと真ん中にリヤカーとか何か引くから、両方は車で通るから、草は生えてないけど、真ん中に〔草が〕生えるの。そして雨の降る日は痛くて、子どもたちが、その草の上ばかり歩いとったの。石がないから。

悪い子の子どもたち、それで輪っか作っというてなあ。それで引っかかって転ぶように。

<sup>(7)</sup> 2022年6月30日橋タツ子・平野カツヨ・平野幸子・平野増子・星チヨセさんより聞き

<sup>(8)</sup> 2022年11月2日橋タツコ・平野カツヨ・平野幸子・星チヨセさんより聞き

<sup>(9)</sup> 2022年11月1日星フミさんより聞き

強い草があったからなあ。両方から草を集めて、こう結んで。誰か引っかかって転ぶように。

そんなことしたことあるな、おれらも。両方から結んでっから、こう引っかかって転ぶように。危ない。でも誰か引っかかって転ぶようにやっただ。悪い頃だ。学校の生徒の頃<sup>(10)</sup>。

ワラジの民芸品① むかしはワラジ使ったでしょ、いまは民芸品に作ってみんなにくれてるの。これは冬、手の運動にやっているの。小さいものも手で。これがヒロロという草。夏とって乾しておいて。糸も入った方が可愛いかなと思って。小さいから時間はかからないけど、あんまりやっていると肩が張るから、5、6足作ってはお茶飲みしたり<sup>(11)</sup>。

ワラジの民芸品② このミニワラジ、おらも作ったね。お客さんのお土産に。今でも子供たちが来て、これよく習ってやってましたよ。一昨年(2020年)あたりまでかな。小さいワラジ。子供たちとか、生き生きサロンでちょっと教室やったときに作って<sup>(12)</sup>。

ワラジの民芸品③ ワラジはみんな冬の仕事で、今までやってたんだ。私はこういうの、やんなかったけど。今はお土産用のワラジのストラップ。器用な人じゃないと作れないな。今はもっと小さいやつ作ってる人もいるよ。これの半分くらいの。器用な人は帽子も作っていた。これはほらただ飾るだけのもの<sup>(13)</sup>。

ワラの入手① [檜枝岐村では稲作ができないので] ワラは村では採れないから、買ってこないといけなかったんですけど。ワラは必ず必要だったんですよ。クツもそうだし、ワラジだとか、みなワラだから [ワラで作ったので]。

ワラ買うときは隣村から。大桃 [南会津町大桃] あたりにもワラはあったと思うけれど、あの辺はコメ作りもやっぱり少なかったんで。大桃よりまた下流に行かなくちゃいけなかった。大量に欲しいときは。

あとワラを編むときに、柔らかくするために、ワラってクズみたいなのがいっぱい出てくるんだけど、布のあらっぽいというかな。強いワラくずだから。それでワラ布団といって袋の中にワラを入れるんです。普通の縄よるような、ああいう茎の部分じゃない、そういうのはおいた、クズの部分だけのものをその中にいれて、そうすると後で柔らかくなって<sup>(14)</sup>。

<sup>(10)</sup> 2022年11月2日橋タツコ・平野カツヨ・平野幸子・星チヨセさんより聞き

<sup>(11)</sup> 2022年11月1日星フミさんより聞き

<sup>(12)</sup> 2022年6月30日橋タツ子・平野カツヨ・平野幸子・平野増子・星チヨセさんより聞き

<sup>(13)</sup> 2022年11月1日平野ケイ子さんより聞き

<sup>(14)</sup> 2022年7月1日星長一さんより聞き



ワラの入手② ワラはお金出して買ってきたの、いつも。伊南村〔現在の南会津町伊南地区〕に行つて、お金を出して、買ってきた。伊南村ではコメができて、そして檜枝岐の方から買いに行くから。伊南村はコメがとれるのも良いけど、こういうワラ細工を作るのに、ちょっと長くなるような良いワラを作つたの。向こう〔伊南村〕でも、売るやつにとってあった。それを買ってきたの。いくらぐらいだったかはわかんね。おらは子どもだったからな<sup>(15)</sup>。

ワラヒキ・ワラの入手③ 伊南村。あそこからワラなんかも買ってきたわけ。そしてワラグツ作つたり。子どもに履かせるやつなんかも。リヤカーで行つた人もあつたぞ、ワラヒキなあ。コメの実を取つたやつの、空っぽになつたワラを、ワラグツとか何かに作つたわけ。夏のアシナカといつてね、そういう履物を作つたり<sup>(16)</sup>。

ムシロ ムシロでソバとかなんか干したりすると、すごく乾いて良いの。色々ね、干すものがあるでしょ。そのときにとても乾き良くていいの。〔檜枝岐でも〕ムシロは編んだ人はあつたね。機械で織るんですけど。でもね、そんなにワラが買えなかつたからね。クツとかそういうもの作るぐらいで、ムシロは向こうの方で、隣村の方で作つたのを買ったやつ。

伊南だかどこだかわかんないけど。とにかくコメのとれるところじゃないとできないの。ワラがいっぱいいるから。伊南村でも色々分かれて、部落部落があつて。檜枝岐でも下ノ原とか、上ノ原とか、大畑とかそんな風に分かれてるから。伊南ばかりでねえな。ずっと向こうの方、南郷〔旧南郷村、現在の南会津町南郷地区〕の方から全部やつてたよ。コメのとれる、百姓できる場所は。コメがとれないのは檜枝岐だけ<sup>(17)</sup>。

麻・シナ 檜枝岐はコメ作つてないから、コメ作りはできないから。ワラつていうのはないですよ。よそから買つてきて。買うとか、貰うとかして、俺たちクツ作つたり、ワラジ作つたりしたんだけど。

だから、麻。実を干して、1回刈つて干して、川に晒して、そうすつと皮がむけるでしょう、その皮はすごく強いですよ。麻は、そういうことに使うために、作つとききましたよ。

それにシナの本というのがあつて、シナの皮作つたんですよ、ここでは。シナの皮作つてて使って、それでやつたんです。シナは山にいっぱいありますから〔育てる必要はない〕。

麻の皮とシナの皮集めて、混合して作つたらすごく強かつたですよ。合わせるとすごく強かつたですよ。麻の皮と、シナの皮。むかし。ワラジなんかさ、ワラと一緒に混ぜて作

<sup>(15)</sup> 2022年11月1日星フミさんより聞き

<sup>(16)</sup> 2022年11月2日橘タツコ・平野カツヨ・平野幸子・星チヨセさんより聞き

<sup>(17)</sup> 2022年11月1日星フミさんより聞き

ると、もう倍くらい強くなったですよ<sup>(18)</sup>。

麻 麻は結構作って、あれですよ。細く切って、縫い糸にもやった。ぞうきん刺すとか。麻は強かったから、色んなのに。オガラ〔苧殻：麻の皮をはいだ芯のこと〕は、屋根を葺く前にオガラをやるわけね、綺麗に。屋根の下地、カヤより下に敷くわけ。オガラは綺麗だったから。懐かしいなオガラだとやあ、軒にやっただべやあ<sup>(19)</sup>。

シナ シナの皮は、あんまり太いと身が薄くなるの。だからできれば、木の幹が15～20 cm くらいのシナの木をはいできて、パチンと折って。そして皮をずっととるの。その中の綺麗になった皮を干して。冬、切れなくなった包丁や刀で切って。薄く裂いて、戦争に出したり、紐縫ったんです。戦争には、馬の手綱か、何かにやっただな。

シナナワブチって言って、女の人が冬するの。すごく強い皮ができる。みんな女の人いっぱいやったから。おれもやったな。シナナワブチって。秋やっといたの〔干しておいたのを〕、冬仕事に。それを細くやって、短いやつを中に入れて開いて、継ぎ足し継ぎ足し。それを長くして、テンギって行って、ミツクデに編んでいくの。テンギってやつにくるくるって巻いといて、女の人が縄作るの。ミツクデにして<sup>(20)</sup>。

シバクサ シバクサという植物は、雨が降る時のミノとか〔に使う〕。シバクサを秋のうちに抜いといて、夏の暑い時だな、7月の土用の頃。あれは抜きどきがある。あんまり早く抜くと、真っ白のだと弱くなって。少し色がついた時、茶色ぐらいのときだと、とても強いです。

ナワを綺麗によって。手のひらでよるからね、ここを上手に使わないと。取り替えるの、右と左に。だからよっていけるの<sup>(21)</sup>。

ヒロロ (スゲ) ワラは檜枝岐採れないから、スゲも使ったな。日にちがたったら、こういう風に〔色が褪せる〕。刈ったばかりだと、すごいきれいなんだ、青いのが。山ある家とない家もあった〔山林を所有している家も、していない家もあった〕けど、スゲは山から自分で簡単に持ってこれたんだ。時期は秋と夏の間、夏が終わってからかな。使う人は自分で行って採ってくる。すぐその辺にあるから。採る場所や量の決まりは、無かったね。いっぱいあるから<sup>(22)</sup>。

<sup>(18)</sup> 2022年7月1日平野励さんより聞き書き

<sup>(19)</sup> 2022年11月2日橋タツコ・平野カツヨ・平野幸子・星チヨセさんより聞き書き

<sup>(20)</sup> 2022年11月2日橋タツコ・平野カツヨ・平野幸子・星チヨセさんより聞き書き

<sup>(21)</sup> 2022年11月2日橋タツコ・平野カツヨ・平野幸子・星チヨセさんより聞き書き

<sup>(22)</sup> 2022年11月1日平野ケイ子さんより聞き書き





写真1-5: ワラグツ・クツ (D-2)



写真1-6: フカグツ (D-3)

ガマ ガマあんまりないんだ、檜枝岐には。ミニ尾瀬〔ミニ尾瀬公園〕のところに珍しく生えている。どっかから、種が飛んできてできたんだろうな。むかしから少ない。クゾはいっぱいあるけど…。ガマが手に入ったときは、ガマのゾウリを作ったよ。ガマは田んぼにあるから、館岩村の方に行って、みんなもらって来たんだ。ガマの方がきれいだからな、ワラより<sup>(23)</sup>。

ワラグツ・クツ (D-2) ① 伊南村という所に行って、ワラ買ってきたの。隣の村旧伊南村へ。今合併して南会津ですけど。そこに行ってワラを譲ってもらって、朝早く行って。車なかったからね。そして買って背負ってきたんですよ。車もなければ、何にもなかったから、夜遅く12時だか1時だかわかんないけどね。そういう風に、私たちのお父さんとか、じいちゃんとかやったの。朝早く行って、夜遅く帰ってくるから男の人。女の人には無理だよ。

やっとならぶくらい量の量。重さまではわかんないね。どのくらいだか。そしてそれを冬仕事に、こういうクツ (D-2) を作ったり、夏履くゾウリを作ったり。これ (D-4) はワラジだね。ワラジは夏、山に男の人が履いたの。クツ (D-2) は雪の上ね。こういうもの作ったの。みんなできたの誰でも。誰でもって大人の人はね。これしか履くものなかったからね。

男も女も作った。男の人も作った。山仕事に行かれないようなときには、うちで作ったの。女の人も作ったしね。私たちはできないけど、私たちのお父さんとかじいちゃんとかばあちゃん。1日1足くらいだね。そんなに一生懸命毎日やるのも大変だし、1日1足くらい。ゾウリだったら1日5、6足くらい<sup>(24)</sup>。

ワラグツ・ツボクツ (D-2) ② これはまあワラグツ、ツボクツとか言ってたな。勉強す

<sup>(23)</sup> 2022年11月1日平野ケイ子さんより聞き書き

<sup>(24)</sup> 2022年11月1日星フミさんより聞き書き

るにも、これ暖かくて良かったんですよ。子どもたち、学校でもこれ履いて。学校でもワラグツ履くと冷たくないの。ストーブというのなくて、薪ストーブがないから大きい囲炉裏で燃やしていたから。そこに集まってみんなであたって。勉強にも、隣さ遊びに行くにも、これ履いたし。妹や弟に作って履かせたんです<sup>(25)</sup>。

ワラグツの製作① クツはこの1番底の部分から、底から作ってくの。靴底の先から編んで、最初にこの下だけ作るの。そして、ワラを横にいっぱい出しながら、つま先からだんだんに編んでいく。

クツの型があるの、こんな木の型が。編んでいるワラの中に型を入れて、そして、型に沿って編み上げていくの。それで木の型を入れて、ワラがバサバサにいっぱい出してあるから、こうして編んでいく。だんだんに結構編み上げていって、こう順繰りになるんですけど。

〔靴の側面が特徴的な編み方になっているのは〕雪が入ないように。このワラグツ履いて、靴下も何も履かないで、毎日山に男の人行ったんですよ。ズボンもなかったし、あのモンペといって布で袴を作って。綿のものでね<sup>(26)</sup>。

ワラグツの製作② これはコメの実をとったワラを、檜枝岐はコメがとれないから、他所から買ってきたワラを使って。ワラは伊南村さ行かないとないです。檜枝岐だとコメ作れないから。ワラを湿して〔湿らせて〕おいて、しっとんしっとんと叩いて柔らかくして、クツにやったわけ。

ワラを叩くのは、ツチンボ。30 cm くらいの木に、柄をつけて。しっとんしっとんと、これ回しながら。いい具合になるまで。丸石の平らなところでな。ワラを柔らかくするために。結構時間がかかる。あんまり強く打つと切れちゃうから。ワラだから、やさしく長く打って<sup>(27)</sup>。

フカグツ (D-3) ① フカグツか、ああ作った、作りましたよ。結局、長靴の代わり。むかしはフカグツって言った。むかしは、今みたいなゴムの靴なかったから、これ履いて。大人でも履きますよ。長靴がもともとないんですから。1日1足くらいしかできなかったな、我々では。〔履くときは〕靴下とか足袋とかは履かないと痛いから。そして雪の上を歩くから。冬、毛糸は綿羊飼って、糸をとって作ったことはあるんだけど。冬用の靴下はなく、年中一緒。

作ってもらったときは嬉しかったな。私たちの子供のころは、酷かったです。長靴はな

<sup>(25)</sup> 2022年6月30日橘タツ子・平野カツヨ・平野幸子・平野増子・星チヨセさんより聞き書き

<sup>(26)</sup> 2022年11月1日星フミさんより聞き書き

<sup>(27)</sup> 2022年6月30日橘タツ子・平野カツヨ・平野幸子・平野増子・星チヨセさんより聞き書き



いし。自分も教えてもらって作って。モンペだけ履くから雪は入る。雪も靴の中に入る。ただ、これだと入らなくて良かった。これは長靴代わり。

我々は全部習ったの、年とった人に。もう自分たちで作ったからね。親に習うとか、おじいさんおばあさんに習うとかして。お父さんに教えてもらって作った。兄弟、弟が5人も6人もいたから。作った、作ったな。家は兄弟いっぱいいたから。こっちもそうだなあ<sup>(28)</sup>。

フカグツ (D-3) ② あんまり雪が積もったときは、フカグツって言って。そうそう、今でいう長靴と同じだね。これは雪の上歩くから、すぐ靴下が濡れてきて冷たかった。私は作って貰って、履くだけだったから。

フカグツはワラ。ワラじゃないかな、これは。檜枝岐でとれないけど、隣村でとれるから貰ってきて。大桃とか伊南。畑にほら積まれてたから、リヤカーで貰いに行った。私、それに乗って行った覚えがある。小っちゃいとき。

台の上で、ツチンボでみんな毎晩、よく打っていた。ワラを柔らかくして潰して。それで前にちょっとあの、水をかけて湿らせておいて。そういうことしていた。それから作っていた。うまい人は1日何足も作ってね。昭和30年代までぐらいは作る人はあったかな。

どれだけ〔長く〕使えるかは、その日の歩き方によって。長く歩く人は、2足くらい使ったり。あまりそこらへんちょっとだと、1日1足は使ってたんじゃないかな。すぐダメになるな。部分的に壊れても直さない。使えなくなったものは、ただ捨てたんでしょ。その覚えはないけどただ捨てたと思うよ<sup>(29)</sup>。

フカグツ (D-3) ③ これはフカグツとって、その辺雪の降ってる時にこれを履いて。いま長靴の代わりだからねこれ。その辺をちょっと歩くと、用事があつたり外に出るようなときに、フカグツを履いて。クツ (D-2) のときには、なんていうのかな、ハンカチみたいな布をすねに当てて履いたの。足に雪が入ないように。布には紐をつけてまらって、雪が入ないように。足は何にも靴下もないから、裸足だから素足だからね。そして布でワラでよく縛って<sup>(30)</sup>。

履物づくり むかしの檜枝岐の人なら、誰でもできるね。アシナカは誰でもできるな。アシナカ、たんまり作った。ワラ打つは、なかなか大変だ。にし〔チヨセ〕はクツまで作ったか。おれ〔チヨセ〕クツは作ったことはない。クツ作ったの、おれ〔幸子〕と、にし〔カツヨ〕だべ。作った〔カツヨ〕。みんなちっと若かったから。

<sup>(28)</sup> 2022年6月30日橘タツ子・平野カツヨ・平野幸子・平野増子・星チヨセさんより聞き書き

<sup>(29)</sup> 2022年11月1日平野ケイ子さんより聞き書き

<sup>(30)</sup> 2022年11月1日星フミさんより聞き書き

自分の子どもは作んねえな。自分の子どもの分は作んねえ。きょうだいの分までだな。もう時代が移り変わっていたからな。私たちの産んだ子どもは、ゴムの靴を履かれたから。自分の子どもには作んねえが、姉弟のはいっぱい作った。

むかしは靴下なんかないでしょう。足袋の繕いしたり、すぐ切れるの。つま先から切れるの、足袋は。爪があるからでしょうね。爪もあんまり切らなかったでしょう。かかところが切れてなあ。どこも切れただ、もたないから。穴開くと、布を縫い付けて。そうすると切れないから。そんなことしたんです<sup>(31)</sup>。

足袋 足袋は買ったな。買ったり、縫うも縫った。作った人もあるな。足袋ほどけば、形になるから。その真似して型取れば〔布から作ることもできる〕。〔足袋が切れてしまえば〕そこ繕って。なんど刺しただがな、ほんに考えられねえこんだ、今考えてみれば。足袋だけでなく、布が手に入れば、色々なもの作った。弟の下着とか。身に着けるものは、一通り作ったな<sup>(32)</sup>。

カンジキ (C-32) これはカンジキだなあ。カンジキと言いました。カメとカンジキというのが、あるんだけど…。ツメのあるやつがカンジキ。〔ツメがなくて〕丸いやつがカメと言います。

カンジキは、横に木のツメが入ってるやつです。カンジキを履いて、雪の上を。ツメが横に入ると転んじゃうから、こう足を丸くして〔動かすように〕歩いて、どこまででもこれで。もう必需品でした。

カメは、輪っかがもう少し大きいやつで、雪に足が強く入らないようになっている。粉雪の場合、雪の中歩いた。足が下に沈まないために。雪のいっぱいあるところは、カメを履けば、体が埋まらないの。

カンジキは、みんながみんなは、作らなかつたねえ。うん5、6人ていう。村の人で職人っていう人がいて。いまはもういないです。もう亡くなったからねえ。いちばん遅いは平野茂さんか。かもしんねえな。その人なんか上手だった。

どこの家にも、ありました。そして〔使い終わったら〕ツメが抜けないようにイロリで干した。火棚に乗っけて、雪落とさないと<sup>(33)</sup>。

千代一さんのカンジキ作り 今はもうやってないけれども何年かね、カンジキ作りをやっていた。〔爪のあるツメカンジキだけで〕カメ〔丸型のカメカンジキ〕はやんなかった。カンジキは、2種類作ってましたね。長靴用と登山靴用。登山靴はかなり大きくないと、

<sup>(31)</sup> 2022年11月2日橋タツコ・平野カツヨ・平野幸子・星チヨセさんより聞き書き

<sup>(32)</sup> 2022年11月2日橋タツコ・平野カツヨ・平野幸子・星チヨセさんより聞き書き

<sup>(33)</sup> 2022年6月30日橋タツ子・平野カツヨ・平野幸子・平野増子・星チヨセさんより聞き書き



入らないから。カンジキには何も塗らない。山仕事でほんとに専門に使う人は、よくビニールテープなんか巻いて使ってたけど。雪がつかないから。

輪の部分は、ミズノキ。〔小正月行事の〕ダンゴサシ〔木に色とりどりのダンゴつけて稲の穂のようにする〕に使う木。あれのオス・メスっていうのかな、この辺ではオットミズノキって言うんですよ。ダンゴサシに使うのは、肌が赤いんだけど、あれの青いのがあるんですよ。その木を使います。その木と他には、ウワミズザクラ。どちらも柔らかい材質。ウワミズザクラのほうが柔らかいかな。煮てから曲げて、ある程度形を整えて、半年くらい乾燥させて。それから加工して。

どちらも檜枝岐村に生えている木です。むかしはほら、伐採よくやってたから。伐採すると、倒れる時どうしても違う木もこう潰すじゃない。それでミズノキなんかを傷つけるから、そうすとそっから新芽が出るんですよ。必ず木は、折るとか伐ると、そっから芽が出るんですよ。植木なんかでも、鉢植えの木でもなんでもそうだけど。それだと真っ直ぐに育つから、それを伐って、使うんですよ。

今は伐採がなくなったら、真っ直ぐな木がないんですよ。自分で伐って来るといいんだけど、あんまり太いやつ伐ると、家主に怒られちゃうから。伐れるのは3cmまでだったかな。3cmくらいまでは、伐っても大丈夫みたいだな。根元からちょっと残して。それから何本も出るから、新芽が。むかしはもう、そういうのがいっぱいあったから。

今は木を見つけるのが難しくて。100本くらい伐っても、うちに持って来て煮てから、曲げて、使い物になるのは10本くらいしかないわ。ほとんど、どっかに傷が入ってるとか、カモシカのかじった跡があったり。曲げる時は型があるんですよ。材木の切れっ端、型を丸めて、そこにトタンを張った曲げる道具があるんです。



写真1-7: カンジキ (B-18)



写真1-8: カンジキ (C-32)



写真1-9: カンジキ (D-1)

ツメは 15 cm くらいかな。もうちょっと長いかな。それくらいに作って、片方厚い方が 1 cm、1 cm よりちょっと厚いかな。そして打ち込んで。それで〔打ち込んだ後〕片方は切っちゃうから。だから割と長い材を使うから。ツメの木はミズナラだった<sup>(34)</sup>。

カンジキの歩き方 むかしは、カンジキとかを履いて、踏んづけたです。道路歩いて、踏んで。そしてまた道歩いて。今は〔除雪をする〕機械があるから、ガーっとやればいいが、むかしは機械なかったから。こうして足で踏んで歩いて。それを毎日、人が歩いて踏みつけるから、そこだけが雪が固まるの。真ん中だけが固くなって。だから「馬の背中」だって言ったんですよね。端っこは柔らかい雪だから。踏み落としたら大変。みんなが通る道だけが固くなるから。だから転んだりね、高いところから滑って、そんなこともありました。端っこに落ちれば、モンベ着てるから脇から雪が入るの。冷たいの。脇から腰巻の方にまで濡れるの。大変でしたよ、むかしの檜枝岐は。

カンジキは、足を外から回さない。歯に入るから輪っかに。カンジキの歯が。入るから、外、足を回すようにして一步の道をつけたわけ。今はまだ寝ているうちに、もう雪を片してくれるから便利になった。今はスノーダンプでこう押して。おら今はスノーダンプも使われねえな。私たちはもう〔年をとったので〕できないです。いっぱい雪押して川の中に落とすんです<sup>(35)</sup>。

カナアシ (B-19-17、18、19 & 26) ① これ (B-19-17) カナアシだべな。足の下に履くやつ。急な斜面を歩くとき、急な山行くんに、山滑んねえように。これを足の下に、紐でしばりつけて。こういうのも (B-19-19) カナアシっていう。これは我々はあまり使わなかったな。

カナアシも最後になって、チカタビ〔地下足袋〕用に、ここ〔カナアシに輪をつけて〕改良して作った。むかしはワラジだったでしょ。初めはワラジだったのが、あとからチカタビが流行ってきて。チカタビ履くときに、動かないようにカネの輪をいれて。

〔紐はむかしは縄編んだが〕これ (B-19-18) は後のもので。ナイロンの縄で〔作ったので〕、丈夫だったんです。普通の縄より柔らかい、ナイロンの方が長持ちして。柔らかい紐を 3 本編んで、そして作ったのよ。こういうナイロンの紐が流行るようになったときだな。時期は戦争の後だな。

こういう形 (B-19-19) のカナアシは、使ったことないです。これもナイロンの縄。柔らかい編んだやつが丈夫だったんです。3 本で合わせて作った。ほかの物にも使ったでしょ。ノコギリのサヤの腰につくときの紐とか、ナタの紐とか<sup>(36)</sup>。

<sup>(34)</sup> 2022 年 11 月 2 日平野千代一さんより聞き書き

<sup>(35)</sup> 2022 年 11 月 2 日橋タツコ・平野カツヨ・平野幸子・星チヨセさんより聞き書き

<sup>(36)</sup> 2022 年 6 月 30 日星甫さんより聞き書き



カナアシ・カナカンジキ



写真 1-10: B-19-27



写真 1-11: B-19-19&26



写真 1-12: C-35



写真 1-13: B-20-5



写真 1-14: B-22-9&11



写真 1-15: B-22-14



写真 1-16: B-19-17



写真 1-17: B-19-18

カナアシ (B-22-9 & 11) ② これは足の裏につけるやつじゃないの。紐通して、滑り止め。たぶんそうだ。このまま紐を通して履く。今でいうアイゼンだな。固い雪、急斜面なんか行くとき、堅雪とか、氷の上歩くときとか、そういうとこ渡るときには。よっぽどむかしのやつだな。この形は見たことねえ。今まで見たことねえが。ずいぶん古いやつだな<sup>(37)</sup>。

カナアシ (B-22-14) ③ これもアイゼンでねえか。これもあれだべな、滑り止めだ。ただここに紐を通して、この間に靴が入るわけ。靴の裏につけるんだな。[刃先が尖っていて]かなり危ねえ滑り止めだな。これで足踏んだら、あれだもの、ひとたまりもねえからな。これほどのやつは見たことねえ。これ危険だわや。初めのころのやつそうだったのか<sup>(38)</sup>。

カナカンジキ (C-35) ④ これはあれだ、雪の凍ったところを踏んで。雪が固まったところに履くのです。これは雪の堅いときになったとき、滑らないために履く、カナカンジキと言ったと思う。カナカンジキだわなあ。カナカンジキと言っていたような覚えがありますけど。降りたての雪ではダメです。うん、固まった雪に。

これ、鍛冶屋さんに頼んだでしょう。なんか、この輪っか〔紐〕は女性、村の人が作ったと思います。金物は知らねえな。これは鍛冶屋さんだと思う。そう鍛冶屋さんここに頼んでたんです。新潟はあるかなあ。新潟とか三条とか。鍛冶屋なあ。近所にあったと思う。村の中はないな。大原、伊南などにも鍛冶屋さん、あった。大原って、小立岩のつぎの村だな。

カメは私たちも結構使いましたが、カナカンジキはあんまり<sup>(39)</sup>。

カナカンジキ⑤ カナカンジキを使うのは、春のクマ狩り。アイスバーンになるじゃない。だからもう、長靴なんかでは危なくて行けないから、そんとき履く<sup>(40)</sup>。

#### 4. いろり・照明用具

カギサマ〔自在鉤〕(A-6) カギサマか。カギサマだな。むかしは〔自在鉤とは言わず〕カギサマといって様がついた。いや珍しくカギサマ見たな。むかしこれ、あつただ。曲がつたところに、鍋のつるから何からかけるの。

むかしは薪を燃やして囲炉裏おこして、ご飯をカギさつっかけて、そこでご飯煮てた。これは重宝。上に上がるが〔上に上がるだけでなく〕下にも下がり、好き勝手に動くの。それで火の加減も調節できる。火が弱くなったら、これを長くするの。これで火が強く燃

<sup>(37)</sup> 2022年7月1日平野郁文・勝さんより聞き書き

<sup>(38)</sup> 2022年7月1日平野郁文・勝さんより聞き書き

<sup>(39)</sup> 2022年6月30日橘タツ子・平野カツヨ・平野幸子・平野増子・星チヨセさんより聞き書き

<sup>(40)</sup> 2022年11月2日平野千代一さんより聞き書き



えるときは、調節するの。しかし重宝でしたよ。好き勝手上がるだから。

若いうちカギサマを「綺麗にみげーておけ」って言われたったな。大事だから様をつける。お掃除しただ。一生懸命拭いたの。雑巾で、ピカピカという家もあったやな。四角の囲炉裏があるでしょ。囲炉裏ある時、マッコと言って、みんなの当たるところの縁を綺麗にするわけ。その時これを一生懸命に拭いたの。ピカピカと言えるほどに拭



写真 1-18: カギサマ (A-6)

いている家もあったし、真っ黒な家もあったし。でも、重宝するのは同じ。掃除は毎日拭いてたし、囲炉裏だって、ハイカキというのがあって、ゴミは毎日綺麗にしたから。まあここでは、火は大切にしたでしょうね。マッコも拭いたし、カギサマも拭いたし<sup>(41)</sup>。

マッコ マッコって言って、四角の囲炉裏のぐるりに〔周囲に〕あるやつ〔木部〕も、綺麗にピカピカに拭いて。そこに湯呑をのっけて。お茶のみ来た人にマッコの上さ、つけてお茶だす。綺麗なマッコに乗っけるから。今はあんまりねえな。家を新しくするときに埋めたな、ないな<sup>(42)</sup>。

マッコゼン お酒飲むとき、マッコゼンだったと。マッコをお膳の代わりに、マッコゼンだと。その家のマッコゼンは、良いって褒めてったよ。どこの家行っても、出されるの。晩酌の、人の家遊びに行っってね。どこの家に行っても出るの。お金いらないの、どぶろくでも清酒でもマッコの上で飲んだの。

「一つ飲まれ」って、マッコの上につけて。「どうぞ」って言う代わりに「一つ飲まれや」。これが檜枝岐の言葉。漬物でも出してな。カチカチに凍った漬物とか、何かをそばにおいて<sup>(43)</sup>。

杉っぱ ここは〔集落の周辺は〕、ほとんどが杉の木でしょ。枯れて落ちた枝をいっぱい子どもたちは、カマスの中に詰めて。ムシロみたいなもので、食料を入れるカマス。カマスの中にぎっしり詰めて、子どもたちが秋拾っとくの。あれはよく火がつくから。焚き付けに使った<sup>(44)</sup>。

<sup>(41)</sup> 2022年11月2日橋タツコ・平野カツヨ・平野幸子・星チヨセさんより聞き書き

<sup>(42)</sup> 2022年11月2日橋タツコ・平野カツヨ・平野幸子・星チヨセさんより聞き書き

<sup>(43)</sup> 2022年11月2日橋タツコ・平野カツヨ・平野幸子・星チヨセさんより聞き書き

<sup>(44)</sup> 2022年11月2日橋タツコ・平野カツヨ・平野幸子・星チヨセさんより聞き書き

カンテラ（B-19-2） これはカンテラかな。このなかにガス入れて、水を垂らして、そこから火が出る。火が出て赤くなるから。真っ暗なとき、夜、仕事をするとき、山小屋で仕事するときなんかには明るくなるように。

いまでも持ってる人あんべえ。懐中電灯の代わりに、山なんか人が迷ったようなときには、これ持って探しに行ったしさ<sup>(45)</sup>。



写真 1-19: カンテラ (B19-2)

ロウソク ロウソクは、買ってましたね。

やっぱり停電の時があったから、そういう時は立てたり。でなかったら、あと松の木の根、節なんか山から採ってきて、それを燃やしていた。今のようにスイッチで電気がつくわけじゃなかったから。油は、なかったね。1合 300 円ぐらいしたから。むかしの値段で<sup>(46)</sup>。

## 5. 除雪用具

コシキ（C-8、C-9）① コシキね。今のスコップ代わりですよ。雪を片すのに、朝早く起きて、これで片付ける。雪が少しの時、15 cm ぐらい降った時にね。多く降った時はなかなかダメだった。多い時は、スコップでやったね。

[2つのコシキは] 同じだね。大きさが違うだけかな。持ち手のついているの方が、始末ができるでしょ。持ち手があるから、上に掛けることができるし。そのためにあったでしょ。柄のある方が使いやすいですよ、掴めるから。コシキをもって、雪を左右に払い歩け歩けて。使っていたのは、大体取っ手のついたやつでしたね。おら、これついたのあれだな。使ったわ。

コシキは買うのではなくて、我々が山小屋で作ったでしょ。多分そうだと思います。特別に作る人がいなくても、全部自分ができるから。コシキを作るのには、ブナの木だつて言うな。ブナの木。おらの方も、結構作ったな秋。そして新潟の方さ出して。作るのを商売にしている人もあったですよ。そして売れたです。新潟の方に。

そしてこれを毎日、雪がいっぱい積もるから、雪を払ってたわ。これねあのロウって言ってロウを塗って、雪がつかないように。ロウって、ロウソクのことです。ロウがないと、雪が粘るもの。ロウを塗れば、雪で粘らないから。すって落ちるから雪が。引っ付かない。クマの油は使わない。そこまでは油が足りなかったでしょう。それに食べるのにもしたいから。クマの油は美味しいですよ。

そして、学校の調理なんかには、大きい鍋だからこれでやって。コシキと同じものを。

<sup>(45)</sup> 2022年6月30日星甫さんより聞き書き

<sup>(46)</sup> 2022年11月2日橘タツコ・平野カツヨ・平野幸子・星チヨセさんより聞き書き



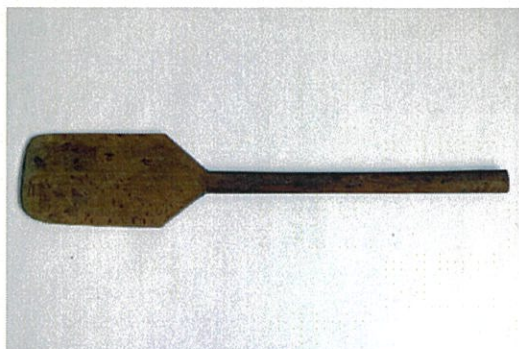


写真1-20: コシキ (C-8)

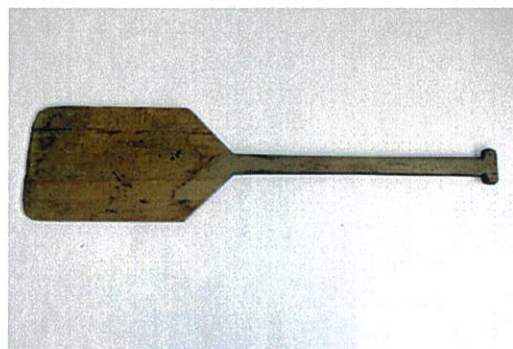


写真1-21: コシキ (C-9)

今みたいにスコップなんかなかったから、これでやったの<sup>(47)</sup>。

コシキ (C-8) ② これはコシキって言って雪払うやつね。今のスコップ代わり。かなりむかしから檜枝岐では作っていたね。私のおじいさん達ぐらいの人。こういう板にするにはね、大きいノコで薄く挽いて、そして作ったの。

コシキは、雪をすくうにはあんまり良くないけど、払うやつ。これにロウを塗ってね。雪がついちャダメだから。火でこうして炙ったよ、よく。そしてロウを塗って。ロウが付かないと粘ってダメだ、雪がいっぱい<sup>(48)</sup>。

コシキと雪払い コシキを使うのは、玄関の前を払うときとか。玄関の前から、道路に出るまでのとこを払うとか、そのくらいのこと。あとは道路とかはもうしょうがないから、そのカンジキを履いて、踏んづけてこう道をつけたの。だから、あの私たち子どものころ、電気柱も今のよりももっと短い、低かったからだけど、私たちその電線を跨ぎながら遊んだの。雪がいっぱいで。

だからそういうとこを、みんな男の人が道を作って。ほら、学校に行くにも。だからうちから道路に出るに、ガンギ〔道に上がるために雪で作った階段のこと〕って言ういっばい作って。上がったたんよ、道路。

そして電線を跨ぎながら遊んだの。ソリ (C-7) で。私が子どもの頃ね<sup>(49)</sup>。

雪かきの思い出 雪かきは、男女問わず誰でもやりましたよ。ヘラとかシャクシ作るのに、男は全部できる人、山小屋に行って1週間ぐらい泊まってるわけです。その時は、お母さんたちが、子ども育てながら家を守ってコシキで雪かきやってたんです。

<sup>(47)</sup> 2022年6月30日橘タツ子・平野カツヨ・平野幸子・平野増子・星チヨセさんより聞き書き

<sup>(48)</sup> 2022年11月1日星フミさんより聞き書き

<sup>(49)</sup> 2022年11月1日星フミさんより聞き書き

小さい子も雪かきをやりますよ。こういう仕掛けは、やったもんだね。やりすぎたね。もっと小さいコシキもできるから。自分たちが作るから。コドモゴシキって言ってな、小さい子どもでもやってな。大雪だったからな、結構毎年。降る時は2~3 m 降るから。

私たちが学校生徒の頃は、登校する道も行きながら全部掘って。そう。学校に持って行ったコシキは、どうだったかな。みんな立て掛けておいたでしょう。帰りは持って帰って。自分の家の玄関も雪が溜まってるから。雪払いしなければ出て来られない。家の玄関の中さコシキ置いて、朝起きて、中から払い払い出てくる<sup>(50)</sup>。

---

<sup>(50)</sup> 2022年11月2日橋タツコ・平野カツヨ・平野幸子・星チヨセさんより聞き書き



## 第2章：山樵用具

### 1. 山樵用具の概要

檜枝岐村は山仕事で生計を立ててきた地域である。そのため、木材を伐採する山樵仕事は、さかんに行なわれていた。男性であれば、誰もが従事した仕事であった。「木を伐る仕事は、ほとんどやりましたね。男の人はもう、役場に勤めている者以外は、ほとんどやりましたよ」<sup>(51)</sup>と語られているとおりでである。

今回の整理で得られた山樵用具は、ナタ・ヨキが5点、ノコギリ・カナヤが37点、搬出用具が19点、その他4点、合計で65点であった。大半をノコギリが占めているのは、やはり、木材を伐採する山樵仕事は、この地域において、いかに重要であったかを裏付けている。ノコギリには、伐採にかかわるものと、製材にかかわるものがある。伐採にかかわるノコギリは、木を伐り倒すために用いられる横挽きのノコギリである。一方で製材にかかわるノコギリは、伐採した大木を挽いて板にするための縦挽きのノコギリであった。

地域の中心的な産業であったことから、山樵用具には、新技術の導入も熱心に進められた。伐採用のノコギリには、従来のノコギリを改良したマドノコが導入された。マドノコが新たに入ってきた当時を知る人びとの、感動の語りも聞き書きに収めることができた。また製材用には、メービキと呼ばれる大型のノコギリが活用されていた。

こうした技術革新は、機械化へとつながっていく。製材という観点では、昭和27(1952)年に村営林産所が開設される。「林産業の機械工業化を図り、林産業の開発によって新しい産業形態を整え」る[檜枝岐村1970:227]ためのものであった。また伐採という点でも、昭和30年代にはチェーンソーの利用が一般化していった。すなわち、このころになると、以下に見てゆく山樵用具は過去のものとなってゆくのである。

伐採した木材の搬出方法も、つぎつぎに改良されたと思われ、今回整理した民具は、あまり使ったことがないとの回答が多かった。木材を固定するカナヤやカスゲー、移動に用いるトビヤドットコなどを用いて、山樵仕事に励んだのは、現在80代となる人びとや、さらに上の世代であったという。

以上のように、山樵用具からは、この地域を支えた主要産業の姿を、多種多様な道具と、そこに含まれる技術革新を見てとることができる。

### 2. 木挽用具：ナタ・ヨキ

コシナタ (B-22-2) この辺ではコシナタって言っただ。腰に下げて、山に入る。まあ枝切りだな、枝を切るのに使う。ほんのむかしはこれでなくて、もっとでかいナタだった。でかいサヤに入っていたなあ。大型のナタ持ってたんですよ。

今でも、これみんな使ってますよ。コシナタは、山に行くときは必ず。山に行くとき

<sup>(51)</sup> 2022年7月1日平野励さんより聞き書き

は必需品。これは必ず持つてく。

これ大体買ってるんじゃないの。買ったやつだよな。自分たちが使うときに。こういう鍛冶屋があったんですよ。我々の時代になれば、買った場所は会津若松。会津若松ですよ。あそこに鍛冶屋があったですよ。大体若松〔会津若松〕だ。檜枝岐は基本的に、ほとんど刃物は若松。ノコなんかも<sup>(52)</sup>。



写真 2-1: コシナタ (B-22-2)

ヨキ (C-31-3) ① これは檜枝岐でいうヨキ。斧だな。山仕事してる人は、ほとんどヨキ使ってた。これは大事だった。ここに竿入れて。木を倒すときに、〔ヨキで〕受け口を作って割れないように。〔受け口のことを〕ウケというけど、そのウケをヨキで作る。〔ウケを作らずに〕そのままノコ入れちゃうと、〔木を倒すときに〕必ず割れるから、受け口を開けてそれから倒さなければ。幹の3分の1か、もっと中へこれで掘って行って。あとはノコで伐る。これなければ、大きな木伐るとみんな傷ができちゃう。

これはかなりむかしの型だな。今の形は、もっとまっすぐだな、刃先が。今でもヨキは使うからね、薪割りするのに。今のは、そんな丸まってないな。もっとまっすぐだね、刃先が。かなり使い込んだじゃない、これすごい丸まってるしな。3尺か、3尺ちょっとくらいの1mちょっとくらいの柄が入っているね。

柄はそうだな、柄のほうは自分たちで作ったな。ちょっと硬い木、ナラの木でも、タモとかちょっと硬い木。〔節のあるような木を〕ツクリッキというけど、ツクリッキはダメ。素性の良い木〔板目や柾目の良い木〕でなければ、折れるから<sup>(53)</sup>。

オノヨキ (C-14) ② これは斧ですよ、オノヨキっていいですね。これはかなり幅広いから、角材を作るときこういうの使ったですよ。〔大工仕事では〕チョウナ打つ前に、これで粗削りする。製材所がないころ、製材する道具がないころ、角材を作るのに一番最初にこれで作ったんですよ。今は使わないね。今は薪割るにしても、もっと薪割りに適した斧があるから<sup>(54)</sup>。

<sup>(52)</sup> 2022年7月1日平野郁文・勝さんより聞き書き

<sup>(53)</sup> 2022年7月1日平野郁文・勝さんより聞き書き

<sup>(54)</sup> 2022年11月1日平野紀夫さんより聞き書き



ヨキ



写真 2-2: B-8



写真 2-3: C-31-3



写真 2-4: C-14



写真 2-5: C-30

オノヨキ (C-30) ③ これも斧ですよ。ちょっとした大きい材を使うには、幅広い方がはかどったし。こういうのはまたこういうので、小さいから片手で削ったり。むかしはどここの家にもありましたね<sup>(55)</sup>。

### 3. 木挽用具：伐採用ノコギリ

ノコギリの使い分け① 大体ノコは3種類くらいでしょう。普通のノコギリと、マドノコとメービキ。あとヨキというのがある、伐採するには、必ずそれ持ってきますよ。オノは、檜枝岐ではヨキと言いますが。ウケ掘るのに。丸太に受け口を切って、それからこっちからノコギリ切ると、ウケ切った方に倒れる。メービキ、ノコギリ、マドノコ、ヨキ大体それで伐採できます。

木を伐り倒すのはマドノコだね。大体立ってる木見れば、商売人はわかるんですよ。どっちに倒すか。下から見ると、枝がどっちに多くなっているかとか。幹がどっち側に向いているかとか。立ってる木に、ウケというの〔を掘る〕。口が開いてるように切って口を開か

<sup>(55)</sup> 2022年11月1日平野紀夫さんより聞き書き

せて、そして今度、逆のほうから伐れば、ウケ掘った方に倒れるんですよ。

製材するときはメービキ。メービキはもう、縦に切る専門だし。マドノコは横に切る専門だし。枝切ったり。縦には絶対に使わない。切れないんですよ、縦には。縦にはメービキでないと。木を伐るときには、一人では行かないとは思うけど、何人かで<sup>(56)</sup>。

ノコギリの使い分け② 間が空<sup>す</sup>いてるんがマドノコだし、メービキっていうのは大きいノコ。ノコギリは小さいから、大きい木は伐れねえ。目的はみんな同じだ。形が違うだけで、目的はみんな同じこと。木を伐るためのものだと思う。生活必需品だべや。私ら女も使ったノコギリは小さいやつ、小さいやつ使ったから。30 cm ぐらいのやつ<sup>(57)</sup>。

伐採と仲間 その時と場合によってだね。手伝いの場合は大勢で行くし、うちの個人だけでやる場合は、親父と息子2人だけで行くとか。こちら辺〔集落の周囲にある〕見える杉林なんかは全部、こっからここまでは誰の家、こっからこれまでは誰の分と、全部分かれてますから。高いところにあるのは、国有林だし。

木を伐るのは、大体ここは春先だな。雪を利用したい〔利用して運び出したいという〕ときは。冬はむかしから、ほとんど〔伐採は〕やってないから。伐った木をソリにのせて運びました。1人で運ぶ時もあるし、何人か伐り倒して、枝は全部払って。そんな時によって、何十本も伐るときもあるし<sup>(58)</sup>。

ノコギリ① 山小屋とか、いっぱいそういう道具あったの。自分は使ったことねえだ。おじいさん、お父さんの時代で。ノコギリは三条から買った。このぐらいの、30-40 cm ぐらいのノコギリは自分たちで使いました。雑林だったから、あとでカラマツ植えたりスギ植えたりするところは、キレイに伐採したでしょ。そうそう整地整地。そういう仕事を若い時やってた<sup>(59)</sup>。

ノコギリ② 女もノコギリ使いました。家建てるの、みんなノコでやっただもん。小っちゃいノコギリっていうのは、子どもでもできるし、女たちも結構やった。女はメービキやマドノコは、やんねえな。私のおじいさんなどは、母親のお父さんなどはやったよ。そうや、おらげの倉屋こさえっとき、みんな番匠、これやったもん並んで。いっぺえ並んで。

ノコギリは、買ってきたんじゃないかなあ、買ってきたでしょう。買っただっべこれは。道具作ってないと思います。どっからか買ってきたのは、分かんねえが。サヤぐらいは作っ

<sup>(56)</sup> 2022年7月1日平野励さんより聞き書き

<sup>(57)</sup> 2022年6月30日橘タツ子・平野カツヨ・平野幸子・平野増子・星チヨセさんより聞き書き

<sup>(58)</sup> 2022年7月1日平野励さんより聞き書き

<sup>(59)</sup> 2022年6月30日橘タツ子・平野カツヨ・平野幸子・平野増子・星チヨセさんより聞き書き



ノコギリ

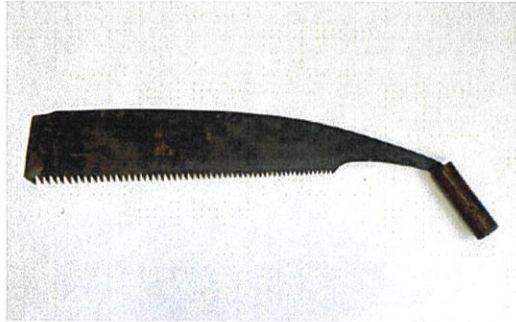


写真 2-6: A-5

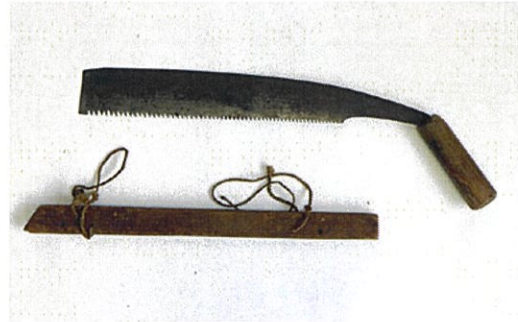


写真 2-7: B-3



写真 2-8: B-5



写真 2-9: C-19



写真 2-10: C-20



写真 2-11: C-23



写真 2-12: C-27



写真 2-13: C-24

ノコギリ

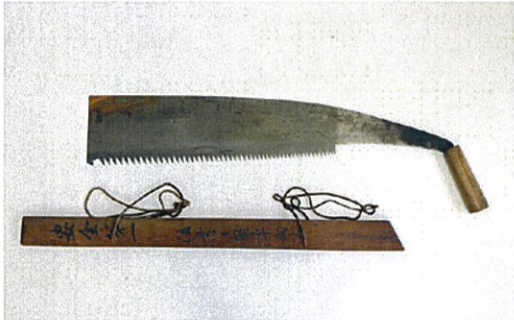


写真 2-14: A-1

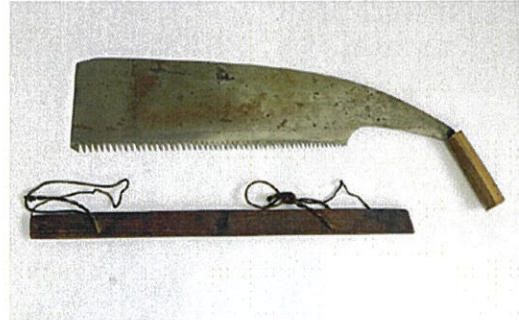


写真 2-15: A-3

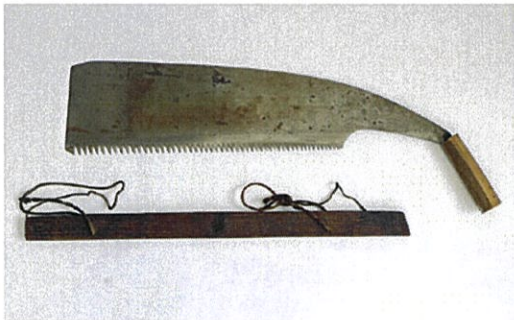


写真 2-16: A-4



写真 2-17: C-25

たかなあ。この間さ、刃が入るようになってるから。サヤは自分で作らっただべえよ。なあ、そうだべ。サヤとこの柄。

刃を磨るのは、自分でヤスリで切れるように。だからヤスリはいっぱいだった。この刃を磨くやつは、切れるようによく磨くから。砥石じゃなくて、ヤスリヤスリ。〔ノコを持ち寄っても〕持ち主がわからなくなるようなことは、ないでしょう。その磨り方からして、自分のものは自分だから。自分の家に保管しておくから。

おらあれだな、ノコギリはわがやった。だから、ここら〔指を〕切ったことある。ノコギリで切ったことある。それでマキロン消毒薬でぶっかけて〔作業をした〕。〔雪崩や洪水のあとには〕木が流れてくるでしょ、川いっぱい流れてくるから。これは山で、山小屋で燃やすのに木に。大変だったな<sup>(60)</sup>。

ノコギリ (A-5) ③ 横挽きノコだと思う。俺もあそこに持ってきたのあるけど、これはマドノコができる前だから、相当古いと思うな。横挽きと縦挽きは刃の形が違う。横挽きの方が目が細い<sup>(61)</sup>。

<sup>(60)</sup> 2022年6月30日橘タツ子・平野カツヨ・平野幸子・平野増子・星チヨセさんより聞き書き

<sup>(61)</sup> 2022年11月2日平野千代一さんより聞き書き



ノコギリ (A-5) ④ ふつうのノコギリだね。〔山仕事をする家だけでなく〕大体の家にこのくらいのノコギリはありましたね。薪切りだとか細い木を切るのに使う。そしてサヤを自分で作って<sup>(62)</sup>。

テマガリ① 普通のノコギリは、使っていましたよ。これは小さい木切る時。もっと小さいのもあったわけだね。テマガリって、ほんとに腰吊るナタと同じように、腰吊るしておく。テマガリは片手で枝切りなんか。これはほんとむかしだね。これ使ってたのは。

サヤや柄は、自分で作ったやつ。柄は丸もんですよ。切ってから乾いてくれば挿さんないけど、生のうちだったら、尖がってますからこれ挿さりますよ。そうして柄をやったんですよ<sup>(63)</sup>。

テマガリ② 薪〔を切るとき〕はただテマガリって言って、普通の〔形の〕ノコ<sup>(64)</sup>。

チェンソーの導入① ノコギリは今でも、みんな多少は使ってます。薪、山に行った時、ちょっと邪魔になったやつを伐るときとか〔に使うために〕、〔ノコギリを〕腰にぶら下げていくので。マドノコとか見て分かると思うんですけど、紐付いてるんで背負って行くんですね。背負って山に行って、こんな大きい木を伐ると思うんですけど。

今の人が使ってるのは、このくらい〔30 cm くらい〕で、紐付いて腰に着けて。そういうのなら使ってますけど、〔マドノコのような〕背負っていくタイプのやつは、まったく使ってないです。マドノコを使うくらいの作業は、全部チェンソーになっちゃって、俺の記憶があるころからは、もうチェンソーになってましたね<sup>(65)</sup>。

チェンソーの導入② 檜枝岐の場合、大体中学校抜けると、高校は他に行くんで、15歳でいなくなるんですけど。その時までは、別に自分で使わないので、うちに親父とかがこういうの背負って山に行ったら記憶もないですね。ほんと、1歳2歳頃だったら覚えてないんですけど、小学校・中学校頃だったら何となく覚えてるんで、その頃はもうチェンソーはあったような、記憶はあるですよ。

だから、60歳過ぎたんですけど、50年くらい前はもう、完全にチェンソーになってたと思いますね。まあ中には使ってた人はいるかもしれないですけど<sup>(66)</sup>。

マドノコ① これはマドノコだな。こっちは幅が広れえし、こっちは狭<sup>せ</sup>べえし〔マドノコ

<sup>(62)</sup> 2022年7月1日星長一さんより聞き書き

<sup>(63)</sup> 2022年7月1日平野勸さんより聞き書き

<sup>(64)</sup> 2022年11月1日平野紀夫さんより聞き書き

<sup>(65)</sup> 2022年6月30日星清夫さんより聞き書き

<sup>(66)</sup> 2022年6月30日星清夫さんより聞き書き

にも違いがある]。このマドノコが流行ってきて、それは能率が上がったですよ。普通のノコは、マド〔刃の切れ込み〕がなかったから。マドやって能率があがったら、普通のノコよりマドノコの方が、倍ぐらい〔速く〕切れたんですよ。マドができて、こん中さ粉〔木くず〕をくわえて出てくるから。普通のノコギリの倍ぐらい、はかどった。

マドノコ一番先、考えて作り出した、俺がいたった小屋の連中だったな。山でみんなが。これあのと同じ小屋だったから、朝良村長〔橋朝良村長〕と同じ小屋だった。あの人、マドノコ改良した。これ鍛冶屋さんに、おらがいた小屋で、型とって頼んで。これも何回もやり直して。

若松〔会津若松〕の鍛冶屋さんに行って頼んできた。みんな行って説明して。そうでねえと、鍛冶屋さんわかんないから。うん、頼んで。会津若松の「中屋」。ノコギリの鍛冶屋の名前は、どこのうちも中屋だもんな。中屋何右衛門だとか。改良するときは、どういうことを言ったかな。オレは鍛冶屋さんには行かねえだ。若松さ出るのも大変だったもんな。これは能率が上がったから、マドノコが流行りだした。マドノコは全部、横切りだから。縦には切んない。木のサヤ自分で名前書いておくがな。サヤは自分で。みんな、個人個人で作った<sup>(67)</sup>。

マドノコ② マドノコはもう、横に切る専門です。丸太を横に切る専門のノコギリ。縦には切れないですよ。マドノコの前は、普通のノコギリを使って〔伐採していた〕。マドノコというのは、大っきな木を速く伐るには、これものすごくはかどったんですよ。能率よく。木を挽くとおがくずが出るでしょう。それをここで〔マドの部分でかきだせる〕、それで速くできると思うんだけど。マドノコが入ってきた経緯までは、わかんないねえ。この辺の俺たちが小さい頃には、すでにありましたから。会津若松に鍛冶さんがいたとは聞きましたけど。値段は全然わかんない<sup>(68)</sup>。

マドノコ③ 俺自体は使ったことないですね、見たことはあります。今はもう使ってる人いないですし、使ってるところも見つからないですね。今はもうみんな木を伐るときはチェーンソー使っちゃうんで、マドノコ使ってる人は今はいないですね。今というか、もう何十年もいないですね。多分、使っても俺たちが子どもの頃とか、それより前とかだと思うんで。

俺たちが覚えてからは、まあ、俺たちが子どもの頃は使ってたかもしれないですけど、別に子どもの頃は山とかに行っていなかったんで。俺たちが子どもの頃はもう、チェーンソーは入ってきてたので。うちの親父とかも、チェーンソーで伐採やってたんで。昭和30年頃には、もうチェーンソーあったんじゃないかな。

<sup>(67)</sup> 2022年6月30日星甫さんより聞き書き

<sup>(68)</sup> 2022年7月1日平野励さんより聞き書き



マドノコ

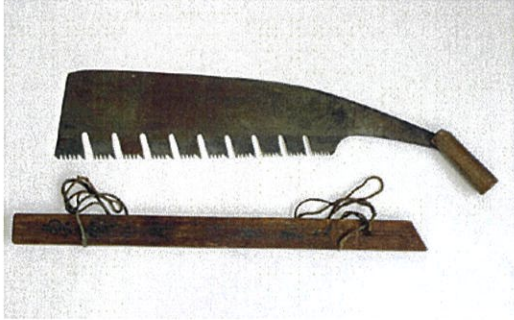


写真 2-18: A-2

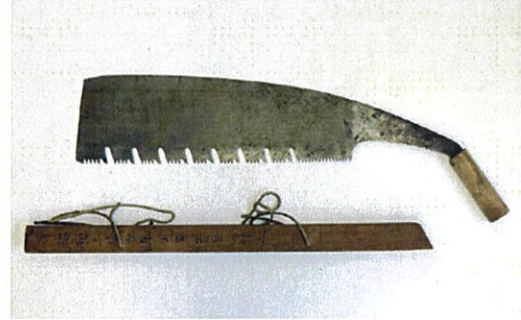


写真 2-19: A-8

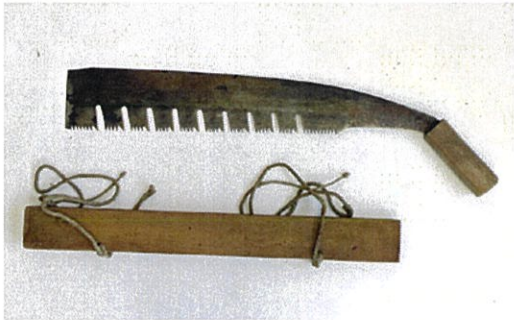


写真 2-20: B-4

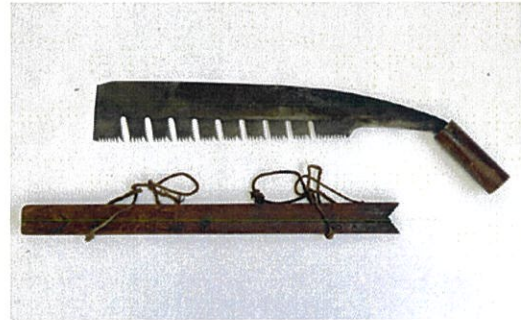


写真 2-21: B-7

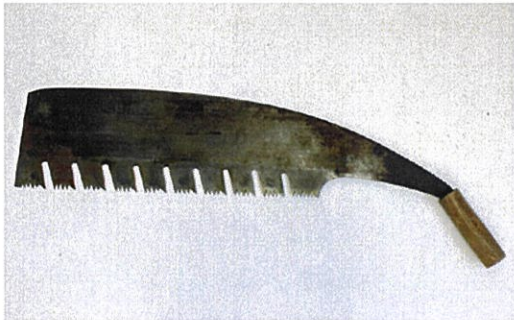


写真 2-22: B-12

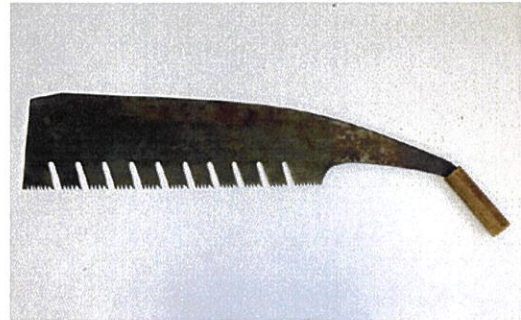


写真 2-23: B-13

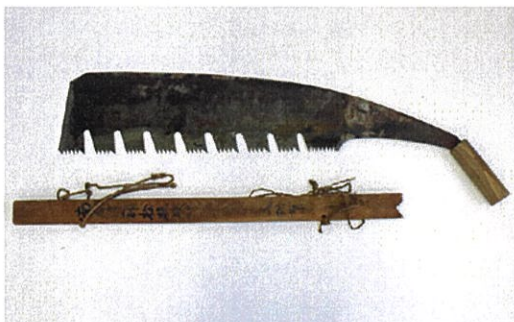


写真 2-24: B-15

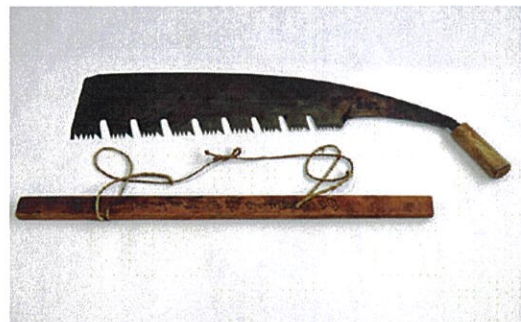


写真 2-25: C-17

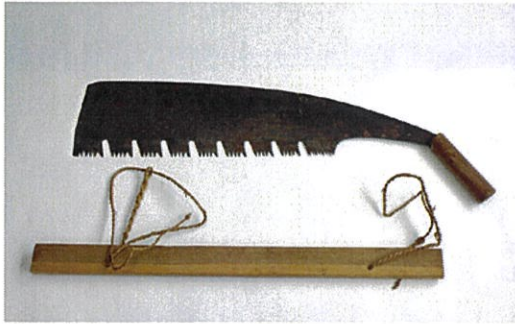


写真 2-26: C-18

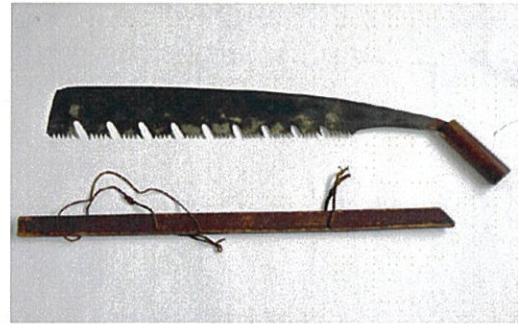


写真 2-27: C-22

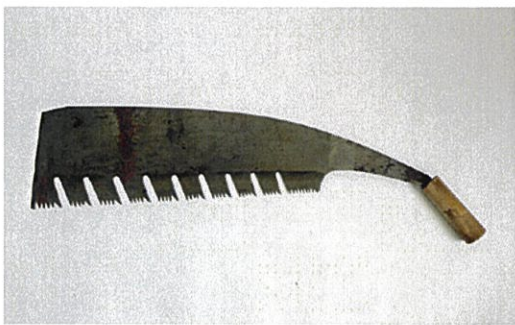


写真 2-28: C-26

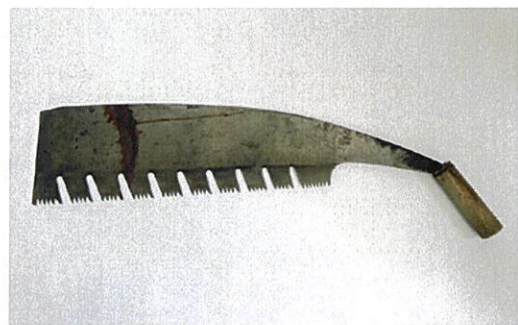


写真 2-29: C-28

なんとなくこれが、大まかに伐るっていうか、伐り倒す時に使うとか…。生の木伐るのに、最初からノコギリでやると、目が詰まっちゃうんですよ。そういうのになんないために、刃に切り込み、こういうマドの部分がついてる。伐ったカスが抜けて、刃に詰まらないうって、それくらいはなんとなくわかるけど<sup>(69)</sup>。

マドノコ④ マドノコはね、うちのおじいちゃんなんか、祖父は使っていましたね。だから昭和30年代かな。多分、使われていたのは、そのぐらいまでじゃないかな。マドノコはうちにいっぱいあるから。おじいさんはシャモジとかそういうのやってたけど、その場合はマドのついてないの。マドがあった方が切りやすいんだと思う。あれでだいぶ楽になったんじゃないの<sup>(70)</sup>。

マドノコ⑤ そうですね、両手で挽くノコですな。このマドノコは、目立て〔刃先の手入れ〕が大変なんです。上手にやればよく切れるし、下手すると切れないし。挽いていても、だんだんと曲がることもあるし、技術が大変でした。

マドノコの幅の違いは、どういうわけかな。でかい幅の広いやつと、狭いやつがあるんですよ。減ってこうなったわけではないですよ。そのわけ〔マドノコにいくつか種類があ

<sup>(69)</sup> 2022年6月30日星清夫さんより聞き書き

<sup>(70)</sup> 2022年11月2日平野千代一さんより聞き書き



る理由]は、わからないけれど。重さは小さいほうが軽いな。

みんな持ってたと思いますよ、むかしの人は。うん、そうですね、大体一人一枚ずつは持ってたと、思いますよ。むかしの人は<sup>(71)</sup>。

ノコの手入れ① ノコギリを手入れして使ってきた。もう、ヤスリで刃を磨りながら。ヤスリは紙のヤスリでなくてね。カネで作ったヤスリ。刃を磨るのは男の人。女はほとんどやらないと思います。私は親父がいたから、お父さんにやってもらったけど<sup>(72)</sup>。

ノコの手入れ② サビ対策に塗っていたものでは…、俺なんかは最初の頃あったなあ。ツバキ油とか。手入れは刃をヤスリで削ったり。この辺では目立て屋さんもいなかった。だから自分でやってたんだけど、関東に行くと目立て専門の人がいて。だからそういうところに出してた。自分でやるより全然違うから<sup>(73)</sup>。

ヤスリ (B-22-4) ① これはヤスリ。普通のヤスリだな。今でもこれは使いますよ。小っちゃいノコなんか、それで自分で[研ぐ]。切れなくなれば自分でノコの刃を。このヤスリにも種類があって、大きいヤスリと小っちゃいヤスリと、色んな種類があった。ヤスリは大抵、若松に鍛冶屋さんがあったから、そこにノコ屋があって。そこで[購入した]。

小さいものは色々だな、今の人はもうほんとにあんまり使う人なくなったけどね。大きいのは、ノコギリのほかには木挽きの大きいノコギリだな。マエビキっていう、こんな広い大きい。むかしは製材所なかったから、これで木挽屋さんに行って、こう奥に並べて板に挽いた。板とか、家材も大きいやつ割るには、この辺でいうマエビキってやつだな。メービキ、メービキってノコギリで<sup>(74)</sup>。

ヤスリ② ヤスリはどこの家でも男の人が大抵やってたね。刃を出すわけだから<sup>(75)</sup>。

ノコギリのサヤ ノコギリのサヤね。紐は背負って歩くため[に使っていた]。その伐採の場所によっては、何本も[ノコを]背負ってくとか。一人で行く場合もあるし、何人でも行く場合もあるし。メービキなんかは、あんまり遠いところは滅多にいなかったから、それには背負う長い紐は、ついてなかったと思いますよ<sup>(76)</sup>。

---

<sup>(71)</sup> 2022年7月1日平野励さんより聞き

<sup>(72)</sup> 2022年7月1日平野励さんより聞き

<sup>(73)</sup> 2022年11月2日平野千代一さんより聞き

<sup>(74)</sup> 2022年7月1日平野郁文・勝さんより聞き

<sup>(75)</sup> 2022年6月30日橘タツ子・平野カツヨ・平野幸子・平野増子・星チヨセさんより聞き

<sup>(76)</sup> 2022年7月1日平野励さんより聞き

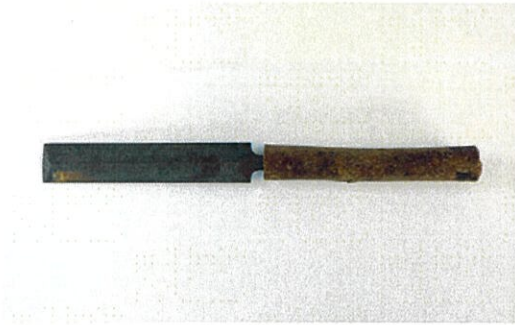


写真 2-30: ヤスリ (B-20-23-2)

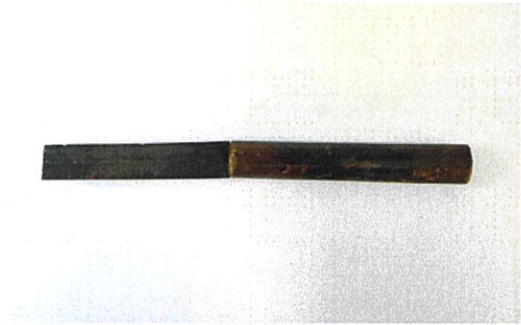


写真 2-31: ヤスリ (B-22-4)

サヤと柄① サヤにする木は、決まってないけど、柔らかい軽い木だから。スギの木とかそういうので作ったんですよ。取っ手の木も、決まってないですよ。それもやっぱり柔らかい木で、ナラとかブナの木なんかは、ほとんど使ってなかったですよ。マルタンボウだけど、シナの木ですよ。ニスみたいなものはなかったですよ。ないからなにも塗らないで使いました<sup>(77)</sup>。

サヤと柄② サヤや柄に、記念に自分の名前をとか、何年何月に作ったとか。あと屋号とか、そういうものを書きました<sup>(78)</sup>。

伐採後の植林 木を伐った後は、よく営林署でカラマツ植えましたよ。あと個人のうちはスギとか、ヒノキはほとんど植えなかったけど。スギとカラマツだね。植えたのは。伐ったあとは必ず植えましたよ。苗木を買って、植林しました。カラマツは、雪国には早く育て、ずーっと伸びてくから。スギなんかの倍くらい早いんじゃないかな。ある程度、大きくなるまでは<sup>(79)</sup>。

カナヤ(C-31-5) カナヤだな。木をノコで伐っていくと、切り口から狭くなっていくから、閉められちゃう。場所によって、木の重量で〔ノコが抜けなくなる〕。カナヤはそこに打ったり。カナヤを入れておいて、狭くならないようにして伐っていく。

そして、もうちょっと大きいやつかな。木をムリギリ(無理伐り)といって、倒れそうな方角でなく伐りたいときには、カナヤを使った。あんまりいっぺんに伐っちゃうと、転ぶとき割れができる。カナヤと木のヤも使ったですよ。硬い木で、もっとこれよりでっかいヤを作って。今でいうとクサビだな。打ち込んで使った<sup>(80)</sup>。

<sup>(77)</sup> 2022年7月1日平野励さんより聞き書き

<sup>(78)</sup> 2022年7月1日平野励さんより聞き書き

<sup>(79)</sup> 2022年7月1日平野励さんより聞き書き

<sup>(80)</sup> 2022年7月1日平野郁文・勝さんより聞き書き





写真2-32: カナヤ (C-31-5)



写真2-33: カナヤ (B-20-21)

#### 4. 木挽用具：製材用ノコギリ

メービキ① 名前はメービキと言ってますよ。縦に挽くノコギリなんです。材を縦に挽く。立って、挽いたんですよ。横に挽くのは、ノコギリが違うんですよ。メービキはもう縦専門。だからむかしこういう板を墨して〔墨をつけて〕、四角の材木にしました。スミツボで、大工さん持ってるスミツボで。ピチーンピチーンと、大体、板の厚さにスジ引いて。そしてこう縦に挽いたんですよ。

もう、メービキは目立てが大事でね、目立てを上手にやると〔良く切れる〕。刃を上手に研いで加工すると、上手くいきますよ。そうそうヤスリで<sup>(81)</sup>。

メービキ② メービキ使ったのは、私の子どもころだな。もう私85歳になったけど、私の10歳か15歳ころまででねえかな、これ使ってたのは。昭和20(1945)年ころまででないかな。はっきり覚えてないけど。私中学卒業したときは、もうもちろんこれ、俺の親父に使わせられましたから。たしか俺たちのころは、もう子どもころから、中学生から木伐り、親父にこき使われましたよ。

マドノコの方がメービキよりも、遅くまで使ってたと思いますよ。製材っていうのは、あと機械で〔やるようになって〕。製材所〔檜枝岐村営林産所〕さ、持ってって。俺たちがおっきくなってから、中学卒業した昭和30年ごろには、もう製材所がありましたから。この村も<sup>(82)</sup>。

メービキ③ メービキっていうのは、大きいノコギリ。メーは、前という意味だ。檜枝岐の言葉では前はメイ、メーっていう。前さ挽くの。メービキ使うときは、もうヤグラみたいに立てて、ほうして、こうやって立って並んでやったよね。男たちが<sup>(83)</sup>。

<sup>(81)</sup> 2022年7月1日平野励さんより聞き書き

<sup>(82)</sup> 2022年7月1日平野励さんより聞き書き

<sup>(83)</sup> 2022年6月30日橘タツ子・平野カツヨ・平野幸子・平野増子・星チヨセさんより聞き書き



写真 2-34：メービキ (C-10)



写真 2-35：メービキ (C-11)

メービキとマドノコ① メービキは木を縦に切るやつ。マドノコは横。家の材木を、柱挽くときは縦挽き。それで材木を作る。マドノコは横に、横に挽く専門のノコ。最初にマドノコで横に切って。何間何間とか〔決まった大きさの〕材木にして。それを柱に挽くときはメービキだ<sup>(84)</sup>。

メービキとマドノコ② メービキはほら、製材するのに使うやつだし、あとマドノコは横切り。マドノコは丸太を横に切るときに使うやつだから。〔大工はメービキやマドノコを〕持ってない。うん。使わない。

だから、梁なんかですごいおっきいのあるじゃない、普通のノコでは届かないようなのが。あの、45 cm ぐらいになると、もうこのノコでは挽けないから。だからそういう時はメービキで。なんというのかな、我々やってるころ、大工さんとこに手伝い来る人がいたんですよ。メービキでやってた職人さんみたいな人が、大工さんの手伝いをやっていましたね<sup>(85)</sup>。

檜枝岐村林産所 製材所は今なくなった。いつまでだったかなあ、もうだいぶ前だなあ。雪で工場、屋根がつぶれて、それでやめちゃったから。もう 20 年ぐらい前かなあ。製材所はいまの道の駅のあそこにあったんです。製材所の名前は、檜枝岐林産所じゃない？ 村営だから。一時期 20 人ぐらい居たんじゃないの<sup>(86)</sup>。

製材 製材するには、もうお金出して製材してもらうしかなかったですよ。建築材だったら、やっぱり家建てるのには、いろいろな材がいる。柱だったら細いから、またほんと

<sup>(84)</sup> 2022 年 6 月 30 日星甫さんより聞き

<sup>(85)</sup> 2022 年 11 月 2 日平野千代一さんより聞き

<sup>(86)</sup> 2022 年 11 月 2 日平野千代一さんより聞き



にでかくなると、大きくワリモノにする場合もありましたね<sup>(87)</sup>。

営林署 今は木を伐りに行く人は、もうほとんど居なくなりました。私はもう何十年もやりましたけど、檜枝岐村はほぼ全部国有林だけど、営林署直営で全部切っちゃったんですよ。まあ今は生えてはいますけど、ろくなのないですよ。うん。ほんとにいい材料は全部切っちゃったから。この大きな山全部、奥まで。栃木県との領分境の方まで全部切っちゃったんですよ。

営林署でやるようになってからは、山から出すのにソリを使わずに集材機で。ワイヤー線貼って、そして機械で引っ張りあげて。いまはあの奥の方で営林署で、少しずつやってるけど、なんか今ユンボみたいなもの使って、引っ張り出すらしいですよ<sup>(88)</sup>。

##### 5. 搬出用具

ガンタ (B-14) ガンタか。木を転ばすやつだな。長い柄に〔金物を〕入れて〔使う〕。材木をちょこっとでも動かすとき、これでこねれば、材木は向きを変えたり、寄せられる。これが二丁あれば、二人でやれば大抵のものが動いた。うちの車庫にもある。今でも使ってる。丸太転がしたりするのに、ストーブ焚くのに、薪使ってるから。4尺ではないから、5尺ぐらいの柄かな。そのぐらいかな。1m 50 ぐらいの。長いやつは6尺ぐらいはあったな。あとこの他に、小っちゃいトビグチといって、竹に小さい刃をやって。ガンタは大きな材木いじるとき。柄にいくらか勾配ついてるから、こねれば材木動かすのに楽なんだよ<sup>(89)</sup>。

キマワシ〔木回し〕(C-31-2) キマワシだ。六尺かもっと長いとか、木をぐるっと回すとき、これを使ったんです。ここに竿を入れて、ぐるっと木回し。俺たちの時代には、あんまり使わない。ほんのむかしの人。我々の時には、ガンタといって。ガンタとトビグチと。あとこの辺でドットコって言ったな、大きな木を回すのに。ドットコあれば何でも大抵〔の木は動かすことができた〕。

古いなやっぱり。俺の世代より、前に使ってたものが多い。俺たちはこれ使わない。親父たちだべなこれ使ったのは。ちょっと木動かすときは、キマワシで。ぐっと上げたり、引いたり<sup>(90)</sup>。

カスゲー〔鋸〕(B-22-5、B-22-6) カスガイはカスゲーと言った。材木を転ばないように。

<sup>(87)</sup> 2022年7月1日平野励さんより聞き書き

<sup>(88)</sup> 2022年7月1日平野励さんより聞き書き

<sup>(89)</sup> 2022年7月1日平野郁文・勝さんより聞き書き

<sup>(90)</sup> 2022年7月1日平野郁文・勝さんより聞き書き

檜枝岐の暮らしと民具（一）

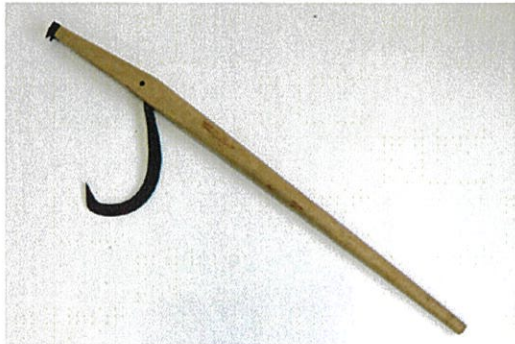


写真 2-36: ガンタ (B-14)

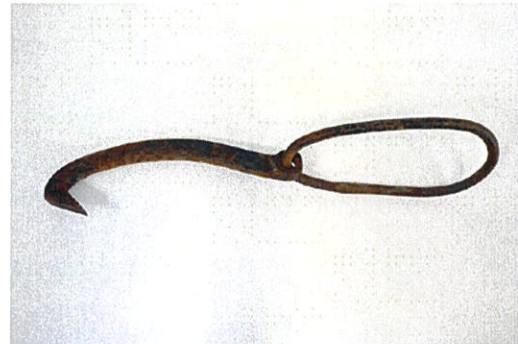


写真 2-37: キマワシ (C-31-2)



写真 2-38: カスゲー (B-22-5)



写真 2-39: カスゲー (B-22-6)

材木は丸いでしょうよ。それを固定するために使ったわけ。材木同士を並べて、カスゲーはめて転ばないようにしていた。ゴロっと行かないように。わずか一本でも、これをとめてね。転ばないように使ってた。

これも大体、会津若松の鍛冶屋さん。金物類は、もうほとんど田島か、会津若松の鍛冶屋さんだ<sup>(91)</sup>。

マンリキ (B-19-16) これはマンリキ。長いロープを自分でつけて、山から材料を下ろすときに[使った]。そして材料にトントンと打ち込んで、自分で引いて出してく。そんなとき、使うわけだな。片っぱ、片方をぶって、抜くときは裏側を叩くとちゃんと出てくる。こういうものも鍛冶屋が作った<sup>(92)</sup>。

マンリキトビ② 図 2-1 のように、材木を引っ張るときに使う<sup>(93)</sup>。

チンチョ・トビ 図 2-1 のように、材木を吊り上げたり、引っ張ったりするために使

<sup>(91)</sup> 2022年7月1日平野郁文・勝さんより聞き

<sup>(92)</sup> 2022年6月30日星甫さんより聞き

<sup>(93)</sup> 2023年1月27日星長一さんより聞き





写真2-40: マンリキ (C-33)



写真2-41: マンリキ (C-34)



写真2-42: マンリキ (B-22-1)



写真2-43: チンチョ・トビ (B-19-14)



写真2-44: チンチョ・トビ (B-19-15)



写真2-45: チンチョ・トビ (B-22-15)

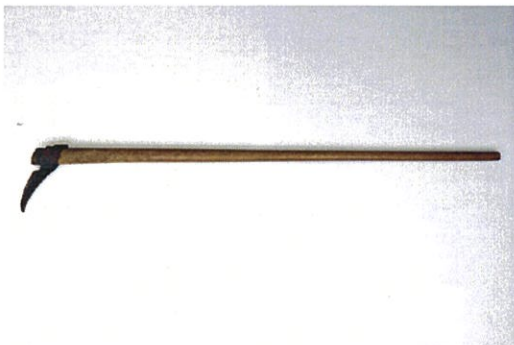
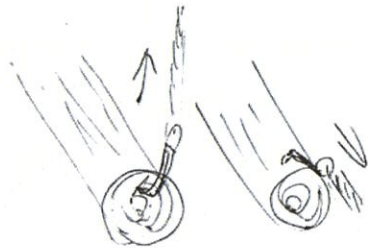


写真2-46: トビグチ・棒トビ (C-31-4)



写真2-47: ドットコ (B-22-7)

チンチョ・トビ



マンリキ・マンリキトビ

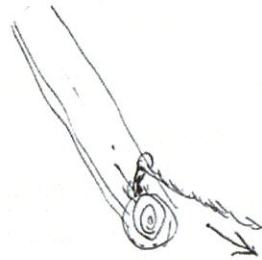


図2-1: チンチョとマンリキの使用方法 原図: 星長一

う<sup>(94)</sup>。

トビグチ・棒トビ (C-31-4) 木材を動かすのに用いる。金属部分がドットコより小さく、棒は細く長い<sup>(95)</sup>。

ドットコ (B-22-7) 木材を動かすのに用いる。金属部分がトビグチの2倍近くあり、柄は太くガッチリしている<sup>(96)</sup>。

---

<sup>(94)</sup> 2023年1月27日 星長一さんより聞き

<sup>(95)</sup> 2023年1月27日 星長一さんより聞き

<sup>(96)</sup> 2023年1月27日 星長一さんより聞き



### 第3章：漁撈・狩猟用具

#### 1. 漁撈・狩猟用具の概要

漁撈・狩猟用具に含まれる民具は、数量は比較的少なく、漁撈用具5点と狩猟用具7点の計12点であった。点数は少ないものの、いずれも檜枝岐村の特徴をよく示す民具である。

こうした特徴的な民具として、漁撈用具では、サンショウウオ漁に用いるウケがある。栃木県から伝わったとされるサンショウウオ漁は、漢方薬の原料となるサンショウウオを捕獲するために行なわれていた。現在は、観光客にふるまうための、いわば珍味を提供するために漁は続けられている。また狩猟用具で特徴的なのは、クマを狩る道具類である。クマヤリと鉄砲のタマイレを確認することができた。

漁撈・狩猟ともに現在も続けられているが、かつてほどの華やかさはなくなっている。漁撈の場合はダム開発に伴う河川環境の変化から、魚が少なくなっている。マスやカジカなどは姿を消してしまった。また狩猟も、銃規制や環境保護意識の高まり、さらにクマ猟は福島第一原子力発電所事故の影響をうけている。このように、かつてのように誰しもが楽しむことは、できないものとなりつつある。

漁撈・狩猟用具に関する聞き取りとして、たいへん印象的であったのは、ひとつの道具の語りから始まって、話が途切れないことである。狩猟は男性のみが行なっていたが、漁撈活動については、かつては男女問わず行なわれていた。漁撈や狩猟に臨んだ際の、経験談がよどみなく語られた。

冒頭にも述べたように、今回の調査では、民具の点数が多かったこともあり、どうしても直接的に民具にかかわる話に限定されがちであったことは、調査に関する反省点である。しかし、この漁撈・狩猟に関しては、ひとつの道具の使用方法を超えて、多くの語りを聞くことができた。本章の記述から、当時、人びとが遊び仕事に傾けていた情熱をうかがい知ることができるはずである。

#### 2. 川・沢での漁撈

魚捕り むかしは今のようにはサケもなければ、サンマも買えなかった。川の魚を捕って食べてたの。川に魚がたくさんいたから、良かった<sup>(97)</sup>。

カジカヤス (C-12、C-13) ① ああヤスカ。魚捕りのヤスでしょ。そうだな、これはカジカヤスってやつだな。カジカヤスは、カジカっているじゃない、こんな小さい。ハゼみたいの。大きくても10cmぐらいの魚。子どもたちが、カジカ捕るのに〔ヤスを〕使った。カジカヤスは多分、釘を溶接したみたいなやつなんだ。それで壊れないように、針金巻い

<sup>(97)</sup> 2022年11月2日橘タツコ・平野カツヨ・平野幸子・星チヨセさんより聞き書き



写真 3-1: カジカヤス (C-12)



写真 3-2: カジカヤス (C-13) (部分)

て使ってたから。

〔ヤスには〕カジカヤスとイヨヤスってのがあって。檜枝岐ではイワナのことをイヨっていうから、イワナの大っきいのを捕るのにはイヨヤスってのがあったんですよ。カジカヤスよりもっと大っきいのが。本当に幅こんなのも、幅 15 cm ぐらいあったんじゃないのかな。それにむかしは、マスがこの辺まで上がってきたから。それはマスヤスっていうのかな。

〔ヤス突きは〕昼間もやったし、夜もやった。ハコメガネって、木で中にガラスが入ってるやつ、それで見ながら。夜は、カンテラで夜突きよ。今は水メガネ〔水泳用のメガネ〕で、子どもたちはみんな潜って捕るからな。いまの子どもたちも、ヤスを持ってやってる。どこの家にもこういうものはある、うちなんかも何本もあるわ。

むかしは大きい魚が結構いた。いくらでもいたもんね、今はあんまりいないけど。これやることによってねえ、子どもが一人で水泳ができるようになるから。だって流れちゃうと商売になんないもの。自然とだから覚えないと。捕った魚は、焼いてすぐ食べたんじゃないの。そんな必要な以上には捕ってこないから。ナワバリは無かったんじゃないかな<sup>(98)</sup>。

カジカヤス② ヤスだべや。ヤスだ、ヤス。魚突いたり。私たちが子どもの頃は、よくやりました。カジカこう突いて。10 cm くらいの魚のだね。檜枝岐の子どもたち、むかし持ってたな、このヤス。今の子どもも持ってるのは、刃先が3本のとか、そんなのしかないが、むかしのヤスは刃が多い。いや今は〔むかしほど〕使ってねえな。もしかすると、人の足やれば〔突いてしまうと〕困るから<sup>(99)</sup>。

カジカヤス③ むかしはヤス突きやりました。ダムじゃなくて、近くの沢で。俺たちヤスでやってたんですよ。夜、カンテラ持って、ガラス箱持って、そしてヤス持って、夜突き。

<sup>(98)</sup> 2022年11月2日平野千代一さんより聞き書き

<sup>(99)</sup> 2022年11月2日橋タツコ・平野カツヨ・平野幸子・星チヨセさんより聞き書き



みんながやってきましたから。

道具は今もありますよ。ヤスとカンテラ。カンテラってわかるでしょ、ガス入れて、上に水入れて、水たらししてシューっと。あれはすごく明るくて良いですよ。カンテラは、よそから買ってきて〔使っていた〕<sup>(100)</sup>。

カジカ 大きい石の下はがすと、そこにカジカの卵がいっぱい粘ってた〔くっついてた〕。きれいな透き通る色だ。オレンジは産んだときの色だな。カジカの卵が、みんな石の下さ粘っついてさ、石の下さびったり粘っている。しっぽが出てくると石から離れるの。

今、カジッカもいなくなったなあ。いねえな、はあ。おれ〔チヨセ〕子どもの頃、弟、石の下さこう手突っ込んで、ねじ込んで、石でも剥がして手入れたったの。今いねえ。河原がねえからな。むかしと違って<sup>(101)</sup>。

カジカの好み 〔ヤスで捕った〕カジカは食べる。カジカ、私〔カツヨ〕、嫌いだった。頭が嫌で食べられなかった。カジカも脂身があって美味しいことは美味しいけどね<sup>(102)</sup>。

ヒキバリ 〔集めた道具のなかに〕ヒキバリは、なかったかな。ヒキバリはちょっと大きい針を、竿の先につけて、箱の中で見て、石の下へ引くの。大きい箱の下、5、6cmくらい、水が入らないようにしておいて。そのガラス箱で水中を見て、魚の居るところ引くの。そうして魚に引っかけてな。大きい岩の下。あっちこちの岩の下。ヒキバリを使うのは、大きい水のとこ<sup>(103)</sup>。

ハコメガネ ハコメガネは、魚を捕るときに使う。ガラスの箱を、こうしてかざして見るわけね。よく見えるからな。いた時はそおーっと、長い棒の先に、ヒキバリつけるわけ。そうして上手に行って、ガツと引くわけ。手早く。ノロノロしてると、魚は逃げるから。逃げた魚は大きいよね<sup>(104)</sup>。

ヒキバリのアギ ヒキバリにアギ〔釣り針の反しのこと〕って言うのがあるんだ。小っちゃい、アギで言うから、抜けないように。これがアギで言うて、これで引っかかるから。アギに引っかかんないと、〔抜けてしまって〕ダメだから。そこが入んねえとダメ。逃げちゃうから<sup>(105)</sup>。

---

<sup>(100)</sup> 2022年7月1日平野励さんより聞き書き

<sup>(101)</sup> 2022年11月2日橘タツコ・平野カツヨ・平野幸子・星チヨセさんより聞き書き

<sup>(102)</sup> 2022年11月2日橘タツコ・平野カツヨ・平野幸子・星チヨセさんより聞き書き

<sup>(103)</sup> 2022年11月2日橘タツコ・平野カツヨ・平野幸子・星チヨセさんより聞き書き

<sup>(104)</sup> 2022年11月2日橘タツコ・平野カツヨ・平野幸子・星チヨセさんより聞き書き

<sup>(105)</sup> 2022年11月2日橘タツコ・平野カツヨ・平野幸子・星チヨセさんより聞き書き

ヤスのアギ（C-13） ヤス〔C-13〕にも、アギはあるよ。ヒキバリの用の、引っかかった魚が出ない仕掛けがあるの、針に逃げられないやつが。アギがついてないと〔一度かかって、魚が〕逃げるから<sup>(106)</sup>。

ヒキバリの事故 ヒキバリは、釣り針の大きいやつ。こうカギにして、つけて。私〔カツヨ〕の弟、むかし、小さいとき、ヒキバリ引いてっか、右足のふくらはぎさ引っ刺して。それでそのむかし、その人〔タツコ〕の旦那さんが、ちょうど通りかかって、それを取りきって〔取り外して〕、連れてきてくれたの<sup>(107)</sup>。

冬のヒキバリ 寒くなると、パンツも何もないから、石で腹であっためて、そして暖かくなったらまた潜り込んで。冬もヒキバリで捕りに行く<sup>(108)</sup>。

ニゴスクイ おれ〔幸子〕は、ニゴスクイやった。川が濁ったとき。だから、こんなとこまで〔へそより上ぐらいまで〕、真っ赤に濁った水のなかに入って。雨が降って。水が増えてきたとき。大雨の後は、チャンスなんだ。

真っ赤な水がドンドンと出てきたとき。こんな網、大きな丸型に切って、棒のあるやつを。深い方にさして足で追い込むわけ。で、ぐっと上げれば何匹か入ってる。それは良くやって。真っ赤に濁ったとこに、そーっと入れて。そして水のどんとどんと流れる方に回って、足で追い込むわけ。結構、魚捕ったね。

弟3人いたから。女の子は来なかったが。〔魚が捕れると〕弟たちのとこさ、ぼーんぼーんと投げて。兄弟大勢で、私がガキ大将で〔ニゴスクイ〕をやっていました。私だけが川に入って、弟のいる陸〔オカ〕に、魚をポンポンと投げて。だから弟たちは、オカモチ。陸でバケツの中に魚を入れる役。オカモチっていう役<sup>(109)</sup>。

ズー あとはズー。こんな筒。細いやつを編んで作って、しっぽは結んで。ほして、魚の通り道に伏せておくの。そのわき通られないようにして<sup>(110)</sup>。

大イワナ① 玄関のイワナ、あれは一応俺が釣ったんですけど。こっから新潟県に抜ける道路ありますよね。銀山湖って、わかります？奥只見ダム。あそこ大イワナで有名なんです。ダムの中で〔釣る〕。釣り竿というよりボートで。トローリングというんですけど、

<sup>(106)</sup> 2022年11月2日橋タツコ・平野カツヨ・平野幸子・星チヨセさんより聞き

<sup>(107)</sup> 2022年11月2日橋タツコ・平野カツヨ・平野幸子・星チヨセさんより聞き

<sup>(108)</sup> 2022年11月2日橋タツコ・平野カツヨ・平野幸子・星チヨセさんより聞き

<sup>(109)</sup> 2022年11月2日橋タツコ・平野カツヨ・平野幸子・星チヨセさんより聞き

<sup>(110)</sup> 2022年11月2日橋タツコ・平野カツヨ・平野幸子・星チヨセさんより聞き



餌をつけてボートをゆっくり走らせて、こうずーっと走らせてると、そのうちに食らいついて釣れるんですよ。ボートの免許を取って、ボート買えば（笑）。

尺イワナって、30 cm 超えると大きいと言われる、そうですね。普通の溪流釣りとかでは。あれで 75 cm くらいかな。むかしうちに、いまは魚拓なくなっちゃったんだけど、奥只見ダムができて何年か経った頃は、5 年か 10 年たったころは、イワナがすごい大きくなって、一躍有名になっちゃったんですよ。あの頃の魚拓は、なくなっちゃったんだけど。どれくらいかな 90 何 cm とか、むかしはそういうのいっぱいいたみたいなんですけど。

今はもう釣り人が多くなっちゃって、60 cm を超えるのは、年に数えるくらいしかあがないようなことも言ってましたけどね。普通、塩焼きとかで食べるの、大体 20 cm くらいですけどね<sup>(111)</sup>。

大イワナ② ほとんど俺たちは、イワナだけだったですね。私イワナで一番大きいの捕ったのはね、大津岐ダムで。ダムで育ったやつが、卵産みに沢さ戻ったところを捕まえたんだけど。60 cm だったかな。63 cm くらいだったかな。それは焼いて食べました。塩焼きにして。でもそんなおっきくなったら、あまり美味しくないよ。

いや大津岐はね、奥只見湖で育ったやつは、60 cm くらいなのいますよ。2 尺くらいのいますよ。もう産卵には、必ずイワナ細い沢に登ってきますから<sup>(112)</sup>。

大イワナ③ この人〔チヨセ〕、只見川のほうで結構捕ってた。名人。只見川は太いから。開拓地の方で。やっぱり、沢でなければダメだ。沢は、本流さ突き込むところに。この人の捕ってたのは、両手広げるほど〔約 70 cm ほど〕だもの。イワナが大きくなって。

むかしは、ヤミというも少しはあったからね。して悪かったから。やっちゃいけない、やってはいけなかったから。それを、コソコソとやったの。悪いことだから。ヒメマスなんだ見たら…〔もったいなく感じる〕。

悪いことはね、ないでしょう。

いやいや、やっぱり卵なんかあったから、良くはなかった。して、あれは卵も大きかったぞ。10 月頃にだから捕って。今 10 月は、捕っていけないの。お腹いっぱいだから。そうすると、お尻からぶーっと卵が出るから。だから 9 月いっぱいやめるわけだね、釣りも。魚がいなくなるから。10 月捕れば<sup>(113)</sup>。

檜枝岐魚苑 イワナは、いまは民宿・旅館とかで使ってるのは、檜枝岐魚苑ってあるんですけど、あそこでイワナの養殖をやってるんですよ。そこに注文すると、配達してくれる

<sup>(111)</sup> 2022 年 6 月 30 日星清夫さんより聞き

<sup>(112)</sup> 2022 年 7 月 1 日平野勸さんより聞き

<sup>(113)</sup> 2022 年 11 月 2 日橋タツコ・平野カツヨ・平野幸子・星チヨセさんより聞き

んで、今はほとんどの民宿・旅館が、そこ使ってますね。釣りは、俺自体はあんまりやらないですね。やってる人もいます、好きで趣味で。趣味程度でやってる人はかなりいます<sup>(114)</sup>。

### 3. サンショウウオ漁

サンショウウオ漁 今朝出発したのが、6時頃ですかね。帰ってきたのが、ちょうどお昼頃だな。何と説明すればいいのかな…山っていうか、沢の上流。最初に山のなかで水が湧き出しますよね。流れが集まってある程度、水量が集まったところで、イワナとかがいないところ。魚止めの滝って[イワナが遡上できない滝が]、そこら辺の沢にあるんですけど。それよりも上流で、[サンショウウオ漁を] やってるんです。

今日行ったところは、御池って方面になります。途中までは、車で行けるところまでは車でいって、そこからもう自分の足で歩いて行って<sup>(115)</sup>。

山菜採りとサンショウウオ漁 やっぱり5月の半ば頃から6月上旬頃が、山菜のピークなんです。もう大体は、山菜の時期終わっちゃったんですよ。だからここら辺にいる人は、もう山菜が新鮮なのは終わっちゃったんですね。

俺がサンショウウオ漁をやってる所は、雪が多くて、ここら辺の山菜よりやっぱり2週間・3週間とか遅いんで。行ったついでに、周りのやつをちょっとこう採ってくる。そういうところに、サンショウウオ漁とかに行く人は、行けば多少は採れると<sup>(116)</sup>。

サンショウウオの捕獲場所 沢は、滝とかあるんで、ロープとかつけて登ってったりするんで。行きたい人とかって言う人結構いるんですけど、もしそこで落ちたりとかすると、ちょっと大変なんで、ほとんど連れては行かないですね。滝とかのない沢でやってる人ならば、まあ体力さえあれば、ただ歩いていただけなんで大丈夫ですけど。

俺のやってるところ、結構滝がいっぱいあるんで。ちょっと危ないんでね。もし、なんかあったらば、携帯は通じないですね。救助呼ぶのも大変ですし。本格的な沢登りのハーネスつけて登るとか、そういうのはやってないです。ただ自分で、その枝とか掴んで行けるところは、まあそれを掴んで行って、どうしても無理な、そういう枝とかがないような所はしょうがないんで、ロープを上から吊って、ロープでこう結び目作って。ただ自分でロープつけて、それ掴んで行って、っていう感じですね。

場所によっても違うんですけど、今日行ったところは上流から行くしかないんですよ。下流から行けないこともないんですけど、車道まで行って、そこから歩くと、距離がすご

<sup>(114)</sup> 2022年6月30日星清夫さんより聞き書き

<sup>(115)</sup> 2022年6月30日星清夫さんより聞き書き

<sup>(116)</sup> 2022年6月30日星清夫さんより聞き書き



い遠いんで。それよりはひと山越えて、山1回登って上から降りて、また戻って来た方が、早いんで。それでも5~6時間かかるんですよ。

サンショウウオのポイント〔捕獲場所〕はあります。自分のポイントっていうか、なんというのかな、サンショウウオは、普段、山の中に住んでると思うんですけど。産卵の時期に、沢に降りてきて。沢の中で産卵して、また帰っていくんでしょうけど。その降りてくる、どこを降りてくるっていうのはよくわかんないんですけど、やっぱり集まる場所があるんですよ。

そこに仕掛けをかけると、入って。それより2mとか3mとか離れたところに、ちょうど仕掛けのかけやすいところあるから、ここもいいかなと思ってかけると、全然入らないとか。全然っていうことはないんですけど、こっちで50匹入ってたのに、こっちで5匹くらいしか入らない。だからその降りてくる場所によって、たぶん良いポイントは決まっちゃうっていうんですかね。

沢の中に降りると言っても、そんな10mも20mは、多分降りていかないんですよ。その間で良い所があれば産卵して、帰っちゃう。だから、そんなに難しい漁ではないんですよ。そのポイントさえ見つければ。あとは、毎年同じポイントに仕掛けさえやるとけば、誰がやっても捕れるんですよ。そのポイント見つけるのが、なかなか。

まあそれは、その沢を前やってた人に聞くとか。あとは自分で、ここに掛けてかからないから若干ズラして。山の中でも多少、こうチョロチョロと水が出てるところありますよね。そういう所の、集まったところをここら辺が良いのかなって、かけてみるとか。何年かやっていると大体分かるんで。ああ大体ここら辺は入る、ここら辺は入らないって〔わかる〕。人間が考えると、何となく良さそうだなと思っても、サンショウウオには、なんか気に食わないとかっていうのもあるんで。そういうポイントさえみつければ、行きさえすれば、誰でも捕れる。

そんなテクニクはいらないですよ、体力あって、行きさえすれば。あとはまあ、今年、あんまり夕立ちみたいな降らないんでいいんですけど、夕立ちみたいな降ると一気にこう水量が増えて。で、周りの枯葉とか、枯れ枝みたいなパーっと流れちゃって、仕掛けのなかにそれが入ちゃって。もう行くと、ゴミばっか入ってて、サンショウウオは0とか。そういうこともあるんで。なかなか、上手くは行かないんですけど<sup>(117)</sup>。

ズーの使い方と変化 (B-1、B-2) サンショウウオ捕る道具は、そうですね、むかしからのはズーっていうんですけど、竹で編んだようなの。竹のズーはうちの親父とか、〔村にサンショウウオ漁が伝わった〕最初のころの星三兄弟のおじいさんが使ってたやつ。今は使っていないですね。俺、サンショウウオ始めて、何年くらいたったかな？ 30何年くらい

<sup>(117)</sup> 2022年6月30日星清夫さんより聞き



写真3-3: ズー (B-1)



写真3-4: ズーの内部 (B-2)

経つんですけど、ほんと最初の頃は使ってたんですよ。ズーっていうのを。でも、やっぱり〔見回りと管理が〕大変なんで、何か良いの無いのかなって思って考えて。

ズーは、竹を編んで、山葡萄の皮で作ったやつ。これが滝みたいところで、水が入るようにして、そうするとサンショウウオが入って、水は当然抜けるんで、下の方にサンショウウオが溜まっていく。ただ、滝みたいところにしか設置できなくて、すぐ〔サンショウウオが〕死んじゃうんですよ。サンショウウオが、水で打たれて。〔生きていても〕水で洗われて、皮が剥けたりとかするんで、見た目も悪くなっちゃうんで。むかしは山に泊まり込みで、毎日のように行って見て、少しずつ集めてやっていた〔からズーを使っても、サンショウウオが傷まなかった〕。それにむかしの竹のズーっていうのは山に行って漁が終わったら、持ってきて乾燥させて、修理しないとイケない。そういう手間もあったんですけど。

その次に出てきたのが、プラスチック。うちの親父たちのときが、大体プラスチック製になった。竹の代わりに、プラスチックで作ったやつ。材料だけ違うものになって。ズーだと持ち帰って修理とかするのも大変ってことで。もっと簡単な方法ないかなって。俺が開発した訳じゃないんですけど。プラスチックだったらば、もう山に置いてきても大丈夫なんで。

俺は竹のズーはほとんど使ったことないんですけど、プラスチックは使ったことあります。平成3・4（1991・1992）年から〔サンショウウオ漁を〕やってるんですけど、それから、平成10～12（1998～2000）年の頃までは、多分ズーを使ってたような記憶ありますね、俺自体はですよ。ただ、これでも、やっぱり滝みたく落ちるところにしか、セットできないんですよ。あんまりこう、こういう所〔高低差のない所〕だと、入っても出てきちゃうんで。

それにプラスチックだと、やっぱりしょっちゅう、1日おきとかに見に行かなきゃいけないんで。仕事もあってなかなか行けないんで…。なんかこう、もっと良い方法無いなってことで。網をやるようになって。

それで俺たちの時になって、網〔ペットボトルに網を取り付けたもの〕になった。よく



ホームセンターとかに売ってる網で、カラス避けのネットみたいなものがありますね。ゴミのネット。5mm四方くらいで、ナイロンの紐で編んだようなネット。あれを筒状に加工して、その先にペットボトルの入口を、ちょっと切ってくっつけて。で、水が流れてるそこにこう、網を縛って。網を水のなかに入るようにしとくと、ずっと死なないで生きてるんで。でも今はもう網でずっと生きてるんで、3日に1回とか、そのくらいしか行かないんですよ。

最初は網も、色々試しました。色んなサイズの網いっぱいあるんですけど、あんまり大きいとサンショウウオ抜けちゃうし、あんまり細かいと、今度細かいゴミがいっぱい入っちゃって全然ダメなんで。今使ってるやつが、大体網目がどのくらいかな、7~8ミリかな？サンショウウオは、抜けるギリギリくらいの大きさの網。

もう今はペットボトルと網なんで、ペットボトルは〔乾燥させる必要がないので〕もう山の中に置きっぱなし、穴みたいなどころに置いてきて、次の年まで。網は持ち帰って、たまに穴空いてたりするんで、そういうのを修理するくらいで。

いまはみんな、ほとんどの人は網ですね。ほとんどの人って、やってる人5・6人しかないんですけど。みんなもう、網でやってますね。今はもう、こういうむかしながらのズーを使ってる人は、いません。

色んな人います。塩ビのパイプを切って使ってるとか。あとはカンカラみたいなやつを底を抜いて、網をしぼってやってるとか。先端は、その人によっていろいろ。網もその人によって、金網とか使ってる人もいますし。金網だとその、要は切れなくて良いとかっていう。まあその人によって違うんですけど。

ただ金網だと、中で動くとやっぱり死んじゃうんで、こすれたりして。俺はなるべく生きた状態で持って来たいんで。柔らかいナイロンの網でやってるんですけど。大体ナイロンの網か、金網どっちかですね。自分のやりやすいような感じで、やりやすいっていうか近くにあった材料でやったらいいなって感じでやってると思いますよ<sup>(118)</sup>。

**ズーの作り方 (B-1、B-2)** むかしのズーは、俺、作ったことないんで。これはね。どうやって作るんですかね。たぶんこういう竹が、檜枝岐にないんですよ。なんだっけな。栃木県の川俣〔栃木県日光市川俣〕とか、向こうの方からサンショウウオ漁って伝わったみたいなんですけど、そっちの方に頼んで、むかしの人は作って貰ったようなことを聞いたような記憶あるんですけど。いまでもないですね、こういう竹は<sup>(119)</sup>。

**サンショウウオ漁の歴史** 俺はうちの親父やってたんで、檜枝岐で1番最初にサンショウウオ漁を始めた、星三兄弟っているんですけど。星三兄弟っていう人は、あの檜枝岐の見通川ってところで、栃木県の川俣〔栃木県日光市川俣〕の人が来てサンショウウオ漁をやっ

<sup>(118)</sup> 2022年6月30日星清夫さんより聞き書き

<sup>(119)</sup> 2022年6月30日星清夫さんより聞き書き

ているのを見て、その人に教えてもらって、やってみたいですけど。その星三兄弟っていう、一番最初にやった人が、俺のおじいさんなんですよ。

代々ってほどのあれでないんですけど。むかし、漢方薬ですごい売れたみたいで。良いお金になったみたいで。一か月とか二か月やると、そのころの当時の収入の一年分くらいは、もう軽く稼げるみたいな感じで。それが村の人にばーっと広まって、もう何十人もやってみたいですね。

今はもう、漢方薬の材料で出すとかは全然ないんで。まあ民宿・旅館の名物料理って言うんですか。あとは乾燥させて、お土産として売ってる人も多分居ますね。今はそのくらいですね。お土産用と、民宿旅館のお客さんの名物料理。

話によると檜枝岐では、最初のころは食べなかったんですよ。で、漢方薬の材料として、全部出荷して。昭和30だか40年ころに、尾瀬がだんだん観光地としてのブームが来たときに、檜枝岐の人がなんか名物料理ないかなってっていうことで始めたって話です。だから栃木のあっちでは、食べてなかったんじゃないのかな。わかんないですけど<sup>(120)</sup>。

**サンショウウオの販売** サンショウウオは、むかしから捕ってました。俺たちあんまり食べてないけど、むかしは都会に売れたんですよ。メス10匹、オス10匹集めて、きれいに乾燥したやつを、薬局さん売れたらしいですよ。薬作っらしいですよ。薬局で買ったとか、売れたって聞いたよ。捕って燻製したやつを全部、むかしは村で使わずよそで売ってらしいですよ。今は檜枝岐の民宿どこでも出してますよ。生で買って、それを天ぷらにして出すとか<sup>(121)</sup>。

**サンショウウオの食べ方①** 生では食べないよね。小っちゃい、生まれたばかりのやつ。ああいうのは、むかし<sup>かん</sup>瘡の虫に効くというあれで、みんなが面白がって生で飲んだりはしてましたけれど。ふだん食卓に生で出て並ぶということはないです<sup>(122)</sup>。

**サンショウウオの食べ方②** 最高の薬。オネショするにも効く。冷凍にしておいて、天ぷらなんかしたりな。安宮清水のところ、小っちゃいサンショウウオがいる。子どもが良くいて捕るの。丸呑みできるよね<sup>(123)</sup>。

#### 4. クマ狩り

**クマヤリ (A-9-8) ①** これヤリだな。クマヤリだよ。むかしの猟師さんが、これに柄

---

<sup>(120)</sup> 2022年6月30日星清夫さんより聞き

<sup>(121)</sup> 2022年7月1日平野励さんより聞き

<sup>(122)</sup> 2022年6月30日星清夫さんより聞き

<sup>(123)</sup> 2022年6月30日橘タツ子・平野カツヨ・平野幸子・平野増子・星チヨセさんより聞き



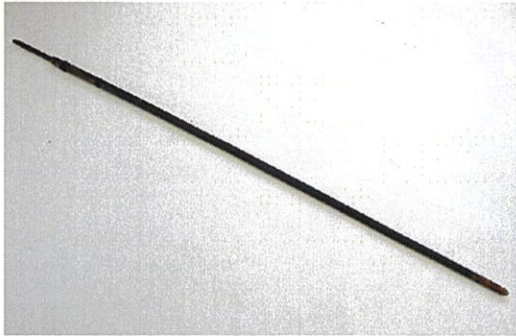


写真3-5: クマヤリ (C-6)



写真3-6: クマヤリ (A-9-8)

がついて [使っていた]。クマヤリといって、クマが冬眠しているとき、山歩くと穴の中にあるの。そこへ見つけていって、これで突いた。クマヤリだけでは、歩いてるやつを突くなんてできねえ。越冬しているとき、穴を見つけて。出るところをわざとつついて出して、刺す。私はクマ狩りでやったよ。もう何十年も。だがヤリは、俺は使ったことない。[ヤリでクマを獲っていたのは] 相当前だよ<sup>(124)</sup>。

クマヤリ (C-6) ② クマヤリは、[クマを獲るのには使わないが] 今でも使ってるね。ワナにかかったシカに、トドメ指すのに。近場は鉄砲で撃っちゃうけど、尾瀬沼方面はワナでやってるから、向こうは鉄砲持つてくの重たくて大変だから、ヤリで。トドメを刺すのは、心臓の辺り。今年からかな、始めたの。

他の人は使わないな。ヤリを使うのはシカだけだ、クマなんかこんなので行ったら殺されちゃうよ。クマはだめだよ、掴まれるから。前、ハコワナにかかったやつなんかやったんだけど、ダメだ危なくて。すぐ掴まれるから。引っ張られると、自分まで引っ張り込まれるから。クマは手が利くから、掴んじゃう。

むかしの人は、穴で寝てるクマを獲ったんだろうけどねえ。今そんな根性ある人いない。[刺す場所に決まりはなく] 毛皮を傷つけないように気にしたりはしないでしょう。だってねえ、自分の身を守るのが一番だから。どこでも構わず仕留めないことには。シカの場合も関係ないよ、毛皮使わないもん。ワナは今、ワイヤー。輪っかがキュっとしまるもの<sup>(125)</sup>。

郁文さんの経験談 今なら捕まるよ、俺は中学校とき、鉄砲を初めて使った。この辺はむかし、陸の小島で、人があんまりこない。親父の鉄砲持ち出して、ウサギ撃ちとかやったよ。むかしは無免許でも、「今日、鉄砲貸してや」、それでできた [時代だった]。友達同士で。

<sup>(124)</sup> 2022年7月1日平野郁文・勝さんより聞き書き

<sup>(125)</sup> 2022年11月2日平野千代一さんより聞き書き

今はもうダメだ。今は、段々やかましくなったから、鉄砲やる人は少なくなった。うん、少ないな。今はもう鉄砲うるさくなって、若い人たちはやらないな。やっぱりそれでも、クマ撃ちやる人はいる。今でも10人くらいは、猟師いるよ。

〔鉄砲道具を貸し借りしあうほど〕それだけ鉄砲やってる人がいたからね。男の人たちはみんな、冬になるとみんなクマ狩りやってたんだよな。他にやることないもんね。こんな山奥で。毎年ほんとに3mぐらい積もるんだよ、雪が。豪雪地帯だから。

この山の会津駒〔会津駒ヶ岳〕の向こうあたりさ、春になれば、仲間と一緒に小屋があって。泊まり込みでクマ撃ちした。やあ、面白かったよ。最高面白いクマ撃ちは。金にはなんないけど。クマ撃ちのグループがいて、仲間がいるんですよ。私らこの辺よりも会津駒越えた、裏側の方に行つて。山小屋があって、そこに泊まり込みで、まあ1週間ぐらいやったんですよ。

一番初めは、村田銃使ったな。20歳ごろだったべな。村田の28番。村田銃って単発の銃。単発の弾込めて、自分でこう。ああいうのを村田銃って言うんだよ。むかしはいい鉄砲がなくて、村田の28番とか、24番とか、そんなの使ってたから。今の鉄砲は、〔引き金を〕引けば〔弾が〕出るから。むかしは自分で弾つめて。火薬を詰めて、撃つんだ。自分で弾作ってね。

鉄砲を外す、まあ檜枝岐ではブツパグルって言うんだけど。外すことをハグルっていうんだけど。大抵の人はハグル。〔クマを見つけても〕落ち着いて撃てる人は、なかなかいないから。今ならライフルでな、300mとか安全地帯から撃てるけど。

当時はライフルじゃない、散弾銃、ショットガンだからね。今のライフルでもあればね。一人でゆっくり歩いて、落ち着いて撃てば間違いなく撃てるが。散弾銃のときって、むかしのライフルの前は、もっと近い距離だったから。クマの撃ちハグレば…2回くらいあったな。基本はアナグマだから、出てくるところ狙うから、ほんと至近距離で一人で撃った。

檜枝岐は、クマ撃ち行って亡くなった方はいないな。クマにかじられた人も、何人かいた。でも、死んだ人はいない。かじられた人はいるかもしれないけど、亡くなった人はいない。クマ撃ちは面白いよ。最後のころにはね、やめる近くにはライフル買って、かなり長距離でも撃ったけど。でも全然とれない年もあるよ。

ニシ〔あなた：息子さんである勝さんのこと〕もあれやな。クマ引き〔に山へ〕入ったことあるかや。撃ったやつ引っ張って。ニシ、引っ張りいったこともあるわよな。クマ撃ったやつ。

〔勝さん〕置いてきたからって、取りに行つてきた、持ってきたことはある。それから、中学校のときに、ヤマドリ撃ちに裏山に連れてかれたとき。そのときは、びっくりした。あまりの上手さに。一発で仕留めたんだ。ヤマドリがバーンと飛んだところを、仕留めたのは覚えてるな。一発で。それは「すげーな」とは思った。

クマ撃ちは、山さ泊まり込みについて仲間と。4、5人の仲間と、そして4、5日山歩いて。



面白かったよ。骨は折れたけど。檜枝岐は狩猟のあれはないな。そういう記録は。

山行ってる人は捕れる場所は知ってると思う。大体クマの歩く場所とか、出やすい場所って言うのは。クマにもやっぱり通りというものがあるから。こっち行ったクマは、大体どこへ行くっちゅう。それがわかるようになると、クマ撃てる。経験です。経験がないと撃てない。

俺もクマオソやったよ。〔平野〕惣吉さんと〔平野〕與三郎さんとやった、やった。石の重しをつけて。クマの通り〔通り道〕に、オソを切って、そこに入るように垣をして。そしてクマが行って、オソの真ん中のところにケヅナとって、カラクリやる。そのカラクリに紐がついて、その紐にクマが当たれば、カラクリが外れて上のあれと一緒にボトンと落ちる。重しがね。

むかしの人の知恵があれば、鉄砲いらなかった、その当時。そのクマは通りがあるからね。この山行くと大体こう行くと、このクマはどこへ行くか。むかしの人たちは大したもんだよ。クマオソ、オソを切るって言うんだけどね。段々それがやかましくなってきた、それができなくなった。むかしの人たちは、どこでも自分の好きなどころに、オソといって秋口になるとやったですよ。

家に飾ってある写真にあるは、もう止めるときに近かったね。若い人たちと一緒にいけなくて、一人でゆっくり歩いてると、わりと静かに歩くとクマは知らずにやってくる。大勢で、わんわん歩くとダメなんだ。クマ撃ちは、ほんと何十年やったもんな。やあ、面白かったよ<sup>(126)</sup>。

**励さんの経験談** もう、ここに座ってるのがやっとだ笑。むかしはもう、会津駒、何十回も登りましたよ。燧ヶ岳にも行きましたし。俺たち、25、6になってからはクマ狩り。鉄砲をやって、春になるとクマ狩り。毎日のように、1週間、10日と行ってましたよ。クマの気〔気配〕とか足跡でもあれば、毎日行ってました。

いやあ、クマが出てくればそんな余裕ないです。頭撃つとか、どこ撃つとか。どこでもいいから、獲る目的だから。クマオソは禁止だったけど、モグリでやりましたよ。獲ったら、俺は力あったから、小さいのだったら、そのまんま背負い縄で背負ってきましたよ<sup>(127)</sup>。

**千代一さんの経験談** クマ狩り…何年やったろうな。まだやってるけど。30年。30年くらいやったかな。むかしは大勢でいったが、いまはそんな大勢行かない。マキガリ〔集団猟のこと〕なんかも、やんないし。クマオソ、俺はやったことない。見たことはあるけど、やったことないな。俺と一緒にいったことはないな。

<sup>(126)</sup> 2022年7月1日平野郁文・勝さんより聞き

<sup>(127)</sup> 2022年7月1日平野励さんより聞き

俺が鉄砲始めてからも、やってはいたけど、俺はやったことないな。あれも仕掛ける場所が、個人で決まってるから。ナワバリみたいなのがあるから。ここがいいからって、自分で行ってやるっていうわけにも多分行かないと思う<sup>(128)</sup>。

クマの胆① むかしは、胆のうが高く売れたんですよ。クマの胆。むかしは、金と同じ値段だと言ってました。今も持ってますよ、どっかにあると思いますよ。苦いんですが、クマの胆は、もう熱さましと、傷なんかにはものすごく効きますよ。傷に塗ったんではダメ。外が治って、中が化膿しますから。飲むだけ。どっかさ傷あったら、飲めばもうすごく早く治りますよ。

私、腰の手術したときの話。病院に行って、椎間板ヘルニアの手術したんですよ。それで手術した明日だかが、熊の胆持って行ったから、病院に行ってから先生に黙ってコップに溶かしてグヴェーと飲んだら、一週間ぐらい経ってからかな。院長が回ってきて、「平野君、回復早いですねえ…」。ほんとにあれ、嘘ほど効きますよ。

そのかわり、神経痛にはすごく悪いらしいけれどね。神経痛には悪いらしいよ。冷えるから。熱さましにはもってこいだ。熱さましには良い<sup>(129)</sup>。

クマの胆② クマの胆っていう貴重な物。クマの胆のうだね。胆のうはすごく貴重で。むかしは、巾着にクマの胆や薬入れて。山さこういう巾着をつけて、薬とか大事なものの入れて。腰にぶら下げていった<sup>(130)</sup>。

クマの出没 昨日、村の放送したけど、村はずれに、一番端っこに住宅あるんだけど、その辺にクマが出たって。クマが出たから気を付けてくださいって、村で放送ありましたよ。この辺にも、クマは出て来るんですよ。

村はずれにハチミツ、ミツバチ〔養蜂をしているハチの巣箱を〕置くこともあるから。クマは甘いのが、大好きなんです。私、若い頃、親父らが小さいクマとってきたの、うちに飼ってたことありますけど。もうご飯は、ご飯なんか出したって絶対食わない。砂糖、あまーくして、砂糖ご飯だつうと、いくらでも食べる。クマ甘いのが好きなんだ。

クマ飼ってましたよ。小さいクマ。こんくらいの。親クマ獲って。春先、クマは2月頃かな、子ども産むのは。そして3月、4月…4月になってからかな。4月5月近くになってから。親子で。親子でいる親獲って。子だけ育てて。そんなこともありました<sup>(131)</sup>。

---

(128) 2022年11月2日平野千代一さんより聞き

(129) 2022年7月1日平野励さんより聞き

(130) 2022年7月1日平野郁文・勝さんより聞き

(131) 2022年7月1日平野励さんより聞き



クマを食べる① クマはね、捨てる場所がないの。全部食べられる。クマはね、美味しいのよ。だから〔クマ狩りは〕やめらんないんだよ。みんな。食べても美味しいし、獲っても楽しいから。内臓もね、全部食べれちゃう。クマは。

血もね、腸詰にして、ソーセージにして食べるのよ。ソレソレっていうけど。小腸を洗って、その中にクマの血を入れて、油を入れて茹でるのよ。で、ソーセージみたいにして食べるのよ。調理は猟師やっているとこじゃないとできない。

民宿でも出ないし、〔クマ狩りを〕やってる人しか。俺なんか小っちゃいころ、獣のものしか食わなかった。親父が猟師だから、ウサギだの、テンだのヤマドリだの。だから牛肉なんて食べたことなかった<sup>(132)</sup>。

クマを食べる② 腸きれいに洗って、腸に血と油を流し込んで、そしてそれ茹でて食べると美味しいんですよ<sup>(133)</sup>。

クマを食べる③ シカはあんま美味しくないもんね。クマの方がおいしい<sup>(134)</sup>。

タマイレ (弾入れ) (D-7) これはなんだ、ああそうかタマイレか。クマの皮で作る。クマの皮でなあ。鉄砲のタマイレに。そうだなあ。クマ狩りをする人、自分で作ったんだ、器用な人が。いやあ、俺は作ったことねえなあ。今でもこれはあるぞ、うちに。クマのツキノワ〔胸の白い部分〕のこの皮取って作る<sup>(135)</sup>。



写真 3-7: タマイレ (D-7)

クマの毛皮① 階段のところが一番でかいクマの皮があるから見てきて。階段のところにあるクマも、あれも一人で行って〔獲ってきたもの〕。これほどにでかいクマだ。もうクマのうちでも。100キロくらいじゃない。

〔クマには〕ツキノワって言って、白い部分あるわね。ここやっぱ毛皮には使わないんだよね。広げたときに要らないところなの。皮で伸ばしたときに多分使わない部分だから、火薬の弾入れに。弾入れやシッカワ〔クマの毛皮で作られた尻当て〕に利用するの。

今はあんま、皮は価値がないから。むかしは高く売れたんだけど。縫い合わせるのは、

<sup>(132)</sup> 2022年7月1日平野郁文・勝さんより聞き書き

<sup>(133)</sup> 2022年7月1日平野励さんより聞き書き

<sup>(134)</sup> 2022年11月2日橘タツコ・平野カツヨ・平野幸子・星チヨセさんより聞き書き

<sup>(135)</sup> 2022年6月30日星甫さんより聞き書き

誰がやったかな。自分ではやってないの。俺はやってないな。やっぱり、誰かやってくれる人がいたのかな<sup>(136)</sup>。

クマの毛皮② むかしは、テンの皮とか、ウサギの皮とか、クマの皮とかすごく売れたんだけど、今もうタダでももらわないと思うよ。そういうようになってしまった<sup>(137)</sup>。

クマの爪・牙 爪や牙。みんな取ってね、今はこうやってストラップにして売ってんのよ。この牙なら、そんな大きいクマじゃないんじゃない。この辺はね、やっぱり、狩猟が盛んだったから<sup>(138)</sup>。

クマの利用 クマをとったら、売れるもの売って、食うもん食って。もうあの、骨も全部ゆでて。ホネムシリとかいって。ただ茹でただけで、塩振って食うんだよな。美味しい。最高です。捕った人しか味わえない<sup>(139)</sup>。

## 5. 小動物の狩猟

ニホンカモシカの生態 ニホンカモシカなんか、インゾウ〔イチイのこと〕食べに来んだよ。この葉っぱが好きなの。ヒノキの一種のような木。細かい草で、細かい葉をしてる。我々はインゾウの木と言うけど。その木、人家の近くまで来ますよ。カモシカは〔特別天然記念物に指定されているので、いまは〕捕られないけど、美味しいんだよね。

舞台〔檜枝岐村の鎮守神にある歌舞伎の舞台〕にも、インゾウが一本あるでしょ。橋のたもとに。あそこは秋に、真っ赤な実がいっぱいなるの。実をつける。むかしよくその実を食べた。真っ赤に熟したのを。甘酸っぱいような感じ。桑の実みたいな味だけど、桑の実は黒いでしょ、紫の強い。インゾウ実は真っ赤。舞台のところに生えてるのが女だ〔イチイは雌雄別株で、雌株のこと〕。この葉っぱを春先、ニホンカモシカが食べに来るの。

キョロキョロキョロキョロキョロあっちこっちを眺めてますよ。逃げないね。結構道路歩くから。人の方へは来ないけど、道路は歩いていますね<sup>(140)</sup>。

郁文さんの経験談 カモシカはむかしからご法度だったから。でも親父なんかは、あれだったな。この辺冬場は、陸の小島で。来る人なかったから食べた。シカだから美味しいんだよ。あと向こうの資料館にね、カモシカの許可付きの皮があるわけだ。あれは許可もらってあるから、大丈夫。カモシカはね、死んでるんだ。冬場によく。なんだろうな、やっぱり飢

<sup>(136)</sup> 2022年7月1日平野郁文・勝さんより聞き書き

<sup>(137)</sup> 2022年7月1日平野励さんより聞き書き

<sup>(138)</sup> 2022年7月1日平野郁文・勝さんより聞き書き

<sup>(139)</sup> 2022年7月1日平野郁文・勝さんより聞き書き

<sup>(140)</sup> 2022年11月2日橋タツコ・平野カツヨ・平野幸子・星チヨセさんより聞き書き



ハサミ



写真 3-8: B-22-10



写真 3-9: B-22-12



写真 3-10: B-22-13



写真 3-11: B-22-8

えてんじゃない。寿命なのか。人の目につくところで割と死んでる。

ニホンジカは〔檜枝岐村には〕いなかったから。全然なくて、最近増えだしたからね。むかしはあれだよ。夜でもなんでも山行って、ムササビ。月夜の晩に、ちょっとうっすら雲のかかった晩に、山行くとムササビいる。〔檜枝岐村ではムササビを〕バンドリっていうんだけど。あれは相当やってた人がいたよ。皮が売れたんだろうな。毛皮が。今は少なくなっちゃたよね。ムササビ。いっぱいいたらしいよ、ものすごいいたらしい。

冬のウサギ、山ウサギあれなんかも面白い。天気いい日に一人で行くと飛び出す。ウサギも美味しいからね。絞め切れないうらい撃ったことある。10なんぼとって…。最後のほうは上手になっとな。ウサギ待つてねえから、西部劇と同じや。ウサギに獲る量の決まりはないと思う。クマはあるんだよね、たしか。クマは獣害駆除とかいって、年に1頭とかしか取れない。そもそも少ないから。届け出してちゃんと許可とってからじゃないと。ウサギはなかったな<sup>(141)</sup>。

ハサミ (両バネ) (B-22-8) これはハサミじゃない？ハサミだと思うな。両方ばねのやつ

<sup>(141)</sup> 2022年7月1日平野郁文・勝さんより聞き書き

もあった。この形はあんまり見たことないな。両バネだからな。ハサミは、獲物捕る罠に使ってた。テンとかウサギとか、ヤマドリとか小動物に。クマはこれでは難しい。うん、ハサミだろうな<sup>(142)</sup>。

ハサミ（B-22-10）これはほんとにハサミだ。さっきのもそうだな。檜枝岐ではハサミ、ハサミという。ここ〔カマボコ型の部分〕がガッと開いて、皿にカラクリがある。ハサミを持ってきて仕掛けて、皿の上に乗ると、パチンとする。ここ〔カマボコ型の部分〕を広げたやつを仕掛けると、この皿の部分がちょこっと上がるわけ。そしてその皿を踏めば、こうって挟まれる。

私らもやったよ。親父なんか良くやった。それでヤマドリとったり、テンとったり、色んなのがある。獣の通り道にかけておくと。誰でもできる。資格はいる。ワナ猟の免許。山のブドウとか、コクワとか、そういう木の根っこ。そこに獲物がきて、そのコクワとか食べに来るとき、この根っこにかけとくと挟まる。コクワっていうのはサルナシのこと。

両バネのやつと片バネがあるわけ。これは片バネだよ。これを広げて、皿にからくりがある。その皿を踏めば、勢いでポンと外れて閉まるわけ<sup>(143)</sup>。

---

<sup>(142)</sup> 2022年7月1日平野郁文・勝さんより聞き

<sup>(143)</sup> 2022年7月1日平野郁文・勝さんより聞き



## 第4章：大工・屋根葺き・馬具用具

### 1. 大工・屋根葺き・馬具職人用具の概要

今回の調査で確認することができた職人用具は、大工道具25点、屋根葺き用具2点、馬具用具5点であった。

じつは今回の調査で、聞き取り調査がもっとも難航したのが、この種類の民具であった。大工道具については、2名の大工経験者にお話をお聞きしたが、古い資料が多く、話者が使った経験があると答えてくださった道具が、想定したよりも少なかった。また馬具用具では、馬の荷鞍を作る型を確認することができた。しかしながら、男女幅広い年齢のみなさまに尋ねたものの、残念ながら、今回の調査では経験談を得ることができなかった。その意味で、不十分さを感じているが、現時点で確認できた範囲を整理していきたい。

大工および屋根葺きについては、かつては生活上重要な位置を占めていた。大工については、つぎのように語られた。「[この村に大工さんは]俺、やってるころは10人ぐらいいたかな。もっといたかな、12、3人はいたんじゃないかな。ほとんど檜枝岐の中[の仕事]ですね。冬場出稼ぎでは何回か出ましたけど。関東方面に。家でも倉庫でも、なんでも建てましたね」<sup>(144)</sup>。

屋根葺きについては、つぎのように語られていた。「檜枝岐村では、屋根葺きを商売にしている人は、冬、関東の方に出稼ぎに行ってたんです。今頃[11月頃村を]出て、そして正月に戻ってきて。栃木県まで行ってな。川俣の方ですね。栗山村という村ですね。あそこの村が、最初にやった村ですね。あの舟岐の方に行くと、引馬峠ってあるでしょ。引馬峠を越えて、歩いて栃木県の方まで。5、6人で」(20221102 平野カツヨ・平野幸子・星チヨセ・橋タツコ)。実際に菅野康二の福島県草屋根業組合資料の調査によれば、昭和16(1941)年当時、檜枝岐村では8名の職人が栃木方面にでかけていたことがわかっている[菅野1977]。

このように、冬季には雪に閉ざされる檜枝岐村において、大工仕事・屋根葺き職人は農閑期の出稼ぎ仕事として有力なものであった。

駄馬による輸送は、尾瀬での輸送という例外的なかたちではあったが、近隣地域と比較しても長く残ったといえる。奥会津では、「下郷町大内の馬引きや荒海村藤生の酒・醤油の運搬など、昭和初期までみられた」[須藤・鈴木1980:22]という。一方で、檜枝岐の場合は、尾瀬での馬による物資輸送は、昭和41(1966)年まで実施されていた[檜枝岐村2017:67]。

以上をふまえて大工道具から順に、屋根葺き用具・馬具用具へと、整理した資料を示してゆくことにしたい。

---

<sup>(144)</sup> 2022年11月2日平野千代一さんより聞き書き

## 2. カンナ

カンナ（A-11-7）① 大工道具、カンナだね。カンナでも、板を削るとか用途によって、〔カンナの〕幅とか長さとか、あと厚さっていうか、それがカンナによって色々ありましたよね。

カンナは使ってるときに、カンナの底側、下側が削っていると段々減っていくんで。それをこの刃を外して、また仕上げる時平らにまた削り直すっていうかね。磨きなおすことは必要ですよ。すり減ったと感じたら、自分で〔削り直す〕。

カンナはシャクシでも使う。最後にフチね、フチガンナって言って、丸くえぐって〔シャクシを仕上げる〕。すくう側の上側ね。そのフチは周りをぐるーっと、カンナ使いますね。ほんとに〔仕上げの工程だけに〕瞬間的に使うぐらいしか、使わないけどね。

カンナは鍛冶屋さんが作ったものだよな。会津、こっちは会津の方だと思うけどね。これもみんなあの、作った人の名前が入ってますからね<sup>(145)</sup>。

カンナ（A-11-7）② これは刃が一枚で、我々使ってる今のカンナは、もう一枚刃があるんですよ。全く同じのが。小さいのがあって、それで刃先をうまく合わせる。一枚ガンナは、我々は使ったことないな。このカンナは我々では使えない。これは、古いと思うよ。

カンナは何本ぐらい持っていたらうなあ、小さいのから大きいので揃えていたな。長いやつ〔40～50 cm〕とか<sup>(146)</sup>。

ニチョウガンナ〔二丁鉋〕（A-11-9）普通カンナは〔刃口〕一ヶ所でやるけど、これはもうひとつ穴〔刃口〕が開いている…。この場合は多分、いまこっち側に刃が入ってるけど、これが減ってきたら、反対側〔の刃口〕に入れてという〔使い方をした〕。材料によって刃を変えるっていう場合もあるんで。刃を抜かなくても、刃を下に出さなければ、反対側に別の刃をいれて削るっていうこともできるんで。

これは多分ニチョウガンナって言ったやつかな。これはあんまり見たことないけど、多分そうだと思う。刃を取り換えてできるやつ。大工さんが使う、特殊ガンナだね<sup>(147)</sup>。

ソリガンナ〔反鉋〕（A-10-9）これはソリガンナですね。窪んでるところを削る。大工仕事で使いますね。丸みのついてる柱ありますよね、そういった柱…、とにかくちょっと窪んでるところは、普通のカンナでは削れない。だから、そういったときに〔ソリガンナを使う〕。ヘラやシャクシでは、使わないです。ヘラやシャクシの付け根にも、窪んでる

---

<sup>(145)</sup> 2022年7月1日星長一さんより聞き書き

<sup>(146)</sup> 2022年11月2日平野千代一さんより聞き書き

<sup>(147)</sup> 2022年7月1日星長一さんより聞き書き





写真4-1: カンナ (A-11-7)



写真4-2: カンナ (A-11-11)



写真4-3: カンナ (A-11-13)

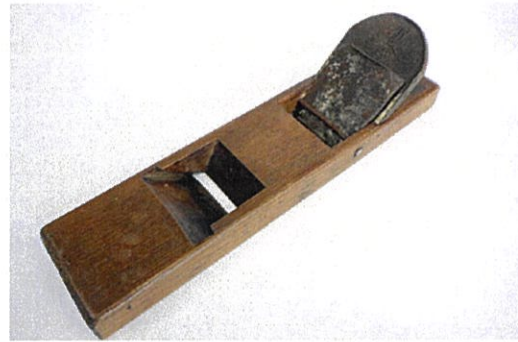


写真4-4: カンナ (A-11-9)

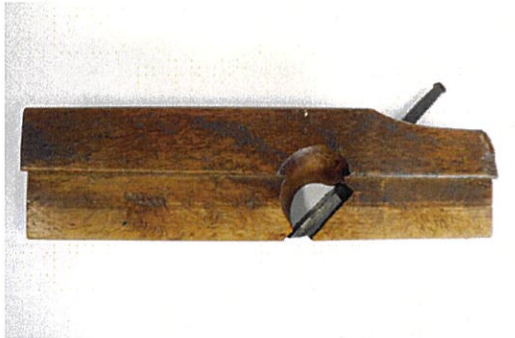


写真4-5: ミゾキリカンナ (A-11-10)

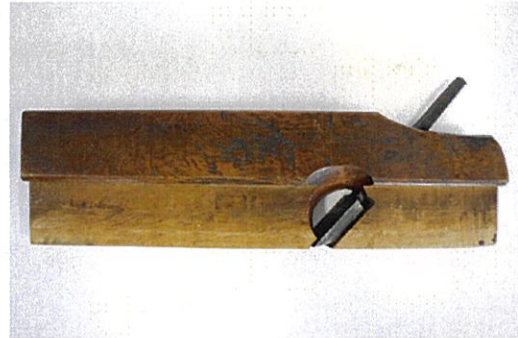


写真4-6: ミゾキリカンナ (A-11-14)

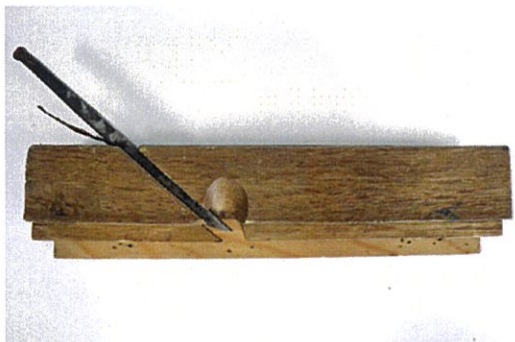


写真4-7: ミゾキリカンナ (A-11-15)



写真4-8: 道具箱 (A-11-1&2)

ところがありますが、そこには使わないですね<sup>(148)</sup>。

ミゾキリカンナ〔ジャクリ鉋〕(A-11-10、A-11-14、A-11-15) ① 大工道具の一種だね。大工さんとか、建具屋さんとか、物を作るときに必要なやつだね。ミゾキリだとか、ケガキガンナとかいったかな。一部分だけ、たとえば板の端っただけちょっと削っていく、段差をつけるために削っていくようなときに使うカンナですね。中間に段がついてるから、ここに引っ掛けて削る<sup>(149)</sup>。

ミゾキリカンナ〔ジャクリ鉋〕(A-11-10) ② これも我々〔の世代〕は、ほとんど使ったことないなあ…。これは鴨居の溝とか、そういう溝を掘るカンナで、我々〔の世代〕は使ったことない。これも相当古いものだと思うなあ。

我々もいくらか使ったかな。でも我々使った溝切カンナには、もっと工夫がしてあった。もう定規のついてるやつだから。カンナの真ん中に、もう1つ軸〔ガイドになる軸〕がついている。そういう軸を繋いで、ガイドにそってまっすぐ引っ張れるように。

それでも〔定規がついた溝切ガンナも〕、そんなには使わなかったなあ。昭和40年代ぐらいに、電動の溝切り機械ができたから。その機械が電気ガンナなんかと、同じぐらいにできたんじゃないのかな<sup>(150)</sup>。

### 3. ノコギリ

ノコギリ〔鴨居挽鋸〕(A-11-4、A-11-21) ① このノコギリ、細かい刃だと思うんですよ。細かい仕事をするむかしのノコ。あまり見たことないな。俺の親方なんかも、こういうの持ってなかったなあ。相当古いんじゃないのかな。

俺なんか使ったのは、厚い金属の補強があって、そこに挿して使うドウヅキっていうノコギリ。俺らはそのノコ〔ドウヅキノコ〕しか使ったこと無い。細かい作業、たとえば障子の組子なんか。そういう一番細かい作業用だから。金属の板がノコの上についてるんです。〔細かい作業をするため刃が〕あんまり薄いから、カネ〔金属〕で作った補強があって、そのカネを刃の上側から挿し込んだやつ。そうすると〔刃が〕ブレない。

ドウヅキでも、小さいのと、大きいのがあったんだけど。大工さんはそこまで細かい仕事をやらないから、小さいノコは我々は使ったこと無い。寸法で言うと、俺らが使ったのは8寸ぐらいかな。だから、宮大工さんとか細かい仕事、指物屋、そういう人は5寸とか6寸ぐらいの使ってたんじゃないかな。もっと薄いのを。このノコは村では、大工さん

---

<sup>(148)</sup> 2022年11月1日平野紀夫さんより聞き書き

<sup>(149)</sup> 2022年7月1日星長一さんより聞き書き

<sup>(150)</sup> 2022年11月2日平野千代一さんより聞き書き



ノコギリ



写真 4-9: A-11-16



写真 4-10: A-11-21



写真 4-11: A-11-4



写真 4-12: A-11-8&6



写真 4-13: A-11-17



写真 4-14: A-11-3

以外は使わないと思うね<sup>(151)</sup>。

ノコギリ【鴨居挽鋸】(A-11-4)② 大工さんが使ったのかな、これは。刃もたぶんまっすぐより反ってるね。大工さんのノコじゃないかなあ。例えば平らなところを削るとき、刃の面がまっすぐじゃなく、こう反っていると平らなところでも切っていくことができる。

<sup>(151)</sup> 2022年11月2日平野千代一さんより聞き書き

真っ直ぐだと切れ込み入れられないよね。そういう細かい仕事に使う道具だと思う。普通のよりもぐっと曲がってるから、そういうことに使う大工さんの道具だと思うけどね<sup>(152)</sup>。

ドウヅキ〔胴付鋸〕 大工以外にも、シャモジ〔作り〕のとき、ノコギリは一番最初の段階で〔使う〕。ドウヅキって言うんですけどね。ノコがこうペナペナしないように、胴が付いてるんですね。私はドウヅキノコも持っていますけど、違うものが切れるから、違うものでやっています。

むかしの道具は、いま目立てするところもないでしょう。自分でもなかなか目立て大変だし。だから〔別のものを〕買って、今のノコギリ、売ってるノコギリでやります。むかしはもうみんなこれ使ったですよ、ドウヅキ<sup>(153)</sup>。

両刃ノコギリ (A-11-17) ① 名前はリョウバですね。両刃ノコギリ。これは今でも同じだもんね。両刃ノコは細かいのから粗いのもであるから、何本も。一人の大工さんが何枚もってたらうな、5枚ぐらい持ってたのかな。これは大工さんだけです。山に行く人は持たない。大工さんとか建具屋さんが〔使っていた〕<sup>(154)</sup>。

両刃ノコギリ (A-11-17) ② 両刃ノコでしょうね。目の粗い方が縦挽き、目の細かい方が横挽きですね<sup>(155)</sup>。

ガガリ〔ガガリ鋸〕 (A-11-3) ① このノコギリ俺も持ってるなあ。これは大工道具、大工さんの道具ですね。材木を縦挽きに切るノコだよ。縦挽きに使うノコギリでも、柱とか梁の、ホゾって組み合わせるのに使う。このノコは、一人一本ですね。

使わなくなったのは電気のほら、丸ノコ。丸ノコができてからだよ。だから、丸ノコなんか初めて使ったのいつ頃だろう、昭和40年頃かなあ。丸ノコ、こういう電気ガンナとかそういうのができたのが、多分昭和40年ぐらいじゃないかなあ。まあもっと、関東のほうはもっと前から使ってたのかも分かんないけれど。丸ノコができてからは、もうこれは使わない<sup>(156)</sup>。

ガガリ〔ガガリ鋸〕 (A-11-3) ② これ、タテツピキ〔用のノコギリ〕ですからね、タテツピキ専用の〔ノコギリ〕をガガリといったんですよ。これは溝をきったノコギリですね。柱に板を差し込むようなときに。ノコの先まで刃がついてるから、途中からでも挽くこと

<sup>(152)</sup> 2022年7月1日星長一さんより聞き書き

<sup>(153)</sup> 2022年11月1日平野紀夫さんより聞き書き

<sup>(154)</sup> 2022年11月2日平野千代一さんより聞き書き

<sup>(155)</sup> 2022年11月1日平野紀夫さんより聞き書き

<sup>(156)</sup> 2022年11月2日平野千代一さんより聞き書き



ができた。板の厚みだけの墨を出して、その墨を両方引いて真ん中をノミでついて、溝を作った道具だと思えますよ。今の大工さんは、使うことは無いです<sup>(157)</sup>。

ノギリの目立て ノギリの目立てには、目立て用の小さなカナヅチみたいな道具があるんだけど。それで叩いたりして。それができるようになるには、相当年季が入ってないといけないだろうね。俺たちやったら勝手にやると、もうまっすぐに引けなくて曲がってしまうような、ノコになっちゃうんだ<sup>(158)</sup>。

ノギリの柄 ノギリの柄は、[壊れると]自分で作ったんでしょうね。檜枝岐の場合は、お店屋さんっていうのが、むかしから非常に遠い場所にしかないんで。買ってくるときに付いてるやつでも、いったん壊れたら、自分で作るしかないんだよね。だから自分であとで、金物の方は長持ちするけど、柄の方は壊れたら自分で工面して作っていたと思う<sup>(159)</sup>。

#### 4. ノミ・セン・チョウナ

タタキノミ (B-19-1-2) [大工の使うノミには] タタキノミと、シコミノミっていうのがあったな。種類が全然違うんですよ。タタキノミっていうのは、本当にこうカナヅチでガンガン叩いて、よく家を建てる時に使う、粗っぽい仕事に使う。タタキノミは8分とか1寸、1寸2分ぐらいしかなかったのか。ああ1寸4分もあったのかな。タタキノミも4、5本は多分持ってたと思う<sup>(160)</sup>。

シコミノミ (A-11-23) ① これは狭いノミだよ。1分とか2分ぐらいのノミじゃないかなあ。細かい作業するノミですね。大工さんはあんまり使わないけどな、一番使うのは、建具屋さんなんかはどうしても使うから。

普通10本組じゃないかな。一番小さいので1分。1分、2分、3分、4分、5分、6分つてのもあったのかな。8分、1寸、1寸2分、1寸4分、1寸8分っていうのも。10本組ですね。

シコミノミは10本組。まとまって売ってて、よく8分とか1寸2分が一番使うから、使うともう減っちゃうから。だからその時はもうバラ買いして。減りが早いものは買い足して。買い足すとき、俺なんかは、最初の頃は道具屋さんから買って。むかしからあったんですよ、通販みたいなのが、新潟に。そっから多分買ったと思う。仕入先は人によって違う。

<sup>(157)</sup> 2022年11月1日平野紀夫さんより聞き書き

<sup>(158)</sup> 2022年7月1日星長一さんより聞き書き

<sup>(159)</sup> 2022年7月1日星長一さんより聞き書き

<sup>(160)</sup> 2022年11月2日平野千代一さんより聞き書き

ノミ



写真 4-15: A-11-22



写真 4-16: B-19-1-2



写真 4-17: A-11-23



写真 4-18: A-11-24

いまみんなが使ってるようなのは、金物屋さんにもある程度置いてあったから、ノコギリとか。よっぽど特殊なものでないと。金物屋はこの辺だと、南郷とか館岩に行っていた<sup>(161)</sup>。

シコミノミ (A-11-23) ② ちょっと薄いつていうかあれだね。普通のよりも、細い。こういうのだと、小さい穴をあけるときには、幅の狭いそういうのに使いますからね。建具屋さんなんかはよく使うんだけどね<sup>(162)</sup>。

ツキノミ [突き鑿] (A-11-22) ① これはツキノミか。ツキノミでも、俺はこういう [刃先が] 斜めのやつは使ったことないな。我々使ったのは、普通のノミとおんなじで平らなやつだったから。

ツキノミは柄が長い。梁とか柱のホゾ [木材をつなぎ合わせるための凹凸] を作ったり。あとは、メイビキとか縦挽きの粗っぽいノコギリで挽いて、ちょっと段差ができたときとか、あとは穴の側面をきれいにするとき。最後の仕上げに使うから、ノミでいうカンナミ

<sup>(161)</sup> 2022年11月2日平野千代一さんより聞き書き

<sup>(162)</sup> 2022年7月1日星長一さんより聞き書き



セン・クサビ

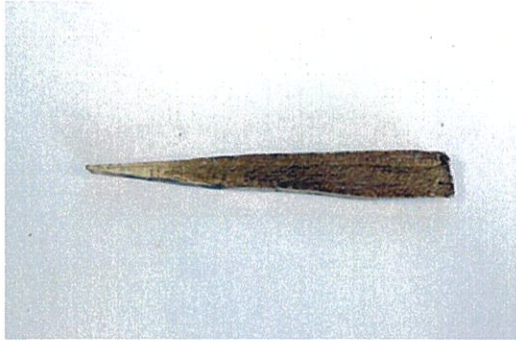


写真 4-19: A-11-28

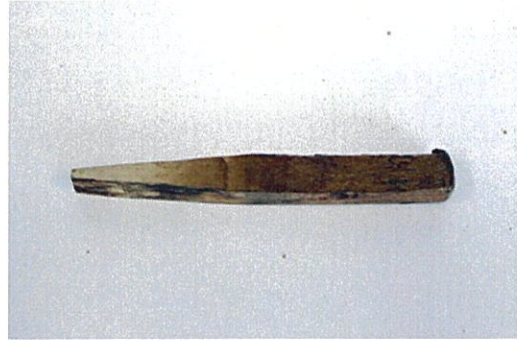


写真 4-20: A-11-29

たいなやつですね。

最後の仕上げにきれいにするには、その時には力が入るから。だからむかしの人は、数を使ったから、少しでも力を和らげてくれるように斜めにやったんじゃないのかなあ。こういうのは切れるはずだから。これも大きいことから、小さいのまであるから。小さいのだと 30 cm ぐらいかな。大きいのは 60 cm ぐらいあったんじゃないかな<sup>(163)</sup>。

ツキノミ〔突き鑿〕(A-11-22) ② ノミでもこれは、多分削るノミだね。叩いて穴を掘るときに使うよりも、仕上げの時とか、ちょっと特殊な部分を削りたいっていうようなときに使うノミだと思いますね。普通のノミって言ったら、穴を掘るときに叩いて、少しずつ削っていくんだけどね、下が平らなやつで<sup>(164)</sup>。

クサビ (A-11-28、A-11-29) ① クサビですね。〔仕事道具の刃と柄の〕隙間に打ち込んできつくするときなんか使う。あとは建物を建てるのに柱なんかを立てて、穴をあけてつなぎ合わせるんだけど、それを外れないように、こういうのでクサビっていうので打って、動かなくする。

たとえばこれ鳥居なんかには、大体ついてると思うんだよね。鳥居って、一番上に笠木があって、そのつぎにまたもう一つ横木〔貫〕があって、そこにはめてあると思う。ちょっと短いのが、柱に挿してある。斜めにこう段々細くなって、打ち込む感じで。あれが動かなくなるために、入れるときには楽に入って、そしてあと動かないようにこれで止めていく。緩むときもあるんで、これをまた打ち込めば、きつくなっていくんで。

〔仕事道具にクサビを打ち込む場合の〕長さは用途によってだね。クワとか、あとはねヨキ、オノだったりとか、チョウナだったりとか。ああいうものをはめるときに、木であ

<sup>(163)</sup> 2022年11月2日平野千代一さんより聞き書き

<sup>(164)</sup> 2022年7月1日星長一さんより聞き書き

る程度割って入れるときに、楽にはまるようになって<sup>(165)</sup>。

カクゼン〔角栓〕(A-11-28、A-11-29) ② 柱が抜けないように、材木の繋ぎのところに、マルセンを打ち込む場合と、四角に穴開けてこの木のセン〔カクゼン：角栓〕を打ち込む場合があるんですよ。抜けないようにするのに。これ先と尾で寸法が違うけど、要するに木と木を打ち込めば打ち込むほど、ピタッとする感じになる。

多分クリの木じゃないかな。ミズナラかクリの硬い木で〔作る〕。カクゼンを作るのには、今はカンナとかそういうのでやるけど、むかしの人はナタで作ってましたよね、きれいに。大工さんはナタは使わないな。全然<sup>(166)</sup>。

チョウナ〔手斧〕(A-11-5) ① チョウナ。

これも大工さんのものだね。これは自分のうちにも置いたんだけど。これ今ほとんど、色んな削る機械があるんで〔使わない〕。柱とかねそういうもので、ノコギリでまず挽きますよね。あとカンナかけるっていう手順だけど。カンナかけるんでなく、チョウナでやると、表面がでこぼこになって仕上げていく。柱だとか長いものを、カンナかけるって大変なんで。そのときにチョウナで、少しずつぶっつけていくんですよ。チョウナは柄が長くて、柱の上に乗かって、そしてトントントンって薄く削っていく。それで平らに。これこそ熟練の技だけだね。足を切らないように。慣れない人だと、これ足に空振りしていきるときもあったっていう話。



写真 4-21：チョウナ (A-11-5)

おもに柱だね。削った面が指の形のようになって、段々になってるような柱。表面が細かくでこぼこになっている、そういう柱は、このチョウナっていうもので、削ったものだっていうふうに見てるわけ。お寺だとか神社なんか、まだそういう柱がたまにあったりするね。

刃は鍛冶屋さんだね。柄は自分で〔作る〕。曲がった木だったり、ある程度曲がってる木を火で焼いたりして曲げて。あんまり乾燥しないうちに、こういう曲がった形に作って、それで紐かなんかで引っ張っておいて。それで乾燥させてしまうと戻らないんで。曲げる角度は、それぞれに〔違って〕いる。今の大工さんでは、チョウナ使えるって人はそんなにいないと思う。相当訓練が必要だと思う。

チョウナは、厚みは結構あるけど、そんなに重くないね。そんなに大きいものではない

<sup>(165)</sup> 2022年7月1日星長一さんより聞き書き

<sup>(166)</sup> 2022年11月2日平野千代一さんより聞き書き



いよ、50 cm くらいのやつだから<sup>(167)</sup>。

チョウナ〔手斧〕(A-11-5) ② チョウナはね、これは我々も少しは使いました。今はチョウナ目っていう、そういう飾りをつけるために使っていますけど。ただそれほど多くはない。俺なんかより、もっと前の人は多分やったと思うけど、俺らのころはもう製材の材木しか使わないから。もう元々きれいなものしか使わなくなったから。

前は要するに、メービキとかほら、オノ・ヨキっていう道具で丸太を角材にしたじゃない。だから、ヨキではどうしても大雑把にしかとれないから、その仕上げにチョウナを。そういう仕上げに使っていましたね。

柄は、あれじゃないかな。木を煮るとか火であぶって、柔らかくしてから曲げて。かたどって乾燥するまで置いといて、それから使ったんじゃないかな。なんの木を使ったのかは分かんないけど、多分曲がった木ではないと思うなあ<sup>(168)</sup>。

ボート〔ボート錐〕(A-11-26) ① これは今でいうドリルだよ。ドリルとは言わないでボートと言ってたね。棒を〔輪の中に〕入れて、回して、穴をあけるんです。

木を組み合わせるようなときなんか、〔ボートで〕穴をあけてそこにボルトを通して、ネジで締めるとか。あとは柱なんか四角の穴をあける前に、これで穴を何本か開けといて。そうしておく、あとはノ



写真4-22: ボート (A-11-26)

ミで切っていくと開けやすい。色んな穴を開ける時には、これを使っていましたね。

今だったら電動でね、ドリルで開けちゃうからね。あと太いやつだったら、大工さんたちは機械で。ドリルがグーっと下がって、簡単に開けられるからね。

いまは手で穴あける人はいないと思う。大変なんです、硬い木のときなんか。われわれ素人がやれば、穴は開けることができるんだけど、まっすぐ行かないんですよ。まっすぐのつもりでやってるんだけど、ちょっとでも垂直でなかったら、入れるところと出るところ同じ穴というになんない。斜めに行っちゃうと方向が違うから、まっすぐの穴開けたいのにダメなんだな。慣れないと難しい<sup>(169)</sup>。

ボート〔ボート錐〕(A-11-26) ② 俺なんかも、何年か使ったことある。電気ドリルでき

<sup>(167)</sup> 2022年7月1日星長一さんより聞き書き

<sup>(168)</sup> 2022年11月2日平野千代一さんより聞き書き

<sup>(169)</sup> 2022年7月1日星長一さんより聞き書き

る前。弟子になって、多分1年か2年ぐらいこれ使ったと思うな。太さの種類があつて。要するに、梁とか柱とかに穴を開けるじゃない。その時ほら、最初からノミで掘るのには大変だから、これで最初に穴を開けておいて、それから崩して〔穴を開けて〕いくから。多分、太鼓胴にも使ったと思う、長いので。それで糸鋸みたいなのを入れて、やったんじゃないかな<sup>(170)</sup>。

ポート〔ポート錐〕の柄 ポートに棒を入れて。棒を入れて回して、穴をあけるんですよ<sup>(171)</sup>。

鍛冶屋 道具〔刃物〕は何年も使うね。あとは、親方から譲ってもらうとかね。引き継いだりとか。金属物はかなり、もう何十年も使いますからね。鍛冶屋さんは若松〔会津若松〕で、ほとんど名前〔銘〕が入ってるものを使っている。そのほかには、伊南村、近くにもいたかもしれないね。器用な人だったら、〔むかしは山仕事がさかんであったから〕多分あちこちから頼まれるんで、商売になったと思うんですよ。

畳屋さんとか桶屋さんとかも隣〔伊南村〕あたりにも居たんで。そういう鍛冶屋さんなんかも、いたと思うね。本格的でなくても、修理できるくらいの人はいないと困るんですよ。〔鍛冶屋を〕呼んだのか、たまに訪ねてきたのかね。来た場合には多分みんなが頼むと思うからね。多くの人<sup>(172)</sup>。

道具の行商 車で道具屋が来てましたね。今でも行商でやってる人がいるんじゃないかな。新潟の方から来たんだ。新潟はほら、刃物の街だから。来るのは、1年に数回じゃなかったかな<sup>(173)</sup>。

## 5. 屋根葺き・馬具用具

屋根バサミ (A-7、C-16) むかしはどこの家も屋根はカヤで。ここら辺は、全部カヤ葺き屋根だったから。5月頃にやったべ、5月だな。カヤっていうの刈って、それをみんな葺いて、葺き替えて。

カヤ葺き屋根はこっちもこっちにも、穴空いてましたから。〔屋根を葺き替えても〕何年か経てば、弱るから腐る。葺き替え時期は、何年ぐらいかな…。薪を燃やした煙、あれが染み込むと長持ちするわけ<sup>いぶ</sup>です。燻すとね。どこの家でも薪燃やしていたから。この間、舞台〔鎮守神にある歌舞伎の舞台〕は葺き替えやりました。

<sup>(170)</sup> 2022年11月2日平野千代一さんより聞き書き

<sup>(171)</sup> 2022年7月1日星長一さんより聞き書き

<sup>(172)</sup> 2022年7月1日星長一さんより聞き書き

<sup>(173)</sup> 2022年11月2日平野千代一さんより聞き書き





写真 4-23: 屋根バサミ (A-7)



写真 4-24: 屋根バサミ (C-16)

これは屋根切りバサミ。屋根葺いてるとこのカヤを両手で、ハサミを持って切る。屋根の下とまた上だと、切るハサミが違うわけ。村の男たちは屋根葺きやりましたから、若い時は<sup>(174)</sup>。

馬の荷鞍の型 (C-1、C-2) 今回の聞き取り調査では、C-1、C-2 などが馬の荷鞍の型であることが判明したが、残念ながら、当時どのように使われていたのかを知っている方にお会いすることができなかった。かつては輸送に使われた馬について、以下のような話が聞かれた。

馬 私たちの子どもの頃も、馬は2頭はいましたね。馬車馬で。[馬に荷物をつけて] よそから何かと運んだから。番屋の清次さんの家と、鍵屋旅館に1頭。飼ってる家は少なくて、行って荷物運んでもらって。ワラとかコメとか、ここコメ取れないから。下の部落〔伊南村〕から。あそこからコメもワラも買って来たわけ<sup>(175)</sup>。

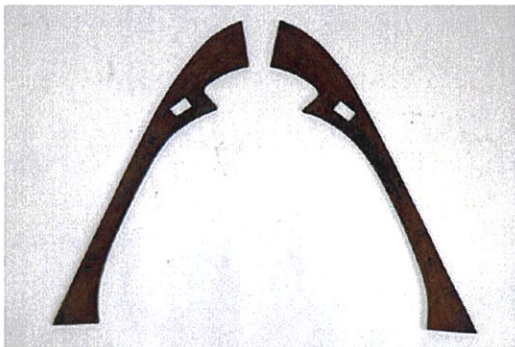


写真 4-25: 荷鞍の型 (C-1&2)



写真 4-26: 荷鞍の型 (C-4&5)

<sup>(174)</sup> 2022年11月2日橘タツコ・平野カツヨ・平野幸子・星チヨセさんより聞き書き

<sup>(175)</sup> 2022年11月2日橘タツコ・平野カツヨ・平野幸子・星チヨセさんより聞き書き

疱瘡神 鎮守様の方にあるけどね、お馬さんは。ホウソウガミサマ〔疱瘡神様〕って言って、お馬さんが囲いのなかにいるわけ。みんな結構賽銭あげて拝んではいるけど。大きい木のある鎮守様より、細い道をちょっと行ったところに。

疱瘡神つつうのは、むかし疱瘡っていうのが流行ったからなわけだ。疱瘡って、病気があっただ。むかし、みな疱瘡接種した。おら、どっちにも痘〔予防接種の痕〕がある。そうそう、痘がある。うんうん、小さいときに。

お馬さんは、疱瘡神様と言うわな。だから、鎮守様お参りする方、みな行って、御神酒かけたりな。狛犬が両方にあるしね。阿吽の<sup>(176)</sup>。

---

<sup>(176)</sup> 2022年11月2日橘タツコ・平野カツヨ・平野幸子・星チヨセさんより聞き



## 第5章：ヘラ・シャクシ用具

### 1. ヘラ・シャクシ用具の概要

ヘラ・シャクシ用具は、今回の調査において最も充実した資料が得られた。全体の3分の1を超える、86点がこちらの分類に含まれている。今回、整理対象となった民具には5つの道具箱があったが、そのうち4つがシャクシ道具の道具箱であった。シャクシの製造には、主にセンとナタの2種の刃物が必要となる。道具箱の中身は、各工程で使い分けられてきたセンやナタが、多く含まれていた。

檜枝岐村の人びとは、身近な森林資源を活用しながら生計を立ててきた。「檜枝岐は、ひのき・えだ・また村ですから、黒い山にはヒノキも生えています。あと、アオトド〔アオモリトドマツ〕っていう木も。曲げわっぱなんかは、ヒノキしか使わなかったですよ。シャクシ・ヘラはブナの木で。太鼓胴を作る人もいました」<sup>(177)</sup>。

ヘラ・シャクシの製造は、かつて檜枝岐村の主要産業のひとつであった。男たちは冬季になると、山にシャクシ仕事にでかけた。5、6人程度の組を作って小屋掛けし、そこで寝泊まりしながら、製作にあたった。奥会津ではさかんにシャクシが作られた。細井敬介によると、技術が伝えられたのは明治中期であるといい、「最盛期は明治末期より昭和初期にかけて」〔細井 1980：52〕であったという。

主たる担い手は男性たちであったが、生計維持のための仕事であったから、女性たちも手伝いに出た。「〔女性たちは〕でき上がったやつを背負ってくることはやりました。〔男性たちは〕山の小屋に5日から1週間泊って、5、6人で村に下がってきて。ほして村に行って休んで」<sup>(178)</sup>。

現在では、わずかな担い手が残るのみである。平野紀夫さんは昭和59（1984）年頃から、シャクシを作り始め、現在でも製作を続けるひとりであるが、つぎのように語っている。「50年前ほど前は、〔シャクシを作る人が〕多かったですね。何十人もシャモジ作りがいましたね。今も小さい小屋の跡が山に残ってますけど、当時はシャクシ小屋もいっぱいありました。〔材料となる木も〕もうたくさん出ましたね。〔主要な生産期である冬季だけでなく〕夏も通してやってる人もいましたし。ただ夏は木が変色したり、暖かいときは木が悪くなるからなかなか保存が難しく、そこまでやる人は少なかったんですけど」<sup>(179)</sup>。

シャクシ生産が行なわれなくなった理由は、もちろん木製のシャクシの必要性が薄れたこともある。それでも、檜枝岐村の場合には、お土産品としての需要もあるため、かつてほどの規模でなくとも続けていくことは可能なはずである。けれども、現実には環境保護意識の高まりから木材の伐採が困難になり、材料の供給が断たれたことから、ほぼ生産さ

<sup>(177)</sup> 2022年7月1日平野励さんより聞き書き

<sup>(178)</sup> 2022年6月30日橋タツ子・平野カツヨ・平野幸子・平野増子・星チヨセさんより聞き書き

<sup>(179)</sup> 2022年11月1日平野紀夫さんより聞き書き

表 5-1：シャクシ作りの工程と主な道具

木取り	①伐採	ノコギリ
	②玉切り	ノコギリ
	③墨付け	型
	④オオワリ（大割）	ワリナタ・ツチンボ
	⑤コワリ（小割）	ワリナタ・ツチンボ
加工	⑥切り込み	ヒッコミノコ
	⑦コガキ	ワリナタ・ツチンボ
	⑧柄削り	ヒラセン
成型	⑨ツラキリ（面切り）	ツラキリナタ（メービキナタ）
	⑩墨付け	型
	⑪ドンビン	ドンビンナタ
	⑫キザミ	キザミナタ
仕上げ	⑬フチマワシ	ナタ（セナカキリナタ）
	⑭柄削り	マルエゼン・デバ
	⑮エグリ	エグリセン・マルノミ・ユリノハ
	⑯フチカンナ	カンナ
	⑰仕上げ	デバ

れていない。

原料の入手困難は、ほかの木工業の場合も同じである。「ハンゾウ〔コネバチ〕作る人は、今いない。作る人がいないっていうよりも、材料がないんですよ、原木が。適当な材は、みんな国有林にしか生えてないから、国有林の場所では伐採できないから。小さくても直径 60 cm ぐらいないと、大きいハンゾウできないから」<sup>(180)</sup>。

今回は、得られた資料を作業工程にわけて整理した。大まかにシャクシ製作の工程はつぎの 17 工程に

わけることができる。①伐採、②玉切り、③墨付け、④オオワリ（大割）、⑤コワリ（小割）、⑥片引き・切り込み、⑦コガキ、⑧柄削り、⑨ツラキリ（面切り）、⑩墨付け、⑪ドンビン、⑫キザミ、⑬フチマワシ、⑭柄削り、⑮エグリ、⑯フチカンナ、⑰仕上げ、である。

これらの工程を主な道具とともに示すと表 5-1 のように整理できる。木取りの工程では、原木を伐採し、シャクシを作るための板材を製作してゆく。木取りをとおして板材の状態になったものを粗く加工し、形を整え、仕上げでゆくという工程をとる。これらの工程を、ほぼナタとセンの 2 種類の刃物で作ってゆく。ナタは作業工程によって使い分けがあるが、大きく 2 種類に分けられる。刃先がノコギリのメービキに似て尖っているメービキナタと、直角に近いキザミナタである。

## 2. 木取りから加工工程

シャクシの利用〔檜枝岐村でも〕木のシャクシは、今使っている人も居ますけども、ほとんどね〔使っていない〕。〔あまり販売していないので〕手に入らないし、古くなってしまっ、ダメになったりとか。

〔シャクシは〕大きさによって使い分けていた。大きい鍋とか、そういう味噌汁のときに。

<sup>(180)</sup> 2022 年 11 月 2 日平野千代一さんより聞き書き



大体3寸5分ぐらいかな。3寸5分っていうと、10cmぐらいの長さですよ。味噌なんかを作るときに、味噌をかき回すとかそういうときには、ちょっと大きいやつになるから、そうすると4寸ぐらいになる。3寸8分とか4寸とかっていう。

小っちゃいのは、豆なんかを煮たり、小豆だとかをスプーン代わりに使うという。豆をすくって何かに分けるとか、そういうののために。豆なんかには、傷がつかないから、このシャクシっていうのが良いらしいよね<sup>(181)</sup>。

シャクシ道具 [製材に使うワリナタ以外に、加工に使う] ナタは4丁使いますね。ツラキリナタ [メービキナタ]、ドンビンナタ、キザミナタ、フチマワシナタ。ドンビンナタには、私はメービキナタを使っている [同じものを使用している]。センは2種類。柄を丸めるマルエゼン。小さい丸いセンなんです。あとはエグリゼン<sup>(182)</sup>。



写真5-1: ワリナタ (A-10-11)

ワリナタ (A-10-11) これはシャクシの道具だな。よっぽど使ったあ。こうやってドンドンって、割るやつ [材料を木取りするナタ]だよ。見たことはあるな。ここ檜枝岐では、ひときり、ヘラとシャモジの生産地だった。ブナの木を伐って、こういう道具を。シャモジ小屋へ行くと、職人さんがいっぱいナタ持ってたんだ<sup>(183)</sup>。



写真5-2: ワリナタ (A-10-12)

ヒッコミノコ シャクシを作るときに、[木取りして切り揃えた板を] Tの字みたいに一個の形に作っていくよね。[長方形の板に切り込みを入れて [T字型にする]。材料の板を引き込むノコ。それで [ヒッコミノコで切れ込みを入れて]、ナタで割るんだけど、引き込むときに使うノコギリ。



写真5-3: シャクシ用ノコ (A-10-4)

<sup>(181)</sup> 2022年7月1日星長一さんより聞き書き

<sup>(182)</sup> 2022年11月1日平野紀夫さんより聞き書き

<sup>(183)</sup> 2022年7月1日平野郁文・勝さんより聞き書き

檜枝岐の暮らしと民具 (一)

ヒラセン



写真 5-4 : A-9-5



写真 5-5 : A-9-6



写真 5-6 : A-9-10



写真 5-7 : A-9-17



写真 5-8 : A-9-18



写真 5-9 : A-9-19



写真 5-10 : A-9-20



写真 5-11 : A-11-12





写真 5-12: B-19-3



写真 5-13: B19-4



写真 5-14: B19-9



写真 5-15: B-19-11



写真 5-16: B-20-16



写真 5-17: B-21-3



写真 5-18: A-9-22



写真 5-19: B-19-6

ヒッコミノコも鍛冶屋に頼んだと思うけど(184)。

セン・ヒラセン① センと言っていたね。ヒラセンかな。シャクシだとか、ヘラとか、平らなものを削るやつだね。ヘラが主だね。シャクシの時は、シャクシの裏側っていうのか、背中っていうそっち側を。

多分どこかで買ったと思うんですよね。はっきりとはわからないけど、会津地方の坂下〔会津坂下町〕とかじゃないのかなと思うけどね。新潟の方も金物屋というものがあったけど、金物屋さんは、坂下あたりから来てくれたんじゃないのかなと思うけど。

あと仕入れるのも、向こうの鍛冶屋さんに自分の使い良いような形ということで打ってもらって。それでやるってことで。ヒラセンなんかは、大体同じ形なんだよね。〔シャクシ道具には〕曲がったようなものもあったりして。そういうのになると、自分用に加工して、カーブだったり、刃の具合っていうか。それぞれ癖があるみたいなんで〔鍛冶屋に使い勝手が良いように打ってもらう〕(185)。

セン・ヒラセン② これはヘラのセンっていう〔道具〕。ヘラ作る木を割って、それを平らにするんにセンで押して。平らに削って。むかし、山仕事やった人は、みなこれ自分で持ってるな。

このカナモノ〔刃〕作った鍛冶屋さんの名前が、刃にキリツケてある。鍛冶屋さんの名前、自分の名前をこの裏側に。どこの鍛冶屋かわかる。おれは若松の〔鍛冶屋に頼んだ〕。これはメシヘラがやる人、あれ作る人はみんな持ってた(186)。

セン・ヒラセン③ これはシャモジとか作るやつだから、大工さんは使わないな。〔大工も板を平らにするときがあるが〕、センは狭いものしかできないから。シャクシを作るような人が持っていた。

カンジキ作るには使うけど。センを使うのは、カンジキはツメ。カンジキの脇についているツメを作るのに、これを使う。センも色んなのがあるから、丸いやつ〔マルエゼン〕もあるし。カンジキに使うやつなんかは丸くって、刃渡り短いやつ使うから。これは3本ぐらい持ってるかな。むかしシャモジ作るのに使ってたの。それはうちにあったから。

センの鍛冶屋さんはどこだろう。会津にあったんじゃないのかな(187)。

セン・ヒラゼン④ これはヒラゼン、センですね。ヒラエホソセンという人もいますね。シャ

---

(184) 2022年7月1日星長一さんより聞き書き

(185) 2022年7月1日星長一さんより聞き書き

(186) 2022年6月30日星甫さんより聞き書き

(187) 2022年11月2日平野千代一さんより聞き書き



エケズリセン (ヘラ用)



写真 5-20 : A-9-4



写真 5-21 : A-9-9



写真 5-22 : A-9-12



写真 5-23 : A-9-24



写真 5-24 : B-19-5



写真 5-25 : B-19-8



写真 5-26 : ヒラセン両刃 (A-9-16)

クシもヘラも使いますね。シャクシの場合は、まずは柄の幅とか〔整える時に使う〕。ヒラゼンは、本当に柄だけです。ヘラの場合は、薄く割ってから厚さを揃える時に使いますけども。シャモジ、ヘラにもヒラゼンは使います。鍛冶は会津若松だと思いますね。

刃の角度調整は、あまりしないですね。柄を入れる時に、柄で角度を調整するんですよ。刃の柄の部分焼いて、丸く削った木の柄に刺すんですけどね。その時に、使いやすい角度に柄で調整するんですよ<sup>(188)</sup>。

セン・ヒラゼン (B-19-6) ⑤ これ (B-19-6) はセンが折れたやつ。傷があって、折れてしまったんだ。自分で、刃をカナヅチで叩いて、曲げたりまっすぐにしたりするから。それで長く使ってるうちに傷がでて、折れてしまったんです。

センは両方の手で持って削る。木の台を自分で作って、ヘラ・シャクシを載せるところ作って、両方の手で引いて削るんです。

折れてしまったものは、鍛冶屋さんでなきやダメだな。鍛冶屋さんの方に持ってくと、つけてもらえる。これ (B-19-7) 両方折れたな。使いやすく自分で曲げるから、数をやってるうちに折れてしまったな。長い間使ってるうちに<sup>(189)</sup>。

エケズリセン〔柄削りセン〕 (B-19-5, 8) こっちの棒 (B-19-5) は、ヘラを削るセンです。ヘラの手で持つところ、狭いでしょ、そこを削った短いやつ。エケズリセン〔柄削りセン〕っていったな。これ (B-19-8) もエケズリセン。メシベラ作るとき、メシベラは先が大っきくて、丸くなってる。柄の方は狭いから。狭いところを削るやつが、エケズリセン。

センの柄は、自分で作って、入れるんですよ。みんな木のやつ〔柄〕は自分で作って。丸く削って、カンナで。鍛冶さんはカネの部分。木は全部自分で。使いやすいように、自分で曲げて。センの両方が木でねえと、力が出ねえな<sup>(190)</sup>。

### 3. 成型工程

ツラキリナタ・メービキナタ (B-20-6) ① シャクシ作るのも、〔細かく数えれば〕30工程くらいあるから、そのたびに刃物変えて〔作業を〕やってたんで。これはツラキリかな、ツラキリといったかもしれないね。

シャクシのこう丸まった面、〔表面を切るから〕ツラキリですね。そこを平らに削るときに、以前はそれを持って切ったらしいんだけど、それがものすごく危なくて。指を切ったり〔することがあった〕。それはおっかない〔危険だ〕っていうこと。はかどらないけども、まず正確に。事故を避けるために木の上に当てておいて、ツチンボウって言うん

<sup>(188)</sup> 2022年11月1日平野紀夫さんより聞き

<sup>(189)</sup> 2022年6月30日星甫さんより聞き

<sup>(190)</sup> 2022年6月30日星甫さんより聞き



メービキナタ



写真 5-27 : B-20-6



写真 5-28 : B-20-10



写真 5-29 : B-21-5



写真 5-30 : B-21-8



写真 5-31 : A-10-10

だけど木で作ったハンマーみたいなもので、叩いて削った。それ以降ほとんどの人が、危険を犯して一発でドーンとやるのではなくて、当てておいてトントントンと叩いて切ったという。

シャクシの作業の時は、しょっちゅうみんなケガしてたね。弟子というか、師匠について、オヤカタって言ったけれども。むかしだったら小学校。今の14、15歳ですね。そのくらいでもう高等小学校っていう、上に行く人もいたんだけど。ほとんどの人が江戸時代だったら元服だよ。14歳ぐらいになったら山に入って、自分の親父か親類のベテランの人について、教えてもらってたということで。2、3年弟子で、こういうの使い方

いながらやって。しょっちゅうケガしてたと思う<sup>(191)</sup>。

メービキナタ (B-20-6) ② これがメービキナタです。[別の種類のナタをあらかじめ用意するというよりも]、使い込んで減っただとか、そういうのを自分で使いやすい工程に回すんですよ。だからほとんど同じナタ [を使っていた]。[メービキナタも成型工程の] ドンビン、[仕上げに向かう] キザミ、色々に使いましたよね。

ツラキリは、ここを [シャクシの表面の部分] を [シャクシヅラ [角度のついた形] にするんですよ。柄以外は全部ナタです。ほとんど全部ナタで仕上げますね。ナタを研ぐのは、もちろん自分で<sup>(192)</sup>。

メービキナタ③ メービキっていうノコギリがあるんですよ。縦割りに板割りするノコギリ。その形をしたナタを、メービキナタって言うんですけど。四角いキザミナタと、両方を私は使ってますけど。[ツラキリだけでなく]キザミという工程でも、メービキナタ使ってます。

柄は自分で好きに薄い木を両方に張り付けて、あとは竹を巻くとか。まあ私は硬いホースみたいのを挿したり、太いホースがありますよね、そういうのを利用したり。あとは薄い木を掴みやすく両側に当てて、テーピングテープみたいなのを巻いて使います<sup>(193)</sup>。

ドンビンナタ (B-21-5) ① これは大きいナタで、最初のころに形を整えていく。粗削りに使うやつで、名前はドンビンナタという。これは作ってる人に聞いたんだけど、ドンビンって、なんでそんな面白い名前なのかと聞いた。そしたら、粗削り [の工程] なんだけど、柄を持って叩いて、だんだん削っていくんで、そのときにコッパという削りカスがボンボンと飛んでって。いろんなものにぶっつかって。ドンとかビンとか、そういう [音をたてる] とこからドンビンナタって、言ったんじゃないかって。そのおじいさんは言っていたんだけど。

ものすごい重いやつで、その重さを利用して粗削りに最初に削っていくナタだね。これでなんかね、削ってやってみようと思っても、自分でやったらたぶんできないと思う。おっかないしね。ドンビンナタは、重さと厚みがあって、ある程度の目方があるナタ。

持ち手の部分は、これねトウの皮だとか巻いたかな。[刃には] 鍛冶屋さんには多分銘が刻んであんだけど。同じような名前だと思う。重房とか重道とかが多い。作ってくれた人の名前ですね。聞いたときは、坂下あたりの鍛冶屋さんって言っていたね<sup>(194)</sup>。

<sup>(191)</sup> 2022年7月1日星長一さんより聞き書き

<sup>(192)</sup> 2022年11月1日平野紀夫さんより聞き書き

<sup>(193)</sup> 2022年11月1日平野紀夫さんより聞き書き

<sup>(194)</sup> 2022年7月1日星長一さんより聞き書き



シャクシの型



写真 5-32: B-19-24



写真 5-33: B19-25

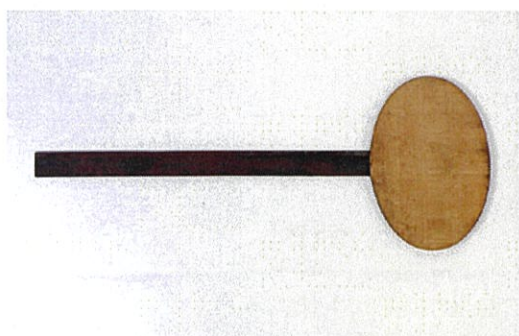


写真 5-34: B-19-22

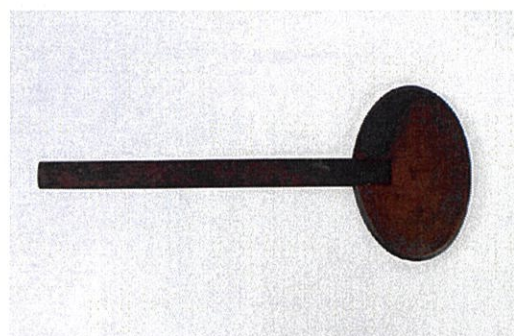


写真 5-35: B-19-23

ドンビンナタ (B-21-8) ② このドンビンは新しいやつだね。あまり減ってないやつだね。刃がまっすぐ。研いでいくとだんだん刃が[減っていく]。タツパというかね、幅も狭くなってくんで。使い込んだやつは、それがずっと薄く幅が狭くなっていくね<sup>(195)</sup>。

シャクシの型 (B-19-22) ① 型ですよ、これ。墨で丸く跡をつけていく工程があったでしょ。そこで使いますよね。柄は[多くの場合]木です。トタン板で作ったの私持ってますけど、普通は木ですよ。大きさは、小さいのから大きいので[製作するシャクシに合わせて]いろいろあります<sup>(196)</sup>。

シャクシの型 (B-19-23) ② これは杓子の型だな。木で自分で作った。毎日これで、シャクシ作った。一本ずつ、鉛筆で書きつけて。これあてて、毎日100本だ、100本。大きさは3寸。これは3寸か。大きくて4寸。3種類ぐらい作ったかな。3寸5分とか。4寸とか。

[写真と同じように、自分の時代は]柄の部分はゼンマイで[作っていた]。ゼンマイだから、弾力があってよかったですよ。曲がってもすぐ元に戻る。つけるはどうしてつけた

<sup>(195)</sup> 2022年7月1日星長一さんより聞き書き

<sup>(196)</sup> 2022年11月1日平野紀夫さんより聞き書き

キザミナタ



写真 5-36 : B-20-3



写真 5-37 : B-20-8



写真 5-38 : B-20-9



写真 5-39 : B-20-11



写真 5-40 : B-21-7



写真 5-41 : A-19-13

かな。木の柄のつけ根の部分に差し込んだかもしれないな。釘でとめて<sup>(197)</sup>。

キザミナタ (B-20-8)① ああ、これはシャクシナタだな。シャクシナタのキザミナタ。シャモジの外側は、これ一丁で作るんです。それが職人の腕。シャクシ作るの、何十年もやんねえとできねえだ。丸いところを、これ一丁で作るんですよ。ここ〔シャクシの丸い部分の裏〕を、こっち〔右側〕一回、こっち〔左側〕一回、真ん中一回。

ナタもセンと同じ鍛冶屋さんから買っていた。柄は自分で握るところを痛くないように

<sup>(197)</sup> 2022年6月30日星甫さんより聞き書き



作る。山のおどろづル、フジづル、それを剥いでここに〔持ち手に〕巻くんですよ。カネだけでは、痛くてダメだから。山から採ってきて、巻いて作るんですよ<sup>(198)</sup>。

キザミナタ (B-20-8) ② ナタですねこれは。キザミナタって言いますけどね。ナタも結構いろいろ使うんですよ。面(ツラ)を切るのに使うものは、ツラキリナタって言いますし。あとドンピン、ドンピンの工程では、ドンピンナタっていうのも。みんな違うナタなんですよ。これはキザミナタ、一番切れるように研がないと。

〔3つのナタの〕大きさは同じです。けっこう重いですよ。ただ使い込んで減ったのは軽くなりますけどね。最初はほとんど同じです。重みで、ナタの重みで切りますから。とくにキザミの場合は、ナタをシャクシの上に乗っけて。キザミ台の上で叩くようにシャクシを動かして。ナタはシャクシの上に乗けたままで、シャクシを持つこっちの手で加減して切るっていう工程ですから<sup>(199)</sup>。

キザミナタ (B-21-7) ③ これもキザミナタです。やっぱりどうしても、早く研ぎたかったから、もう真ん中、ここばかり研ぐんですよ。使うとこばかり。使う部分は人によって違うけど、どうしてもやっぱ真ん中へんとか、すこし手前寄りが使いやすいんですよ。そして使うから、使うところばかり研ぐから、減ってしまう。

私も研ぐの、また砥石も変な減り方するから、グラインダーで手前側を落としたりします。むかしはね、グラインダーなんてないから、そんな刃伸ばしたりはあまりしなかったでしょうけど。研いで重さが変わってきたら、また違う工程で使いますね<sup>(200)</sup>。

ナタ (A-19-13) このナタはかなり減ってるから、フチマワシなんかには、良いんじゃないですかね。シャクシの周り〔フチ〕を丸めるのに。全部キザミ台の上でやりますから、それで角度を少しずつ変えながら刻んで。あとは持ち方を変えて、刃の向きも変えて切つて。もうとにかく切れるようにしないと、フチマワシは力が要りますから<sup>(201)</sup>。

テッチテッチ これ〔キザミの工程〕はテッチテッチ〔と言った〕。てっててってと、〔柄杓の形になるように、ナタで〕丸みつけてくだ。形も何もねえから。シャクシ〔になる材料を〕てっててってと。自分の加減で形作っていくだ。形も何もねえものを、自分の手で、勘でやっていくんだ。「テッチテッチが終わんねえか」なんて言ったんだ<sup>(202)</sup>。

<sup>(198)</sup> 2022年6月30日星甫さんより聞き

<sup>(199)</sup> 2022年11月1日平野紀夫さんより聞き

<sup>(200)</sup> 2022年11月1日平野紀夫さんより聞き

<sup>(201)</sup> 2022年11月1日平野紀夫さんより聞き

<sup>(202)</sup> 2022年6月30日橘タツ子・平野カツヨ・平野幸子・平野増子・星チヨセさんより聞き

#### 4. 仕上げ工程

マルエゼン（B-20-17）① これがマルエゼンですね。柄を丸めるときに使う。輪の外の両側にも刃が付いてます。シャクシの付け根の後ろ側は、平らになってるんですよ。その部分をとるときに。写真の向きとは反対にして使うでしょ。だから向こう側から見ると刃が研ぐほう、この写真でいえば、右手前側を使っていたでしょうね。こっちのほうが減ってるから、自分の好きな方ですね。柄を丸めるための道具です、これは<sup>(203)</sup>。

マルエゼン・マルセン

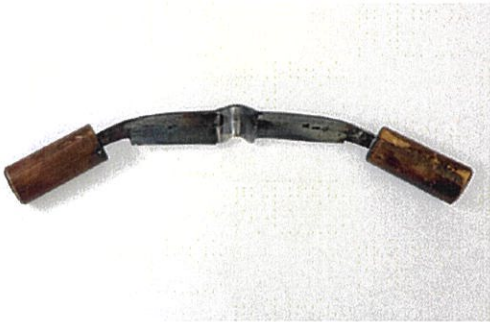


写真 5-42：B-20-17



写真 5-43：B-20-18

マルセン② 柄の丸い部分っていうのは、センのうちでも丸くなった、マルセンっていう[道具を使った]。センの一部がクルッと丸まったやつがあったと思う。それを使って仕上げた<sup>(204)</sup>。

マメジャクシ〔豆杓子〕用マルエゼン（A-9-3）〔普通のシャクシよりも〕もっと小さいマメジャクシって作っている人いたんですよね。マメジャクシの柄はあんまり細いから、シャクシの柄を丸めるときに。こういった小さいのでやったんですよね。ヒラゼンで作ったものですね。自分で加工して。小さいシャモジはやっぱ柄が細いから、使っていたのは少し輪の小さいものと2種類ですね<sup>(205)</sup>。

デバ（B-21-9）① これはデバですね。デバは出刃押し、シャクシの裏を押すときに、そのときに使うんです。キザミのあとにどうしてもソネが立ってしまう〔角になった部分ができる〕でしょう。〔角ばった〕ソネを、柔らかみを出すために、センデバで少し押すんですよね。デバは刃の峰と柄を握ってこう押していく。こぶし大の台の上に乗っけ

<sup>(203)</sup> 2022年11月1日平野紀夫さんより聞き書き

<sup>(204)</sup> 2022年7月1日星長一さんより聞き書き

<sup>(205)</sup> 2022年11月1日平野紀夫さんより聞き書き



デバ



写真 5-44 : B-20-22



写真 5-45 : B-21-4



写真 5-46 : B-21-6



写真 5-47 : B-21-9

て、それで押していくんですね<sup>(206)</sup>。

デバ (B-21-9) ② ヒラオシとか、デバとも言うたかな。使いこんでいくと、ずっと幅が狭くなっていくね。使い込むとだんだん曲がって、そういう風になっていきますね。デバは、やっぱり、シャクシの後ろ側切るときでねえかな<sup>(207)</sup>。

センデバ (B-19-6) [写真 5-19 のヒラセンは壊れていて] 片側には柄部分が無いですね。片方が無ければ、ヒラセンとしては使えないですね。センは両方で押して切る道具ですから。[ヒラセンとしては使えないので、] それを少し短くしたのが、センデバというんですよ、センで作るデバだから。刃の途中から切ってね。このデバのように、センデバを作る<sup>(208)</sup>。

エグリゼン① エグリゼンだね。[シャクシの丸い部分を]えぐるのに使う。マメジャクシっ

<sup>(206)</sup> 2022年11月1日平野紀夫さんより聞き書き

<sup>(207)</sup> 2022年7月1日星長一さんより聞き書き

<sup>(208)</sup> 2022年11月1日平野紀夫さんより聞き書き

ていうのが、2寸くらいかな。それから2寸5分、3寸、3寸5分、3寸8分、4寸、4寸5分というのが一番大っきいかな。

これこそ、その人の独特の刃の作り方があらしいね。えぐるのに、自分の癖っていうかあるから、えぐるその刃の作り方、その人独特のカーブが必要らしいんだな。色んなの並べてみるとわかるけど、その人によって、深く曲げといたりとか、柄が立ってた方がやり良いつても人もいたりとか。刃の角度ね。人のセンを使つては、キレイに掘れないらしい。だから人の刃物借りてやつても、うまくクルツといかなくて、その人の癖で深く行き過ぎてしまつたり。深く掘りすぎると、今度底抜けるから。

研ぐときはそうだね。これひっくり返して研いで、刃が普通の刃物つて大体まっすぐに研ぐけど、これはこういう風に刃が。だからあの金属の断面が、こういう風に刃が研いである。えぐりやすいように<sup>(209)</sup>。

エグリセン② これはシャクシの中掘るやつ。エグリセン。シャクシの中をこれで〔掘る〕。1本のシャクシ、4回か5回ぐらい削ぐ、これで。大きい鍋で煮るんです。煮て木を柔らかくして。削るときは力があるんですよ。シャクシ左1回、右1回、4回、5回ぐらい削ぐですよ<sup>(210)</sup>。

エグリゼン③ エグリゼンは、最後に中をえぐるセンですよ。小さいのは、やっぱり少し刃の部分を曲げたりして。なかなかこれまで曲げたりするのも難しいですよ。刃を縮めるのは、結構大丈夫なんですけど、伸すつていうのはダメなんですよ。内側はハガネですから、割れやすいかな。

もうエグリゼンを作る職人はいないですね。今あるので、やるしかない。今あるものを砥石で研いだり、修繕して使っています。緩くなつたりすると、取っ手は取り替えてやつてます。結構長く柄の3分の2以上入つてますから、柔らかい木の方が〔入れやすいため良い〕。

エグリゼンを研ぐのには、専用の砥石で。本当にこのエグリゼン研ぐのは難しいです<sup>(211)</sup>。

コッパ〔木っ端〕①〔エグリゼンで抜いたところの〕コッパ。削つたらプイッと、手で最後はじくみたいにやるの。だからこれ飛んでいくの。〔エグリゼンで〕こうグつてやると、ポンとコッパが飛んでいく。

コッパはそう、これで遊んでた。絵を描いたりとか。これをね、ちょっと遊び心で。〔削

---

<sup>(209)</sup> 2022年7月1日星長一さんより聞き

<sup>(210)</sup> 2022年6月30日星甫さんより聞き

<sup>(211)</sup> 2022年11月1日平野紀夫さんより聞き



エグリセン



写真 5-48 : A-10-6



写真 5-49 : A-10-7



写真 5-50 : B-20-4

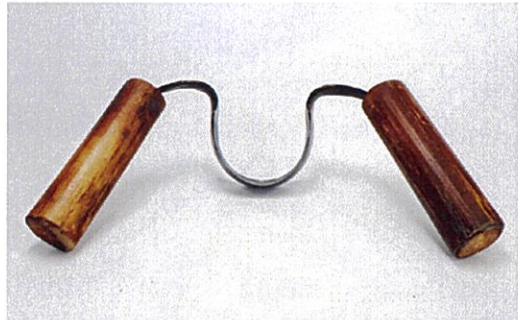


写真 5-51 : B-20-7



写真 5-52 : B-21-10



写真 5-53 : B-21-11



写真 5-54 : B-21-12



写真 5-55 : B-21-13

檜枝岐の暮らしと民具（一）



写真 5-56：道具立て（B-10）



写真 5-57：ユリハ（A-11-20）



写真 5-58：マルノミ（A-11-18）



写真 5-59：マルノミ（A-11-19）

り出したコップを] もうひとつね、小さくえぐると茶葉をすくう、茶さじが作られるんで、そういうのもやったようです。

〔茶さじを作るようになったのは最近のこと〕生活豊かになってきて。必死にシャクシを作る時代だったら、そんなことやってられないけど。今だったら、そういうのいっぱい作って、お土産屋に持ってってね。できると思うんだけど<sup>(212)</sup>。

コップ〔木っ端〕② えぐった部分を草履のお土産物に使った。売り物にもしたみたいで  
す<sup>(213)</sup>。

マルノミ（A-11-18）① 〔エグリセンがでてくる前には〕シャクシに使っていたというのを聞きましたね。ユリハとかね。大体、俺たちが子供のころから、もうエグリゼンはできていたんで。これなんかで叩いたり、あとは横にするユリハって言った、ちょっと形の変った道具で削って、仕上げていたみたい。

あとこれはね、こちらではハンゾウというコネバチ。あれだとかウスを作る人なんかも

<sup>(212)</sup> 2022年7月1日星長一さんより聞き

<sup>(213)</sup> 2022年6月30日橋タツ子・平野カツヨ・平野幸子・平野増子・星チヨセさんより聞き



カンナ

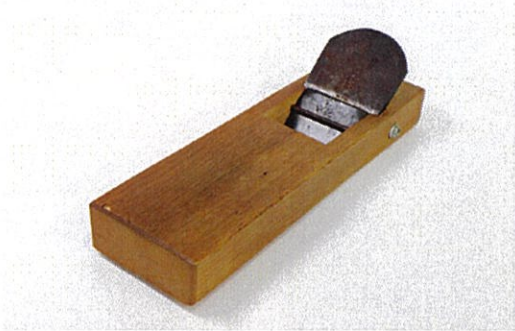


写真 5-60 : B-20-12



写真 5-61 : B-20-13

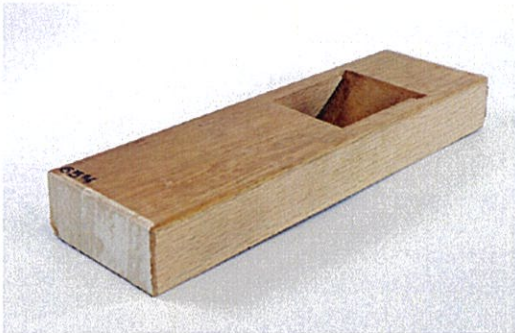


写真 5-62 : B-20-14



写真 5-63 : A-10-5

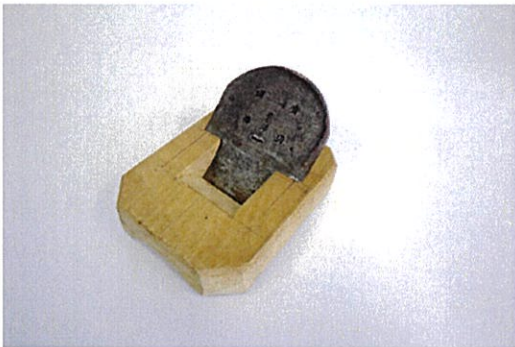


写真 5-64 : A-10-3



写真 5-65 : A-10-9

いたんで。こういうのも、後までそういうの作る人には必要なものだったと思いますね<sup>(214)</sup>。

マルノミ (A-11-18) ② [こうしたノミで] 小さいのは、大工さんが使う。こんな大きいのは、太鼓胴。太鼓胴掘るときに使った。太鼓胴とかウス<sup>(215)</sup>。

<sup>(214)</sup> 2022年7月1日星長一さんより聞き書き

<sup>(215)</sup> 2022年11月2日平野千代一さんより聞き書き

マルノミ (A-11-18) ③ これはマルノミですね。これは私も持ってます。シャクシでは使わないですね。私、木皿も作るんですけど、その木皿の最初の段階では使います。菓子盆を仕上げる時に、最初に盆の内側の溝を掘る時に使う。そのあと、テブリっていうウスを掘るような道具で仕上げるんですけど。テブリの前の段階で、マルノミでずっと、最初に木槌で叩いて掘っていく<sup>(216)</sup>。

ユリハ〔ユリノハ〕(A-11-20) これユリハね、うん。そうですね、その人によって、使い良いようにだと思うけど、シャクシの中をえぐるやつだよ<sup>(217)</sup>。

カンナ (B-20-12) これはカンナだけど。シャクシでカンナを使うのは、フチの部分ですよ。そこだけです、カンナ使うところは。普通の大工道具のカンナと同じです。シャモジには、とくに使わないですね。

このカンナは台の長さが短いですね。カンナってまっすぐなものを削るので、普通長いカンナでしょ。短いから少しデコボコのところでも削れるんじゃないですかね。シャクシのフチでも削ったのかな<sup>(218)</sup>。

##### 5. シャクシ製作にかかわる語り

甫さんの経験談 1人前って言えば〔一日〕100本。おらは120本ぐらいやった。シャクシはそうだな、4、5年前かなあ。3年前までは、やる人もあったですよ。俺はキリンテ〔麒麟手：檜枝岐村内の地名〕でやっただなあ。40歳か50歳ぐらいまでやったな。俺が最後にやるころは、〔もうシャクシを作る人は〕いなかった、いなかった。2、3人しかいなかったでしょ<sup>(219)</sup>。

シャクシ小屋〔シャクシを作るのは〕ムコウジロゴヤ。これは構造的にも丈夫な作り方で、釘なんか使わないで、現地で作れるように、色んな雑木を集めて切ってきて、それで組み立ててつくるんです。ある程度の傾斜地に作って、〔それに合わせて〕柱をどの角度に建てるかとか。ムコウジロというのは、入口から向かって奥に、〔入口の〕向こう側に土の部分を斜面を少し掘って、イロリにするんですよ。火を燃やす場所。〔仕事をするには〕必ず火を使うので。向こう側に地面の炉、地べたの炉、火を使うところがある小屋があるということで、ムコウジロ〔向こう地炉〕小屋といった。

建てるときはそれぞれの組でやるので、4、5人らしいんですね。真ん中の場所は、窓

<sup>(216)</sup> 2022年11月1日平野紀夫さんより聞き書き

<sup>(217)</sup> 2022年7月1日星長一さんより聞き書き

<sup>(218)</sup> 2022年11月1日平野紀夫さんより聞き書き

<sup>(219)</sup> 2022年6月30日星甫さんより聞き書き



作れないから。場所的には最も良くない。だから、くじ引きでやるらしいんだよね。囲炉裏で火を燃やすから、煙いです。真ん中は、一番暗くって、煙くって、大変だよね。端の人は窓作れるからまあ、良いんですね。

その大きさっていうのが、大体、9尺っていうのも、座ってて、こういう道具がグルーッと、ほとんどが手が届く範囲にあるという。その代わり、自分がそこに寝泊まりもしなくちゃいけないんで、寝られるくらいの幅ですね。そして、仕事やるこのくらいの高さのところに棚を作ってそこに、ワラ布団っていう軽い布団。ワラ布団は持ち運びできるように、作ってあるんで。棚に上げて、仕事をやって。あとは仕事一段落で、夜夕飯を食べたら、それを下ろしてそのまま寝てしまうと<sup>(220)</sup>。

シャクシの組① こういう風に小屋に行くと組ができて、その中にベテランっていうかね、親方がいるみたいで。山に入ると親方で、その人の名前です。この人だったら「コウシチ組」。「誰誰組」ということで、山に入るんですね。師匠弟子の関係は、親子関係ではないね。親子の場合もあるけどね。

その人たちは、共同生活になるからね。そんで4、5日やって、大体3寸5分ぐらいのシャクシだったら、500本ぐらいで1俵ということで。カヤを乾燥した秋だね、それでこれを入れる俵というかね、入れ物。それを作るんですよ編んで。ムシロを編むみたいなやり方だけど、それで編んで、それを山に背負ってって、500本だったら500本を入れて、1つにして。それができたら、いったん帰って来ると。

そして、下の仲買いというか、それを集めてよそに出してくる商店に、その人にお願いするんだけど。仲買いが売りに出るのは東京方面に出るみたいですね。シャクシを持って降りてくるときに、腕がちょっと悪くて足りない人なんかもある。山を明日降りるよっていうときに、大体4、5日でヒトヤマ（一山）って言って、降りてくるらしいんだけど。まあ食料の関係もあるからね。下に来て、次のやつを背負って行くんだ。

家に帰ってくるときに足りないときは、人から借りるらしいんだよね。大体自分で500本できたつもりでやってっても、ああ数えたら10本足りないって。そうすると借りて、その次に返すっていうことで。その組の中でやってたみたいだね<sup>(221)</sup>。

シャクシの組② 組は大体5、6人だと思いますね。ほとんど国有林なんで、国有林の中を調査をして、その組で、ある程度の面積の所を買うんですよね。木を営林署の人に調べてもらって、そこに刻印っていうのを、これは伐って良いよっていうのをやってもらって。そしたら、それを例えば50～60本、木があるとすれば、その木がなくなるまで、毎年その小屋に行くわけ。木がなくなったら、その小屋も潰してしまっ。これは持ち歩かなく

<sup>(220)</sup> 2022年7月1日星長一さんより聞き書き

<sup>(221)</sup> 2022年7月1日星長一さんより聞き書き

て、その場で作る小屋なんで。それでつぎの山、良い木がある場所を調査して、そこを営林署に調べてもらって、木を買って。

それで、そこに入り込んで、またそこで2、3年やる、っていうそういう方法。無断で伐ったら盗伐ということになるからね。逮捕される。山で加工して、形、製品になったら、こういう風に棚というのがあって、それにはめて乾燥させるんですよ。何段も頭の上に。いっぱいぶら下げるんです。そして自分で数えるから、ヒトサオ 20 本なら 20 本ってわかるんです。大体俺は 500 本になったな、とか。足りない人っていうのは、夜もかなり遅くまで仕事したらしい。腕の良い人と、悪い人とあるらしいね。

山で楽しみとかね、これ〔シャクシ〕ばかりというよりも、息抜きに魚釣りに行ったりとか、獣、鉄砲持って猟をやったりとか。腕に余裕があるぐらいの人は、それもできるんで。ものすごく良かったらしい。

組の人とは、シャクシの仕事以外では、そんなにかかわりがあるわけじゃない。親類でもないし、親方についていたということなのかもしれないけど。大体そういう組は、同じくらいの組で、山を動いていたみたいですね。ただ、ずっとその人ばかりというわけでもないらしい。うちの親父もやったんだけど、「あの山は誰誰さんと組んだ」「あの山は誰と組んだ」とかっていうな<sup>(222)</sup>。

---

<sup>(222)</sup> 2022年7月1日星長一さんより聞き書き



道具箱



写真 5-66: A-9-1&2

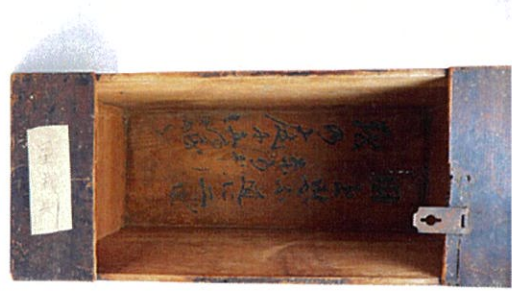


写真 5-67: 箱底部の墨書き (A-9-1)



写真 5-68: A-10-1&2

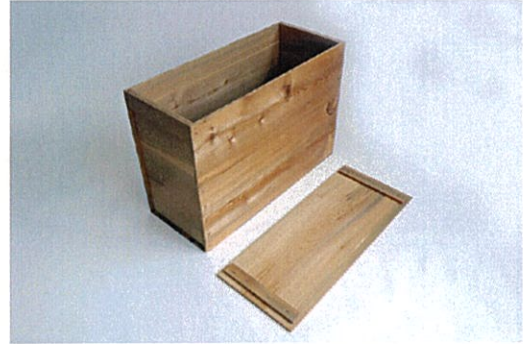


写真 5-69: B-20-1&2



写真 5-70: B-21-1

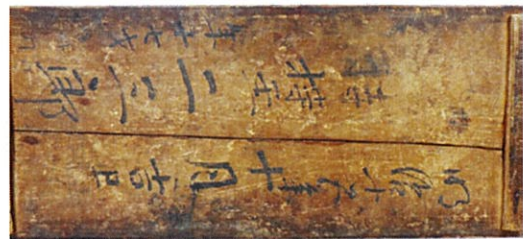


写真 5-71: フタ裏の墨書き (B-21-2)

## 第6章：運搬・遊戯・その他の用具

### 1. 運搬具・遊戯具・その他の概要

本章の類型に含まれた民具は、運搬具2点・遊戯具1点・その他5点であった。運搬具にはショイコ・オオゾリ、遊戯具には子ども用のソリが該当している。

ショイコに関しては、製作方法から始まって、主に女性たちの経験談を収録することができた。またソリに関しては、オオゾリは荷物運搬の経験談、子ども用のソリに関しては、子どもの頃の遊びへと話が展開していった。豪雪のなかでの遊びや、スキーが村に入ってきた際の様子を感じとっていただくことができる内容になっている。

もっとも点数が少ないため、今後の調査によって、さらに内容を充実させていくことが期待される。

### 2. 運搬具

ショイコ・ショイッコ(B-17)① これ(B-17)は、ショイッコといったよね。荷物を背負うときに背中に当てるやつだね。ショイッコは背中に当てて、背負ったんだ。腕入れてね。ここに肩、肩あてて。ただそのまま背負うんじゃね、薪なんか背負うとき背中痛いもん。これ着て、薪を背負ったり。薪だとかシバとか草もそうだし、なんでも背中で背負うときはこれを着たの。ショイッコもワラで作ったやつですね<sup>(223)</sup>。



写真6-1：ショイコ（ムシロミノ）(B-17)

ムシロミノ(ショイコ)② ムシロミノは自分たちも作ってたやつだ。これがあれば、何を運ぶにも背中と肩が痛くならないから。ほんで背中が涼しいわけ。雨に濡れたとき、[雨が]落ちるようにして。何かを背負うのに、背中あてに。大きいのを、あたしたちみんな作ってたの。女性たちが、作ってましたよ。この人が作ったやつなんか、まだ新しいのがまだあるなあ。

夏、みんなで[材料となる]草を抜いといて。[材料になる草は2種類あり、]ヒロロっていうのが一番。開拓地の方はヒロロがいっぱいあったの。ヒロロは草の根っこが丸いわけ。それで[もう1種類の]シバクサっていうのは三角。草が違うわけ。ヒロロっていう方が柔らかで。シバはちっと荒いです。イガイガして。

<sup>(223)</sup> 2022年11月1日星フミさんより聞き書き



7月半ば過ぎのころ、ちょっと抜いて陰干しにしておいて。まあ土用に入ると大抵草は強いから。7月の半ば過ぎ、20日ごろだな。これの盛りは。大きい草を、夏抜いといて作っていたの。女の人が、結構、1週間も10日もかけて作りましたね。冬は女の人が大体村にいましたから。

1度作ったら長く使えますね。1年、2年は使える。使える。今はカッパを使いますよね、あれよりは、ムシロミノだと雨降っても、背中が涼しいわけ。ペタッと付かないから。背中が涼しくって。カッパよりミノの方が〔良い〕。

荷物背負うときのミノ。肩なんか大丈夫だから。ショイッコに使ったと思います。夏でも、雨が降っても涼しいし<sup>(224)</sup>。

ムシロミノ(ショイコ)③ ムシロミノというのは機械っていうか…。縄を良く張って、そしてサゴウと言うので刺しては、ズンズンとこうやって、ワラを入れてはズンズンとやって。機織りの様なことね。縦を作るとして、そしてこうやって横を刺して。まあ機織りだよ。このムシロミノは下の方は狭くして、今度は背中に当たる所はちょっと広く、こう足して。こういう風に作ったの。むかしの人は器用だったよね。

誰が〔作る〕って言うんはないねえ。男の人も作ったし、女の人も作ったし。ムシロも檜枝岐でも、ワラでないのでスゲ〔ヒロロ〕っていうのがあったの。こんな長いスゲ。それでこう織って、ムシロの代わりに。スゲっていうの刈って干しといて、そして織ってしたの。ワラよりね、弱かったね。できればワラで作りたいの。ただ、ワラがないからね、思うように。まあクツとかね、アシナカとか、そういうの作んなければならないから<sup>(225)</sup>。

ガバ・エジッコ エジッコは今でいうリュックだな。小さい袋はガバ。ガバの大きいのがエジッコ。エジッコはガバの大きいので、紐をつけて、背負うようにしたやつ。エジッコに荷物を入れて背負って〔運んだ〕。弁当から、子どものオシメから、自分たちの着替えから、全部入れて。子どもをおんぶした上に、おいと背負って、そして山に行ったの。畑仕事に。紐をつけて、おっきい紐をつけて背負ったんです。いっぱい入りますよ。

ここは〔檜枝岐の集落があるのは〕山と山の間だから〔耕地がない〕。3km 4km 離れてるところに、赤ん坊おんぶして畑耕しに行くわけ。〔出作り小屋のある〕山の畑には、アワとかソバとかマメ、アズキ、インゲン、カボチャを育てていた。

〔出作りをしているときには〕何kmも背負って、学校に歩いて来たんだから。学校は今と同じ場所だけだ。出小屋から3km 4km。遠い人はもっと遠くにいたから。私たちは3km くらいのところから。毎日。姉弟で通って。エジッコの大きいやつに弁当入れて。今のランドセルと同じくらいの大きさ。お母さんがいっぱい産んでくれた、兄弟の多い人は

<sup>(224)</sup> 2022年6月30日橘タツ子・平野カツヨ・平野幸子・平野増子・星チヨセさんより聞き

<sup>(225)</sup> 2022年11月1日星フミさんより聞き

大変だった<sup>(226)</sup>。

エジッコ エジッコって言って物を入れる[リュックのようなものがある]。うちなんかも、結構作ったな。いっぱい作った。おら去年あたり売ってしまったもん。大きいやつから、小さいやついっぱい作った。エジッコは40cm くらいのやつだったら、何千円かしたから。

エジッコを作るにはシバクサっていうのを、抜いて。それをよって編んで。そしてこう袋になるわけね。縄よりが相当じゃないとキレイによれないよ。紐はシナナワで作ったものもあるかもしれない<sup>(227)</sup>。

コンブクロ コンブクロっていう入れ物もあったね。あれは出切れ。着物をやったりして、出切れで、布があるから。それを同じ形に切って、そして縫い合わせるの。そして小物を入れるの。何入れても良いの。おらも、いっぺえ作ったがな、家にはあるわ<sup>(228)</sup>。

オオゾリ (E-1) ① オオゾリ。これ堅雪の時に、むかしは女の人、マキヒキ（薪引き）やったもん。マキを山に拾いに行つて、オオゾリさ積んで。ヤマダシするんにな。そういうことした人も、みんな亡くなったもん。マキヒキの他には、あと家を建てる時。材木運び。春先の雪堅くなつてからな。これがないと…山からスギの材木、みんな積んで引っ張つてきた。

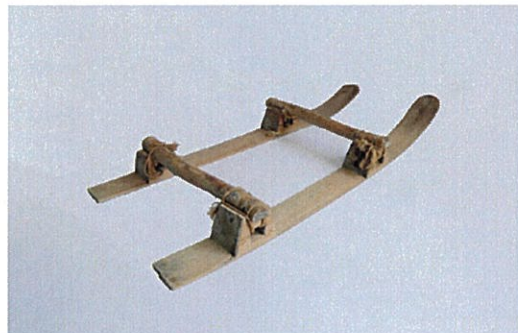


写真6-2: オオゾリ (E-1)

ソリもみんな[村で]作ったもん。なかなか自分で作る人はなかつたし。器用な人に作ってもらつて。オオゾリも作った。山から伐り出して、なかなか山の丸太からこうするのが大変だ。

スキーにはロウ塗つたが、いや、これ[オオゾリ]は何もつけねえで滑つた。何も塗んかつたな。これは綱つけて引っ張るやつだから。そうロープをつけて、荷物をつけて、そしてロープで引くやつだから<sup>(229)</sup>。

オオゾリ (E-1) ② 燧ヶ岳さ、このソリ持つて行つて、みんなが。尾瀬の方に普請するつて、みんな材木これで持つてきただ。むかし<sup>(230)</sup>。

<sup>(226)</sup> 2022年11月2日橘タツコ・平野カツヨ・平野幸子・星チヨセさんより聞き

<sup>(227)</sup> 2022年11月2日橘タツコ・平野カツヨ・平野幸子・星チヨセさんより聞き

<sup>(228)</sup> 2022年11月2日橘タツコ・平野カツヨ・平野幸子・星チヨセさんより聞き

<sup>(229)</sup> 2022年6月30日星甫さんより聞き

<sup>(230)</sup> 2022年6月30日橘タツコ・平野カツヨ・平野幸子・平野増子・星チヨセさんより聞き



オオゾリ (E-1) ③ ああ、これはソリだなあ。ソリソリ。これは荷物運ぶときに使ったと思いますね。何か載けて雪の上引っ張るやつでしょ。荷物をつけて引くやつです。荷物を載けて引っ張るわけ。むかし、薪など燃したから、薪などここさつけて、こう家に引いてきたです。

ソリも自分の家で作った。買わない、買わない。買うものなかったから、檜枝岐は。自分で作らなければ<sup>(231)</sup>。

### 3. 遊戯具

ソリ (C-7) ① ソリだな。大人の乗ったスキーを利用したか、子ども用に作った15cm くらいのやつに板を打ち付けたものかな。それに紐をつけて引っ張って。あまり重いときはこの紐を肩にやっ、そうして引っ張ったの。

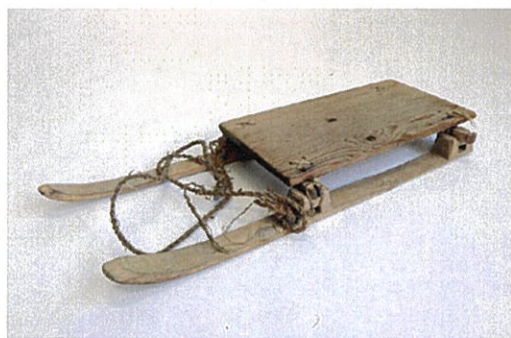


写真6-3: ソリ (C-7)

このソリは手の器用な人がいて、スキーを作っていたんですよ。檜枝岐の人が、それをみんなに分けてもらって。小さい

やつから、大きいやつまで作ってくれていたの。作る人は、限られてましたね。為次さんと誰ぐらいだろう。あんまりいなかったな、スキーなんか作れる人は。

木はお湯に入れて、曲げたんでしょうね。いい具合に曲げて。鼻先が突っかからないように、反らせると突っかからないから。少しく曲がってるでしょ。お湯につけて、力をいれたら少しは上がってくるから。今の曲げ輪のような感じですね。

きっと材木は、ブナの木だな、ナラの木は堅いからブナの木か。輪カンジキにやったやつは柔らかいけど、こんな木は秋のうちに切っとくの。ブナの木は〔人家がある〕こんな平らなところはないの、もっと高いところじゃないと、ブナの木はないの。ナラの木は下にあるけど、この辺はブナの木はないの。もうすこし上に行くと、ブナ坂っていうところがあの御池〔みいけ：尾瀬の登山口〕の方にあるけど、あの辺の高さに行かないとブナの木はないの<sup>(232)</sup>。

ソリ (C-7) ② これはソリだね。子どもたちが遊ぶときに使ったやつだよ。あんまり急なところはダメだけど、ちょっと斜面に、斜めになったところを上を持って行っては、すーっと滑ってきたの。荷物載せたりするのはもっと大きいので、この座る部分の板しないで

<sup>(231)</sup> 2022年6月30日橘タツ子・平野カツヨ・平野幸子・平野増子・星チヨセさんより聞き書き

<sup>(232)</sup> 2022年11月2日橘タツコ・平野カツヨ・平野幸子・星チヨセさんより聞き書き

使う。この板なくて、山から木を薪にする木とか、つけて山からだしたの<sup>(233)</sup>。

ソリ (C-7) ③ ソリ使っていたな。そこら辺いっぱい、山のように雪がなってるところに、ソリ乗りと言ってソリで滑ってた。今みたいに車を通る訳じゃないから、道の狭いところで、天気の良い日は山にのぼって。楽しかったよ、遊び。それに乗ってどっか行くってわけじゃなく、遊びで。学校あるでしょ、あそこの裏の方の山でも。学校へ持って行って、裏山で遊んだ。

ソリは手の器用な人は、うちで作れたな。ほかにもソリを作る人がいて、最初スキーもそう。1人だけ作ってくれる人がいて、そのスキーも作ってもらっていた。作ってもらったり、檜枝岐では、要らなくなったら、おさがりで回したりとか<sup>(234)</sup>。

ソリ (C-7) ④ 手作りのソリだね。最近まで冬の運動会でやってましたよ、手作りのソリで。60代から上の人たちがやりたくて。俺らあんまりわかんないんだよ。もうプラスチックのソリになってるから。だけど60代70代の人たちって、自分でソリ作ってたから。それを運動会でやろうって。70代の人が出して。みんなでソリ作って、手作りソリの競争。タイムレースみたいな。一昨年〔2020年〕くらいまでやってたよ。コロナの前まで。冬の運動会で。そんなとき大人たちが作ったのも、小型のやつで、1人で乗れるようなやつを作ってたよ<sup>(235)</sup>。

冬の子どもの遊び みんな何して遊んだかよ。冬、ソリ乗りなんどしただな。家の中だけでは、遊べないからな。スキーが盛んになったのは、ずっと後だよ。〔自分たちの〕子どもの代だよ。もっと盛んになったのは下の頃からだ。ソリにも乗ったり、スキーにも少し乗ってたかな。スキーに乗る人は少なかった。チヨセさんは乗ってたな。小沢〔こぞう：小沢平のこと〕が長いから、あんまりこけた。御池の方で<sup>(236)</sup>。

スキー① 俺〔カツヨ〕が姉さん、トキ子姉に遊びに行くんに、転んで雪で濡れて、ペタペタにして行き行きしたって。あのころはまあ始まりだったからな、下手だった。仕舞に遠くまで行くようになったから。この人〔チヨセ〕は結構乗ったが、私〔幸子〕の弟は、それより三個下かな。そのときその一番杉のいっぱいあるところを、あの上からずっとなってきた道路があってポンと飛ぶわけね。

そこでスキー大会なんだなどあっただよな。今、面影ないけど。そこをマッキューと呼

<sup>(233)</sup> 2022年11月1日星フミさんより聞き書き

<sup>(234)</sup> 2022年11月1日平野ケイ子さんより聞き書き

<sup>(235)</sup> 2022年11月1日平野勝さんより聞き書き

<sup>(236)</sup> 2022年11月2日橋タツコ・平野カツヨ・平野幸子・星チヨセさんより聞き書き



んでた。昭和16年頃かな、群馬だったかな、向こうの方からスキーの先生を頼んできて、初めて曲がることを覚えたわけ。それまで乗ったときは、マッキューは直下降。みんながスネなんぞ、痛くしたりな。まっすぐしか乗れなかったからな。

そのときが早い方だ。弟が、三浦雄一郎さんのところに弟子入りしたの。それからスキーが盛んになって、猪苗代まで歩いて行ったんですよ。1回田島に泊まって、そこから電車に乗って、猪苗代までスキーしに。そのころから檜枝岐でスキーが盛んになりましたね。

長靴に古くなった靴下をかぶせて、そして、スキーに乗ったの。スキーの靴が無かったから。長靴に古くなった大人の靴下かぶせて、弟3人滑っていたから。あの頃は麻作ってたから、麻いっぱい作ってたから、それをミツクデって言って、ちょうどおさげのようにミツクデに編んで。それで板と靴を縛りつけて。

麻は作ってた作ってた。麻はいっぱい作ってました。麻は上ノ原が一番多かったね。シナの皮でも作ってた<sup>(237)</sup>。

スキー② スキー場はごく最近。俺たちが子どものころはあすこで、俺たちスキーに行くは行ったけど、スキー場という名前はなかった。リフトはもろんなかったですよ。そのまま上がってって、下りて。

むかしは危なかったです。私もあるとき、骨を折ったことある。青年になってからだな、そこに電源開発の送電線の仕事で、冬スキーで会津駒〔会津駒ヶ岳〕に登ってって。時間があるから、4人で滑ってるうちに転んで。ボキッと折っちゃって。大変でしたよ。駒ヶ岳の頂上だもん。あのころ、ヘリがなかったし。

そんな時はね、俺の友達がプロのスキーヤーだったんですよ。その人が村の連絡に降りてくれて。村の人が七入〔なないり：檜枝岐村の地名〕になんか山仕事行ってる人、その人たちが5、6人だったかな、ソリとあったかいお湯とか、そういうの持ってって、下から上がってってくれたんですよ。ほんとに村の人数えたら、100人くらい迎えに行ってくれたんじゃないかな。私22歳の時だな。

ほんとに〔檜枝岐村の住民ではない〕電源開発の人たちは、びっくりしてました。檜枝岐が助け合ってくれるところに、「すごい」と。男という男、ほとんどみんな〔手助けに〕行ってたもん。本当に俺一人の迎えに。本当にありがたかったね、頭が下がった。あん時は。

降りてきて、鍵屋旅館で少し休ませてもらって、そんな時この檜枝岐にブルドーザーが一台あったから。それでこの道路を、村から5、6km下がったところ、内川〔南会津町内川〕に。そこまでブルドーザーが、ずーっと田んぼの中、下の方行って。そのあと、村の役場にジープが一台あったのさ。それに俺乗っけてもらって。今日の夕方折って、病院につい

---

<sup>(237)</sup> 2022年11月2日橋タツコ・平野カツヨ・平野幸子・星チヨセさんより聞き書き

たの明日の夕方くらいだったですよ。24時間くらいかかって〔送ってもらった〕。

そうして看護婦たちに、ロープつけてここ引っ張ってもらって。ほんとな、あんな痛い思いしたことないね。ほんとに痛かった。斜めに折れてた。スキーで折ると必ず複雑骨折になるらしいです。今は機械で引っ張るらしいけど。むかしそういう手術のやり方ができないから、医者が骨をつめて、そしてそこ包帯してそのまま、砂袋両脇さ置いて、もう1か月くらい動かないようにする。生きてんだから、動かないわけにいかないよね<sup>(238)</sup>。

スキーと油 俺たち、子どものころスキーやるのにも、クマの油なんかスキーさ塗って、そして滑りましたよ。ロウとかそういうのは、買ってもらえないこともあったから。クマの油は滑らないですよ、滑りが悪いですよ。雪はつかないんだけど、絶対つかないですよ。ただ、滑りにくい。ロウなんかのほうが、すごく滑った<sup>(239)</sup>。

#### 4. その他

ビンと手紙（A-11-30） 田浦さん、会津田島の金物屋さんですね。今も、田浦商店ってあるけど、これ違うのかな。今でも田浦って金物屋さんあるんで、それだと思ふな。田島町上町って。うん今は新しいところになって、田浦は田島の駅の近くに。

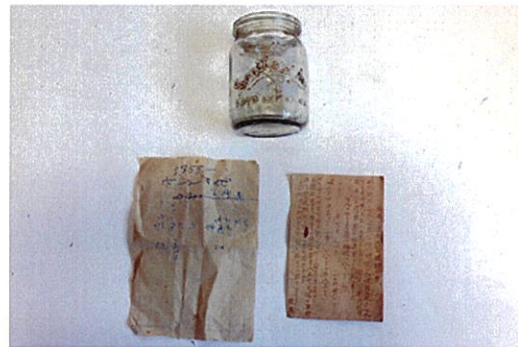


写真 6-4: A-11-30

ナメコか…、ナメコの缶詰は、〔檜枝岐村では〕あんまりはやんなかったからね。ナメコ缶詰、俺たちが知ってるのは、星数三郎さん家やってたけどな。あと農協さんがやってたし。瓶詰やってたっていえばね、あと誰やってたかな。2~3人はやってたと思うんだけど。

俺たち子どものころは、農協さんでかなりやってましたね。あの頃は缶詰だったね、このビン詰じゃなく。どっちが後だろう。ビンも缶もやってたのかな、農協さんが、大体缶詰だったな。

8月でナメコだったら早いな。ナメコ早くって、8月末から9月ころだから。で盛んになるのが9月末から10月だな<sup>(240)</sup>。

<sup>(238)</sup> 2022年7月1日平野励さんより聞き

<sup>(239)</sup> 2022年7月1日平野励さんより聞き

<sup>(240)</sup> 2022年7月1日星長一さんより聞き



手紙の記載内容 (A-11-30)

このはがきは、昭和23年7月に会津若松市の山新商店より、星数三郎氏・星善一氏に宛てられたものである。

「今年の「なめこ」は缶詰に!!

拝啓 昨年はなめこの最盛期で皆様に御披露できませんでしたが、更生缶が出来ましたので、当方で製造使用致しました所、非常に結果良く御座いました。

“なんと云っても缶詰は歓迎されます”

七号缶 一箇蓋付 一三・〇〇 (二打箱入)

同右ホームシーマー用チャック 一箇 七八〇・〇〇乃至八〇〇・〇〇

七月中に注文御願ひ致します (但チャックの方)

各製造家より非常に注文が有り、八月十日迄に予約承り製造期前に到着させて頂きます  
先は折返し御注文を御待ち致して居ります

敬具」

山での遭難 最近もありましたよ。レスキュー隊が、赤い自動車サイレン鳴らしながら、通りました。尾瀬の方なんか、遭難すればもうすぐだ。死亡事故にでもなれば、新聞出るわ。そうじゃないと出ないんですよ。ヘリコプター飛んでも、ほとんど出ないですよ。遭難は毎年何回かあるよ、燧ヶ岳では。

村の人たちが山を伐りにいく途中で、遭難することは100%ないね。私ら知らない。遭難したなんていうことは。そんな遠くまで行かないから。吹雪はあるけど、あんま遠く行かないと、その登って行ったところ戻ってれば〔大丈夫〕<sup>(241)</sup>。

雪崩 雪崩は落ちますよ。この向かいも、今は見えないけど、鉄骨で流れ止めいっぱい作ってあるから。今は来ないですよ。むかしは来ましたよ、向かいの沢なんかは。ここから見える、あの沢もきたことあるんですよ、表層雪崩くると、もうでかい林、スギでもカラマツでもみんな倒すから。

その時によって、冬になると雪が降って、緩んで。緩むというか、雪が固まったところに、新雪が降ると、表層雪崩危ないんですよ。こっちではむかしの言葉でいうと、表層雪崩のことを、ボホと言ってたんですよ。この辺の地言葉で。ボホっては、早く来るからだと思えますけど<sup>(242)</sup>。

檜枝岐言葉① [檜枝岐村の言葉は] 綺麗な感じがすると言われる。まあ村は濁りが無い

<sup>(241)</sup> 2022年7月1日平野励さんより聞き書き

<sup>(242)</sup> 2022年7月1日平野励さんより聞き書き

からね。私たちは、ふだんは本当の檜枝岐の言葉喋る。「わけんなしくでえ」言葉も使うだか。「わけんなし」って、わかんないでしょ。「わけんなし」って、すごーいという意味。すごい、ということです。「わけんなしくどかった」というは、とても難しいことだ。

フキノトウは、マグサプロウと言うです。おれげ〔チヨセ〕のお客は、おれがあのおぢちゃんのところだ、こっちにあるマグサプロウというのがあるかあ早く来てと言ったら、ほしたら駆けてきて、まあなんのことだかてんでわからなかったってや。マグサプロウだもの…。

身体の弱いことはヤクザと言うわけ。でもヤクザと聞けばおかしいでしょ？身体の弱い人。ヤクザだと言ったら、大事だもんな。温泉なんか行くと貼り紙があるけど、私たちのヤクザとは違うわけだな<sup>(243)</sup>。

檜枝岐言葉②〔檜枝岐村の地名について語っている際に〕大畑はウーバタっていうから。〔見通りは〕むかしからミズーリっていう。檜枝岐の言葉は、それがはっきりしているから、おかしいよね。ズーズー弁でなく、見通りもミズーリって。濁点が少ないな。大畑もウーバタって言う<sup>(244)</sup>。

---

<sup>(243)</sup> 2022年11月2日橋タツコ・平野カツヨ・平野幸子・星チヨセさんより聞き

<sup>(244)</sup> 2022年11月2日橋タツコ・平野カツヨ・平野幸子・星チヨセさんより聞き



## おわりに

本稿では、檜枝岐村の民具資料の調査から、かつてこの地域において、どのような生活が営まれていたのかを明らかにしようと試みてきた。

コロナ禍という特殊な環境下で、民具整理に取り組むこととなった私たちは、今回200点を超える資料を整理することとなった。その内訳は、生活用具25点、山樵用具65点、狩猟・漁撈用具12点、大工・屋根葺き・馬具用具32点、ヘラ・シャクシ用具86点、運搬・遊戯具など8点の、計228点であった。

記年銘がある民具は12点で、葉書1点を含んでいる。もっとも古いものは道具箱(B21-2)で、明治15(1882)年の墨書きがあった。明治・大正期のものとしてヒラセン(A9-16)・明治28(1895)年、メービキ(C-10)・明治34(1901)年、馬の荷鞍の型(C-4、5)・大正元(1912)年と記されているものが確認できた。つぎに昭和戦前期のものとして、ノコギリ(C-24)・昭和12(1937)年、メービキ(C-11)・昭和15(1940)年、道具箱(A-9-2)・昭和18(1943)年があった。戦後のものは、葉書(A-11-30)・昭和23(1948)年、マドノコ(A-2)・昭和29(1954)年、マドノコ(C-17)・昭和32(1957)年、マドノコ(A-8)・昭和36(1961)年と続いていた。年号の明らかなものは少ないが、今回整理した資料は、明治から昭和30年代までの資料が中心であると考えられる。

これらの民具資料から、この村の先人たちが厳しい自然資源を利活用しながら、生計を立ててきた事実を、あらためてうかがい知ることができた。自然に向き合いながら、小さな生業をいくつも興してきた。木材の伐採、ヘラ・シャクシ生産、狩猟、河川漁撈、大工仕事、屋根葺き仕事、馬具の製造と運輸などは、その実例である。つまり、ここで整理してきた民具は、檜枝岐村にあって、豊かに生きるために欠かすことのできない道具類であった。

調査を進めるなかで、「むかしは、色んな道具があったんだな」と感想をもらした方がおられた。あるいはまた、「[見た資料は]みんな家にあっただもん、無くしてしまったな。家なんか片したから。マドノコもあれも全部あったけどな…」という語りもあった。民具との対面は、村のみなさんにとっても、かつての暮らしを懐古するだけではなかったように私には感じられた。厳しい環境のなかでも豊かに暮らそうとした、先人たちへの尊敬の念があらわれているようであった。

語りからも浮かび上がってきたように、先人たちが興した小さな生業は、いま消えつつある。たしかに、すでに時代に合わなくなった生業もないわけではない。だが、多くの観光客が訪れる村で、言い換えれば、地域文化が観光資源となるこの村で、これらの文化的な資源を活かすことができない現状は歯がゆいものがある。現在の檜枝岐村は、尾瀬国立公園を中心に、環境保全を求められる村でもある。私自身も環境保全に関心をもつ一人であるが、環境保全に熱心になるあまり原木伐採ができなくなり、地域の文化が消えてゆく

のは、あまりに残念である。

現在、檜枝岐村歴史民俗資料館には、2,001点の資料が保管されている。ここには、通常は民具に含まれない、村民から提供のあった図書など書籍資料も含まれている。こうしたものを除いて、いわゆる民具に該当する資料は1,417点である。今回の調査では、200点を超える民具を確認することができた。小さな一歩にすぎないが、これまで収集されてきた数を考えると、たしかな一歩でもあろう。

今回、得られた資料によって村に残された貴重な民具資料を、さらに充実させることができた。これらを保存するだけでなく、村史編さんや博物館展示を通じて利活用し、小さな村の持続的な発展に寄与していきたいと考えている。



## 引用文献一覧

- 池田哲夫・飯島康夫編、2016、『旧山古志村民俗資料館所蔵民俗資料目録』新潟大学災害・復興科学研究所被災者支援研究グループ
- 加藤幸治、2017、『復興キュレーション—語りのオーナーシップで作り伝える“くじらまち”』社会評論社
- 門田岳久、2022、「エスノグラフィと生成変化—宮本常一の民族誌的実践を事例としたそのエイジェンシーに関する分析」『立教大学観光学部紀要』(24)
- 門田岳久・小西公大、2018、「フォト・エリシテーションを用いた教育と社会实践—宮本常一写真を通じた佐渡の開発／観光史研究から」『立教大学観光学部紀要』(20)
- 今野圓輔、1974(1951)、『檜枝岐村民俗誌—福島県南会津郡檜枝岐村』刀江書院(のちに『日本民俗誌大系第9巻東北』角川書店所収)
- 菅野康二、1977、「会津地方における草屋根葺き職人(茅手)の出稼ぎ—南会津地方と西会津地方の比較」『人文地理』29(3)
- 佐々木長生、1983、「会津のツルカンジキとカメカンジキ」『雪と生活』(3)
- 、2015、「会津・只見の民具」神奈川大学国際常民文化研究機構編『(国際常民文化研究叢書9)民具の名称に関する基礎的研究』
- 志村俊司、1984、『山人の賦Ⅰ 尾瀬・奥只見の猟師とケモノたち—平野惣吉』白日社
- 、1985、『山人の賦Ⅱ 尾瀬に生きた最後の猟師—平野與三郎』白日社
- 、1988、『山人の賦Ⅲ 檜枝岐・山に生きる—平野福朔・平野勘三郎』白日社
- 須藤護 1980「出作りの村—福島県檜枝岐」『あるくみるさく』(156)
- 、1990「山村の生活を支えた民具の体系」『歴史と民俗』(6)平凡社
- 、1993「山村と漁村」木村礎編『(日本村落史講座3) 景観2 近世・近現代』雄山閣出版
- 須藤護・鈴木清、1980、「中付驚者」『(奥会津地方歴史民俗資料館シリーズ) 奥会津地方の山村生産用具〔I〕田島町民具研究会』
- 只見町史編さん委員会編、1992、『(只見町史資料集第1集) 図説会津只見の民具』只見町
- 早川孝太郎、1939、「福島県南会津郡檜枝岐村探訪記」『民族学研究』5(5)(のちに、川崎隆章編、1978、『尾瀬と檜枝岐』木耳社所収)
- 檜枝岐村、1970、『檜枝岐村史』檜枝岐村
- 、2017、『檜枝岐村百年の歩み』檜枝岐村
- 細井敬介、1980、「杓子」『(奥会津地方歴史民俗資料館シリーズ) 奥会津地方の山村生産用具〔I〕田島町民具研究会』
- 山口弥一郎、1964、「会津檜枝岐村民俗誌」『福島県史第23巻各論編9 民俗1』福島県

資料目録

資料番号	資料名	数	寸法 (cm)	写真	分類	状態	家印所有者	銘・墨書き等
A 1	ノコギリ・サヤ	1	長さ 101.0, 幅 29.5/ 長さ 95.9, 幅 7.3	2-14	2 (3) B	刃欠け サヤ割れ	駒籠亭	刃: 会津住 ざ 中屋雄右衛門 (花押) サヤ: 奥会津檜枝岐村駒籠亭光庵用/安全第一 注意と能率向上
A 2	マドノコ・サヤ	1	長さ 95.2, 幅 29.1/ 長さ 86.6, 幅 6.4	2-18	2 (3) B	サヤ割れ	星郁文	刃: 会津住 中屋義栄作 義 かけ合 サヤ: 奥会津檜枝岐 星郁文/山中安全 昭和廿九年三月吉日調度/ (印) の焼印
A 3	ノコギリ・サヤ	1	長さ 97.6, 幅 31.4/ 長さ 87.0, 幅 5.9	2-15	2 (3) B	サヤ割れ		刃: 会津住 ざ 中屋雄右衛門 (花押) 日本一 サヤ: 常在戦場 □ 鞆因 [ ] / (印) の焼印 / 皇紀 [ ]
A 4	ノコギリ・サヤ	1	長さ 85.4, 幅 31.2/ 長さ 75.0, 幅 5.0	2-16	2 (3) B			刃: 会津住 ざ 中屋雄右衛門 (花押) 日本一
A 5	ノコギリ	1	長さ 87.8, 幅 26.4	2-6	2 (3) B		舎	刃: 特撰 第三回全国特産品博覧會 金牌受領 印土佐片地 [ ] / 登録商標 片千 土佐 舎 楓改 / 柄: 舎
A 6	カギサマ [自在鉤]	1	長さ 145.9, 幅 25.4	1-18	1 (3) A			
A 7	屋根バサミ	1	長さ 79.6, 幅 20.3	4-23	2 (8) B			刃: 保険 清正 菊花紋 (十六葉一重菊)
A 8	マドノコ・サヤ	1	長さ 94.6, 幅 31.4/ 長さ 86.6, 幅 5.5	2-19	2 (3) B		星武則	刃: 登録商標 日本一 中屋重兵衛 (花押) 會津住 / サヤ: 山業安全 星武則 / 昭和三十六年九月吉日作之
A 9-1	道具箱	1	長さ 60.0, 幅 24.0	5-67	2 (8) C		星武則	箱: 必勝之信念 国民総動員 武運長久 / 星武則 国を思ふ道に二ツはなかりけり 戦の庭に立つも立たぬも
A 9-2	道具箱のフタ	1	長さ 47.2, 幅 21.8	5-66	2 (8) C		星芳吉・ 平野保友	昭和十八年師走吉祥日 御山箱 製造人 星芳吉一・平野保友 十七・十六才處有/山業安全 手足萬 (満) 足
A 9-3	マメジャクシ用マルエゼン	1	長さ 45.0, 幅 6.5	—	2 (8) C			
A 9-4	エケズリセン (ヘラ用)	1	長さ 39.9, 幅 4.9	5-20	2 (8) C			刃: [登録] 重道 (花押)
A 9-5	ヒラセン	1	長さ 49.3, 幅 10.5	5-4	2 (8) C			刃: 特製 登録 重道 (花押) / 重道
A 9-6	ヒラセン	1	長さ 50.8, 幅 9.0	5-5	2 (8) C			刃: 重道 (花押) / 登録 重道
A 9-7	ヒラセン (刃のみ)	1	刃長さ 48.3, 刃幅 4.7	—	2 (8) C	柄なし		刃: 特製 登録 重道 (花押) / 登録 商標 重道
A 9-8	クマヤリ (槍先のみ)	1	刃長さ 36.9, 刃幅 3.2	3-6	2 (5) A	柄なし		千葉之城藤原吉晴之作
A 9-9	エケズリセン (ヘラ用)	1	長さ 41.0, 幅 5.7	5-21	2 (8) C			
A 9-10	ヒラセン	1	長さ 49.2, 幅 12.2	5-6	2 (8) C			刃: 登録 商標 重道 / 特製 登録 重道 (花押)
A 9-11	ヒラセン (刃のみ)	1	刃長さ 49.2, 刃幅 4.8	—	2 (8) C	柄なし		刃: 特製 登録 重道 (花押) / 登録商標 重道
A 9-12	エケズリセン (ヘラ用)	1	長さ 38.7, 幅 8.0	5-22	2 (8) C			刃: 特製 登録 重道 (花押)
A 9-13	ナタ・サヤ	1	長さ 37.4, 幅 6.7	5-41	2 (8) C			刃: 長光
A 9-14	カナヤ	1	長さ 9.3, 幅 3.3	—	2 (3) B			



A 9-15	ドウヅキノコの胴	1	長さ 48.6, 幅 1.3	—	2 (8) C					
A 9-16	ヒラセン (両刃)	1	長さ 49.6, 幅 4.0	5-26	2 (8) C				刃: 明治廿八年 [二月カ]	
A 9-17	ヒラセン	1	長さ 48.6, 幅 13.0	5-7	2 (8) C				刃: 登録 重道 (花押) / 登録 商標 重道	
A 9-18	ヒラセン	1	長さ 51.6, 幅 9.6	5-8	2 (8) C				刃: 特製 登録 重道 (花押) / 登録 商標 重道	
A 9-19	ヒラセン	1	長さ 49.8, 幅 9.6	5-9	2 (8) C				刃: 特製 登録 重道 (花押) / 登録 商標 重道	
A 9-20	ヒラセン	1	長さ 52.4, 幅 10.5	5-10	2 (8) C				刃: 登録 重道 (花押) / 登録 商標 重道	
A 9-21	ヒラセン (刃のみ)	1	刃長さ 36.3, 刃幅 3.6	—	2 (8) C		柄なし、なかご錆・折れ		刃: 特製 登録 重道 (花押) / 重道	
A 9-22	ヒラセン (刃のみ)	1	刃長さ 39.2, 刃幅 4.0	5-18	2 (8) C		柄なし、なかご錆		刃: 登録 重道 (花押) / 重道	
A 9-23	ヒラセン (刃のみ)	1	刃長さ 38.2, 刃幅 3.5	—	2 (8) C		柄なし、なかご錆		刃: 特製 登録 重道 (花押) / 登録 商標 重道	
A 9-24	エケズリセン (ヘラ用)	1	長さ 40.5, 幅 7.2	5-23	2 (8) C				刃: 登録 重道 (花押)	
A 10-1	道具箱	1	長さ 48.0, 幅 25.2	5-68	2 (8) C		虫食いあり			
A 10-2	道具箱のフタ	1	長さ 47.0, 幅 25.0	5-68	2 (8) C		鉛筆書き (計算) あり			
A 10-3	カンナ	1	長さ 12.1, 幅 8.5	5-64	2 (8) C				刃: 有功 東洋一 保険 / 登録 商標 印	
A 10-4	両刃ノコギリ	1	長さ 43.0, 幅 7.3	5-3	2 (8) C				刃: 中屋庄兵衛	
A 10-5	カンナ	1	長さ 26.4, 幅 6.9	5-63	2 (8) C				刃: 重道 (花押)	
A 10-6	エグリセン	1	長さ 31.5, 幅 16.0	5-48	2 (8) C				刃: 登録 重道 (花押)	
A 10-7	エグリセン	1	長さ 33.3, 幅 16.6	5-49	2 (8) C					
A 10-8	ナタのサヤ	1	長さ 23.5, 幅 9.5	—	2 (8) C		A-10-10 とセット、欠損			
A 10-9	ソリガンナ [反鉋]	1	長さ 14.2, 幅 3.3	5-65	2 (8) C				台: (㊦) 會津 萬屋 丙又の焼印	
A 10-10	メービキナタ	1	長さ 35.0, 幅 9.4	5-31	2 (8) C		A-10-8 とセット		刃: 重則 / 金牌 保険	
A 10-11	フリナタ	1	長さ 32.5, 幅 5.4	5-1	2 (8) C				刃: 秀直	
A 10-12	フリナタ	1	長さ 29.0, 幅 4.5	5-2	2 (8) C				[ ] (判読不能)	
A 11-1	大工道具箱	1	長さ 72.0, 幅 25.0	4-8	2 (8) A				箱底: [ ] (判読不能)	
A 11-2	大工道具箱のフタ	1	長さ 64.0, 幅 25.9	4-8	2 (8) A				余	
A 11-3	ガガリ [ガガリ鋸]・サヤ	1	長さ 45.4, 幅 13.6/ 長さ 36.4, 幅 3.8	4-14	2 (8) A				余	
A 11-4	ノコギリ [鴨居挽鋸]・サヤ	1	長さ 51.0, 幅 8.5/ 長さ 21.9, 幅 1.8	4-11	2 (8) A					
A 11-5	チョウナ [手斧]	1	長さ 57.6, 幅 25.0	4-21	2 (8) A				刃: 三つ星紋 長 [重房] / 余	
A 11-6	ノコギリの柄	1	—	4-12	2 (8) A		刃は A-11-8			
A 11-7	カンナ	1	長さ 26.6, 幅 5.7	4-1	2 (8) A					

A 11-8	ノコギリ (刃のみ)・サヤ	1	刃と柄を合わせて 長さ 60.6, 幅 10.5/ 長さ 34.0, 幅 3.3	4-12	2 (8) A	柄は A-11-6		刃: 保険 牛山猶勝 (花押)
A 11-9	ニチョウガンナ [二丁鉋]	1	長さ 26.6, 幅 6.5	4-4	2 (8) A			刃に: 重道
A 11-10	ミゾキリカンナ	1	長さ 26.0, 幅 2.8	4-5	2 (8) A			
A 11-11	カンナ	1	長さ 26.5, 幅 7.5	4-2	2 (8) A		余	刃: 登録 正家 商標 余
A 11-12	ヒラセシ・サヤ	1	長さ 50.0, 幅 12.2/ 長さ 22.6, 幅 4.3	5-11	2 (8) C			刃: 登録 重道 (花押) / 登録商標 重道
A 11-13	カンナ	1	長さ 20.0, 幅 4.8	4-3	2 (8) A			刃: □□ (花押) / □□ □□
A 11-14	ミゾキリカンナ	1	長さ 25.6, 幅 2.6	4-6	2 (8) A			
A 11-15	ミゾキリカンナ	1	長さ 23.4, 幅 4.0	4-7	2 (8) A			
A 11-16	ノコギリ	1	長さ 41.6, 幅 13.4	4-9	2 (8) A		余	刃: 余
A 11-17	両刃ノコギリ・サヤ	1	長さ 47.8, 幅 6.6/ 長さ 22.0, 幅 1.7	4-13	2 (8) A		余	刃: 余
A 11-18	マルノミ・サヤ	1	長さ 20.6, 幅 4.7/ 長さ 10.1, 幅 6.0	5-58	2 (8) C	サヤ割れ		刃: 重房
A 11-19	マルノミ・サヤ	1	長さ 22.2, 幅 4.2/ 長さ 11.7, 幅 5.4	5-59	2 (8) C		余	刃: 重房 / 余
A 11-20	ユリハ [ユリノハ]	1	長さ 26.4, 幅 5.5	5-57	2 (8) C			
A 11-21	ノコギリ [鴨居挽鉋]・サヤ	1	長さ 29.0, 幅 4.8/ 長さ 13.5, 幅 1.5	4-10	2 (8) A	柄虫食い		
A 11-22	ツキノミ [突き鑿]	1	長さ 40.2, 幅 3.0	4-15	2 (8) A			刃: よし栄 (カ)
A 11-23	ノミ	1	長さ 18.8, 幅 2.5	4-17	2 (8) A			
A 11-24	ノミ	1	長さ 19.0, 幅 2.8	4-18	2 (8) A			刃: □秀
A 11-25	不明 (柄のみ)	1	柄長さ 13.2, 柄幅 1.5	—	2 (8) H	柄のみ		
A 11-26	ポート [ポート鉋]	1	長さ 46.2, 幅 3.0	4-22	2 (8) C/ F			一等賞 (カ) 製 6
A 11-27	不明 (金属製品)	1	長さ 5.9, 幅 1.0	—	—			
A 11-28	クサビ・カクゼン	1	長さ 6.5, 幅 0.9	4-19	2 (8) A			
A 11-29	クサビ・カクゼン	1	長さ 7.0, 幅 0.9	4-20	2 (8) A			
A 11-30	葉書・計算書と瓶	1	葉: 長さ 14.0, 幅 9.0/ 計: 長さ 17.7, 幅 12.2/ 瓶: 長さ 10.4, 幅 7.5	6-4	9A			葉書: 会津若松・山新商店より星数三郎・星善一氏宛 / 昭和 23 年 7 月 10 日消印 / 計算書: 田島町・田浦商店



B 1	ズー [サンシヨウウオオ漁]	1	長さ 73.0, 口径 24.8	3-3	2 (4) C			
B 2-1	ズー [サンシヨウウオオ漁]	1	長さ 84.8, 口径 30.0	3-4	2 (4) C			
B 2-2	ズー [サンシヨウウオオ漁]	1	長さ 71.0, 口径 25.0	—	2 (4) C			
B 3	ノコギリ・サヤ	1	長さ 57.8, 幅 17.6/ 長さ 48.2, 幅 3.6	2-7	2 (3) B	サヤ割れ		刃: 日本一 中屋重兵衛 (花押)
B 4	マドノコ・サヤ	1	長さ 72.2, 幅 19.8/ 長さ 61.4, 幅 6.9	2-20	2 (3) B		↑	刃: 会津若松 中屋善兵衛 (花押) 東郷ノ柄: ↓
B 5	ノコギリ	1	長さ 54.5, 幅 14.7	2-8	2 (3) B		Ⓢ	刃: 会津住 サ 中屋金右衛門 (花押) 大極上 柄: Ⓢ
B 6	マドノコ	1	長さ 71.4, 幅 19.1	—	2 (3) B	刃先割れ		刃: 登録 会津若松 中屋善兵衛作 安来
B 7	マドノコ・サヤ	1	長さ 73.0, 幅 20.4/ 長さ 66.0, 幅 5.0	2-21	2 (3) B	サヤ割れ	↑	刃: 登録 会津若松 中屋善兵衛作 安来/サヤ: ↓
B 8	ヨキ	1	長さ 96.2, 幅 26.2	2-2	2 (3) B			刃: 秀直
B 9	トビグチの柄	1	—	2-46	2 (3) C	刃は C-31-4		
B 10	道具立て	1	長さ 67.9, 幅 14.4	5-56	2 (8) C			
B 11	ドットコの柄	1	—	2-47	2 (3) C	刃は B-22-7		
B 12	マドノコ	1	長さ 95.7, 幅 29.0	2-22	2 (3) B			刃: 北海道の形に光 深川町 刃前接 平野/ 特製 日本一 中屋重兵衛 (花押) 会津住
B 13	マドノコ	1	長さ 104.0, 幅 28.2	2-23	2 (3) B		キ	刃: 特 1級/登録 会津若松 中屋善兵衛 東郷 キ
B 14	ガンタ	1	長さ 128.0, 幅 30.0	2-36	2 (3) C		↑	刃: Ⓢ 登録商標 士別 ガンタ/ 天塩國上川郡朝日町 Ⓢ 伊藤吉久 特撰ノ柄: ↓
B 15	マドノコ・サヤ	1	長さ 107.0, 幅 27.6/ 長さ 86.0, 幅 5.3	2-24	2 (3) B		平野富夫	サヤ: 南會津松枝村平野富夫所有/ 昭和 [三十年カ] □月吉 毎日日出度叶/ 刃: 登録商標 日本一 中屋重兵衛 (花押) 会津住
B 16	マドノコ・サヤ	1	長さ 99.0, 幅 38.2/ 長さ 85.4, 幅 6.6	—	2 (3) B		Ⓢ	刃: 北海道の形に光 深川町 刃前接 会津松 1級/ 十五才/日本一 中屋重兵衛 (花押) 会津 サヤ: 山梨繁昌日出度叶/大杉 砂小平 Ⓢノ柄: Ⓢ
B 17	シヨイコ (ムシロミノ)	1	長さ 62.0, 幅 25.0	6-1	3 (1) A		↑	ツメ: 箱/↑
B 18	カンジキ	1	右: 長さ 33.4, 幅 21.2 左: 長さ 33.0, 幅 22.0	1-7	1 (1) C			
B 19-1-1	木箱	1	長さ 30.5, 幅 22.4	—	9C			ラベル: 紀州本場みかん 紀州下津町引尾 Ⓢ 桜果
B 19-1-2	ノミ	1	長さ 22.2, 幅 2.9	4-16	2 (8) A			
B 19-1-3	チェーンソーの説明書	1	長さ 10.5, 幅 7.4	—	2 (3) F			STIHL
B 19-2	カンテラ	1	長さ 14.6, 幅 12.4	1-19	1 (3) C			TRADE=T.O.W=MARK

B 19-3	ヒラセン	1	長さ47.2, 幅9.0	5-12	2 (8) C			刃: 會津 登録 重道 (花押) / 重道
B 19-4	ヒラセン	1	長さ47.3, 幅9.5	5-13	2 (8) C			刃: 會津 登録 重道 (花押) / 重道
B 19-5	エケズリセン (ヘラ用)	1	長さ39.5, 幅6.5	5-24	2 (8) C			刃: 登録 重道
B 19-6	ヒラセン (刃のみ)	1	刃長さ36.5, 刃幅3.4	5-19	2 (8) C	柄なし、なかご折れ		刃: 重道
B 19-7	ヒラセン (刃のみ)	1	刃長さ32.0, 刃幅3.9	—	2 (8) C	柄なし、なかご折れ		刃: 登録 重道 (花押) / 重道
B 19-8	エケズリセン (ヘラ用)	1	長さ39.4, 幅7.2	5-25	2 (8) C			刃: 登録 重道 (花押)
B 19-9	ヒラセン	1	長さ49.0, 幅7.6	5-14	2 (8) C			刃: 登録 重道 (花押) / 重道
B 19-10	ヒラセン	1	長さ50.4, 幅7.7	—	2 (8) C	左柄なし		刃: 會津 登録 重房 □□元祖□□ / 重房 (鏡文字)
B 19-11	ヒラセン	1	長さ58.3, 幅8.5	5-15	2 (8) C			刃: 特製 登録 重道 (花押) / 登録商標 重道
B 19-12	キザミナタ (刃のみ)	1	刃長さ37.6, 刃幅9.5	—	2 (8) C	柄なし		刃: 重利
B 19-13	ヒラセン	1	長さ52.4, 幅7.0	—	2 (8) C	左柄なし		刃: 特製 登録 重道 (花押) / 重道
B 19-14	チンチョ	2	長さ15.4, 幅6.9, 全長74.8	2-43	2 (3) C	紐あり		
B 19-15	チンチョ	2	長さ15.0, 幅6.3, 全長65.4	2-44	2 (3) C	紐あり		
B 19-16	マンリキ	1	長さ14.2, 幅7.0, 全長36.0	—	2 (3) C	紐あり		
B 19-17	カナアシ (カナカンジキ)	1	長さ11.7, 幅6.3	1-16	1 (1) C	紐あり		
B 19-18	カナアシ (カナカンジキ)	1	長さ10.5, 幅6.3	1-17	1 (1) C	紐あり		
B 19-19	カナアシ (カナカンジキ)	1	長さ15.8, 幅9.9	1-11	1 (1) C	B-19-26とセット、紐あり		
B 19-20	カナアシ用ヒモ	1	全長201.5	—	1 (1) C			
B 19-21	カナアシ用ヒモ	1	全長195.0	—	1 (1) C			
B 19-22	杓子の型	1	長さ32.4, 幅12.6	5-34	2 (8) C			
B 19-23	杓子の型	1	長さ29.2, 幅12.0	5-35	2 (8) C			
B 19-24	杓子の型 (柄なし)	1	長さ12.3, 幅8.2	5-32	2 (8) C			
B 19-25	杓子の型 (柄なし)	1	長さ12.5, 幅8.6	5-33	2 (8) C			
B 19-26	カナアシ (カナカンジキ)	1	長さ15.7, 幅9.7	1-11	1 (1) C	B-19-19とセット、紐あり		
B 19-27	カナアシ (カナカンジキ)	1	長さ15.4, 幅10.1	1-10	1 (1) C			
B 19-28	ヒラセン	1	長さ57.0, 幅8.5	—	2 (8) C	右柄なし		刃: 特製 登録 重道 (花押) / 登録 商標 重道
B 19-29	フリナタ	1	長さ29.1, 幅5.0	—	2 (8) C			約30mm間隔の刻みがあり
B 19-30	マンリキ	1	長さ15.4, 幅6.6, 全長35.0	—	2 (3) C	紐あり		
B 19-31	エグリセン (刃のみ)	1	刃長さ31.4, 刃幅13.2	—	2 (8) C	柄なし		刃: 登録 重道 (花押)
B 19-32	エグリセン (刃のみ)	1	刃長さ33.3, 刃幅12.8	—	2 (8) C	柄なし		刃: 登録 重道 (花押)
B 19-33	エグリセン	1	長さ28.6, 幅14.0	—	2 (8) C	右柄なし		刃: □ (登) 録 重道



		Sun Tiger SHARPENING STONE NO.500 朝日虎印金剛砥石				
B 19-34	砥石の箱(箱のみ)	1	長さ22.0, 幅6.0	—	2 (3) F	
B 20-1	道具箱	1	長さ70.8, 幅29.3	5-69	2 (8) C	
B 20-2	道具箱のフタ	1	長さ70.8, 幅29.0	5-69	2 (8) C	
B 20-3	キザミナタ	1	長さ38.0, 幅9.3	5-36	2 (8) C	刃: 重利
B 20-4	エグリゼン	1	長さ34.2, 幅15.7	5-50	2 (8) C	刃: 登録 重道(花押)
B 20-5	カナアシ(カナカンジキ)	1	長さ18.5, 幅10.8	1-13	1 (1) C	
B 20-6	メービキナタ	1	長さ33.4, 幅10.7	5-27	2 (8) C	刃: 重利/重利
B 20-7	エグリゼン	1	長さ35.0, 幅16.6	5-51	2 (8) C	刃: □(登録) 重道(花押)
B 20-8	キザミナタ	1	長さ37.0, 幅9.2	5-37	2 (8) C	刃: 登録 重道(花押)/登録商標 重道
B 20-9	キザミナタ	1	長さ37.6, 幅8.9	5-38	2 (8) C	刃: 登録 重道(花押)/登録商標 重道
B 20-10	メービキナタ	1	長さ34.7, 幅10.5	5-28	2 (8) C	刃: 特製 登録 重道(花押)/登録商標 重道
B 20-11	キザミナタ	1	長さ38.4, 幅9.2	5-39	2 (8) C	刃: 重利
B 20-12	カンナ	1	長さ27.3, 幅9.3	5-60	2 (8) C	刃: 登録商標 竜弘
B 20-13	カンナ	1	長さ28.7, 幅7.8	5-61	2 (8) C	重道(花押)
B 20-14	カンナ(台のみ)	1	長さ27.2, 幅8.0	5-62	2 (8) C	65 mm
B 20-15	不明(木製品)	1	長さ23.8, 幅4.9/ 長さ20.6, 幅5.8	—	—	紐あり
B 20-16	ヒラゼン	1	長さ55.3, 幅5.8	5-16	2 (8) C	刃: 登録商標 重道/特製 登録 重道(花押)
B 20-17	マルエゼン・マルゼン	1	長さ44.1, 幅10.2	5-42	2 (8) C	刃: 登録 重道/特□(製) 登録 重道(花押)
B 20-18	マルエゼン・マルゼン	1	長さ46.0, 幅7.0	5-43	2 (8) C	刃: 重道/會津 登録 重道(花押)
B 20-19	エグリゼン	1	長さ36.6, 幅16.6	—	2 (8) C	刃: 登録 重道(花押)
B 20-20	不明(木片)	1	長さ10.6, 幅8.4	—	2 (8) C	柄に削った跡あり
B 20-21	カナヤ	2	長さ9.5, 幅4.4, 全長39.2	2-33	2 (3) B	柄に削った跡あり
B 20-22	デバ	1	長さ33.9, 幅5.0	5-44	2 (8) C	柄に削った跡あり
B 20-23-1	ノコギリのケース(ビニール)	1	長さ37.6, 幅8.6	—	2 (3) F	刃: 登録 重道/特製 登録 重道(花押) 特選シルキー本職用刃定鋸210 mm
B 20-23-2	ヤスリ	1	長さ26.0, 幅2.4	2-30	2 (3) B	
B 20-23-3	ヤスリ(刃のみ)	1	刃長さ17.0, 刃幅2.4	—	2 (3) B	柄なし、欠けあり
B 21-1	道具箱	1	長さ69.0, 幅36.0	5-70	2 (8) C	
B 21-2	道具箱のフタ	1	長さ69.0, 幅28.0	5-71	2 (8) C	明治十五年十月吉日 持主 二三郎 年十七才
B 21-3	ヒラゼン	1	長さ54.8, 幅7.1	5-17	2 (8) C	刃: 會津登録重房/重房

B	21-4	デバ	1	長さ 34.6, 幅 5.9	5-45	2 (8) C			刃: 重利
B	21-5	メービキナタ	1	長さ 34.6, 幅 10.3	5-29	2 (8) C			刃: 重利
B	21-6	デバ	1	長さ 33.8, 幅 5.4	5-46	2 (8) C			刃: 元祖登録重房/登録 重房
B	21-7	キザミナタ	1	長さ 38.5, 幅 8.9	5-40	2 (8) C			刃: 登録 重道 (花押) / 登録商標 重道
B	21-8	メービキナタ	1	長さ 35.8, 幅 9.2	5-30	2 (8) C			刃: 重利
B	21-9	デバ	1	長さ 31.5, 幅 5.5	5-47	2 (8) C	柄に削った跡あり		刃: 登録 重道 (花押) / 登録商標 重道
B	21-10	エグリセン	1	長さ 32.0, 幅 14.6	5-52	2 (8) C	柄に針金あり		刃: 登録 重道
B	21-11	エグリセン	1	長さ 31.4, 幅 15.0	5-53	2 (8) C			刃: 登録 重道
B	21-12	エグリセン	1	長さ 37.8, 幅 19.0	5-54	2 (8) C			刃: 登録 重道 (花押)
B	21-13	エグリセン	1	長さ 35.2, 幅 15.3	5-55	2 (8) C			刃: 登録 重道 (花押)
B	21-14	鎌のケース (ビニール製)	1	長さ 23.6, 幅 8.6	—	2 (3) G			
B	22-1	マンリキ	2	長さ 15.2, 幅 6.5, 全長 74.6	2-42	2 (3) C	紐あり		
B	22-2	コシナタ	1	長さ 38.4, 幅 5.6	2-1	2 (3) B		カネー	カネー
B	22-3	カナヅチ	1	長さ 28.2, 幅 10.5	—	2 (8) A		カネー	柄: 金属マルキ MARUKI / 1 #
B	22-4	ヤスリ	1	長さ 33.8, 幅 2.8	2-31	2 (3) B			
B	22-5	カスゲー	1	長さ 39.3, 幅 9.8	2-38	2 (3) C			
B	22-6	カスゲー	1	長さ 34.6, 幅 10.0	2-39	2 (3) C			
B	22-7	ドットコ	1	刃と柄合わせて 長さ 165.3, 幅 25.4	2-47	2 (3) C	柄は B-11		刃: 札幌市北二八東一 ④ 後藤吉久 極上/ 登録商標 日本一上別巻 200
B	22-8	ハサミ (両バネ)	1	長さ 43.0, 幅 14.0	3-11	2 (5) A			VICTOR PAT.PEC.16.02 MAY.28.07 3 MADE IN U.S.A. ONEIDA COMMUNITY
B	22-9	カナアシ (カナカンジキ)	1	—	1-14	1 (1) C	B-22-11 とセット		
B	22-10	ハサミ	1	長さ 24.0, 幅 10.9	3-8	2 (5) A			BEST TRAP K のなかに S 11/2
B	22-11	カナアシ (カナカンジキ)	1	長さ 10.2, 幅 12.0	1-14	1 (1) C	B-22-9 とセット		
B	22-12	ハサミ	1	長さ 24.0, 幅 11.6	3-9	2 (5) A			BEST TRAP K のなかに S 11/2
B	22-13	ハサミ	1	長さ 25.8, 幅 11.6	3-10	2 (5) A			GUMA TRAP 11/2
B	22-14	カナアシ (カナカンジキ)	2	長さ 5.7, 幅 9.0	1-15	1 (1) C			ビニールテープが巻かれている
B	22-15	チンチョ	1	長さ 15.1, 幅 6.9, 全長 41.5	2-45	2 (3) C			
B	22-16	チンチョのヒモ	1	全長 107.9	—	2 (3) C			ナイロン製
C	1	馬の荷鞆の型	1	長さ 60.6, 幅 9.5	4-25	2 (8) H	C-2 とセット		まい まい / マイ中
C	2	馬の荷鞆の型	1	長さ 61.7, 幅 10.6	4-25	2 (8) H	C-1 とセット		あと あと / アト中



C	馬の荷鞍の型	長さ	幅	2 (8) H	C-5とセット	傳六	マイ/マイ まい
C 3	馬の荷鞍の型	長さ 61.0,	幅 9.4	—		傳六	まい 大正元年十月十九日 傳六七十一才
C 4	馬の荷鞍の型	長さ 61.4,	幅 9.7	4-26	C-5とセット	傳六	あと 大正元年十月十九日 傳六七十一才
C 5	馬の荷鞍の型	長さ 62.0,	幅 10.8	4-26	C-4とセット		
C 6	クマヤリ	長さ 218.0,	幅 3.5	3-5			
C 7	ソリ (子ども用)	長さ 69.0,	幅 25.0	6-3			
C 8	コシキ	長さ 90.0,	幅 17.7	1-20		傘	傘/傘
C 9	コシキ	長さ 104.0,	幅 25.5	1-21			
C 10	メービキ・サヤ	長さ 83.8,	幅 31.3/ 長さ 77.2,	2-34	サヤ割れ		刃: 鹿沼 九左衛門(カ)/サヤ: 福島縣岩代国 [ ] 星氏/ 明治卅四 [歳] 郎求之
C 11	メービキ (刃のみ)・サヤ	刃長さ 84.6,	刃幅 42.6/ 長さ 82.6,	2-35	柄なし		刃: 登録 商標 近江甲賀 天彦 和銅質 製 サヤ: 近江甲賀/皇紀二六〇〇年 [ ]
C 12	カジカヤス	長さ 108.0,	幅 5.0	3-1			
C 13	カジカヤス	長さ 106.0,	幅 4.5	3-2			
C 14	ヨキ	長さ 97.7,	幅 23.0	2-4	サビ		
C 15	チョウナ [手拵]	長さ 57.5,	幅 19.8	—	刃抜けやすい		刃: 三ツ星紋 [ ]
C 16	屋根バサミ	長さ 79.6,	幅 17.0	4-24			刃: 登録
C 17	マドノコ・サヤ	長さ 98.8,	幅 30.2/ 長さ 88.0,	2-25		橋完	刃: 登録商標 日本一 中屋重兵衛 (花押) 會津住/ サヤ: 福島縣南會津郡楳枝岐村志千裕武彦地/ 昭和三十三年九月新調橋完手足繁昌
C 18	マドノコ・サヤ	長さ 96.2,	幅 28.0/ 長さ 85.7,	2-26		山中	刃: 日本一 中屋重兵衛 (花押) 會津住 サヤ: 昭和三十 [十] 月] 吉日 山中
C 19	ノコギリ・サヤ	長さ 88.7,	幅 18.4/ 長さ 74.7,	2-9	サヤ割れ		刃: 第三回全國特産品博覽會 金牌受領 登録商標 片千 ヤマヨ楓改
C 20	ノコギリ・サヤ	長さ 81.0,	幅 18.4/ 長さ 64.5,	2-10	サヤ割れ		刃: [ ] 中屋口右衛門作請合
C 21	ノコギリ (刃のみ)	刃長さ 84.2,	刃幅 15.9	—	柄なし		
C 22	マドノコ・サヤ	長さ 97.4,	幅 20.0/ 長さ 86.7,	2-27			刃: 上等 會津住 中屋重兵衛作 (花押) / 商店別改うけ合 刃: 工業 土佐鋸 組合 土佐片上請合 (商) 特撰/ 特殊品 二八
C 23	ノコギリ・サヤ	長さ 96.8,	幅 26.5/ 長さ 85.0,	2-11	サヤ割れ		刃: 丸型の文様に鋸 銅牌 會津鋸組合製
C 24	ノコギリ・サヤ	長さ 86.6,	幅 26.1/ 長さ 75.4,	2-13		橋京一	刃: 關東国屋熊三郎 サヤ: 福島縣南會津郡楳枝岐村橋京一/昭和十二年旧十月吉日
C 25	ノコギリ・サヤ	長さ 97.3,	幅 29.2/ 長さ 85.0,	2-17	サヤ割れ		刃: 大極上等 會津若松住 中屋長兵衛 (花押)

C 26	マドノコ	1	長さ99.2, 幅31.5	2-28	2 (3) B			刃: 會津住 義 中屋義栄作 日本一東郷打
C 27	ノコギリ	1	長さ69.4, 幅18.4	2-12	2 (3) B			刃: 中屋重右衛門 (花押)
C 28	マドノコ	1	長さ98.0, 幅19.6	2-29	2 (3) B			刃: 會津住 中屋義栄作 日本一
C 29	ノコギリ (刃のみ)	1	刃長さ86.6, 刃幅20.6	—	2 (3) B	柄なし		刃: 大極上 會津中屋久右衛門 藤原重宗
C 30	ヨキ	1	長さ97.0, 幅19.1	2-5	2 (3) B			
C 31-1	カナアシ (カナカンジキ)	2	長さ15.5, 幅11.0/ 長さ15.0, 幅11.0	—	1 (1) C	紐あり		
C 31-2	キマワシ [木直し]	1	長さ44.2, 幅9.1	2-37	2 (3) C		モリー/台	刃: 丙又 モリー/台 [小十ヨー] (カ)
C 31-3	ヨキ (刃のみ)	1	刃長さ25.8, 刃幅9.8	2-3	2 (3) B	柄なし、刃に欠けあり		刃: 祐政/四二
C 31-4	トビグチ (樺トビ) (刃のみ)	1	刃と柄合わせて 長さ173.0, 幅23.6	2-46	2 (3) C	柄はB-9		刃: 札幌市北二八東一 (伊) 後藤吉久 特製品/ 登録商標 土別町 日本一 200
C 31-5	カナヤ	1	長さ10.3, 幅4.1, 全長69.0	2-32	2 (3) B	紐あり		
C 31-6	不明 (金属製品)	1	長さ17.9, 幅8.8	—	—	紐あり		
C 31-7	マンリキ	1	長さ13.4, 幅6.8, 全長50.4	—	2 (3) C	紐あり		
C 32	カンジキ	1	長さ24.6, 幅18.0	1-8	1 (1) C		台	ツメ: 台
C 33	マンリキ	1	長さ13.7, 幅7.8, 全長30.2	2-40	2 (3) C	紐あり		
C 34	マンリキ	1	長さ15.2, 幅7.7, 全長28.8	2-41	2 (3) C	紐あり		
C 35	カナアシ (カナカンジキ)	1	長さ14.4, 幅12.3	1-12	1 (1) C	紐あり		
D 1	カンジキ	1	右: 長さ29.0, 幅18.5 左: 長さ29.5, 幅18.5	1-9	1 (1) C		台	ツメ: 台
D 2	ワラグツ・ケツ	1	長さ27.0, 幅12.4	1-5	1 (1) C			
D 3	ワカグツ	1	長さ27.2, 幅11.0	1-6	1 (1) C			
D 4	ワラジ	1	右: 長さ29.0, 幅13.8 左: 長さ29.0, 幅14.0	1-3	1 (1) C			
D 5	ワラジ	1	右: 長さ30.0, 幅13.6 左: 長さ30.0, 幅14.0	1-4	1 (1) C			
D 6	テツカワ (テッコ)	1	右: 縦33.0, 横18.0 左: 縦34.0, 横16.0	1-1	1 (1) B			
D 7	タマイレ	1	長さ22.0, 幅12.5	3-7	2 (5) B	虫食いあり		
D 8	ツケミノ	1	丈93.0, 幅68.0	1-2	1 (1) B			
E 1	オオゾリ	1	長さ165.0, 幅71.0	6-2	3 (1) D	虫食いあり		



注1：この資料目録は2021-22 にかけて実施した民具調査によるものである。今後、さらなる整理作業を継続する予定のため、暫定目録である。

注2：資料番号冒頭の記号は、資料の保管場所に対応している。詳細は「はじめに」に記した。

注3：枝番号が付されているものは、箱に入れられるものとめられた資料群である。詳細は「はじめに」に詳述した。それ以外のものは、次の通りである。B-2のズーは重ねてめられたもの。B-19はフタのないみかん箱に入られた道具であり枝番号を付した。だが、初めからひとまとまりの資料群であるのか判断がつかないため、道具箱としてはカウントしなかった。B-22およびC-31は、それぞれ段ボールにまとめられていたため枝番号を付した。ただし、保管にあたってまとめられたものと推測される。

注4：整理前の段階で資料がバラバラになっっており、たとえば刃と柄のように異なる資料番号を付したものがあある。組み合わせが確認できたものについては、組み合わせて大きさを計測した。また点数を数える際に両者を合わせて1点とした。

注5：寸法は資料全体の長さ・幅を計測したものを記した。附属資料のうち、サヤは長さ・幅を計測した。また紐が付属するものは、長さ・幅にくわえ、紐も加えた全長も記した。

注6：写真は本文中の写真番号に対応している。

注7：分類は「はじめに」で記した通り、表1輪枝岐村民具分類表に対応した内容である。

注8：銘・墨書き欄では、判読不明な場合は□と「」で示した。□は文字数が確認できるケース、「」は文字数も不明確なケースである。また/は、資料の裏・表など異なる場所に書かれていることを示す。

## 檜枝岐の暮らしと民具（一）

—— 福島県南会津郡檜枝岐村における板倉保管資料の調査から ——

発行年月日 2023（令和5）年2月24日  
編 集 東北学院大学文学部歴史学科環境民俗学研究室  
（金子祥之・増藤雄大・庄司貴俊）  
発 行 東北学院大学学術研究会  
印 刷 所 笹氣出版印刷株式会社

※本報告書は、東北学院大学論集『歴史と文化』第68号に掲載されたものである。